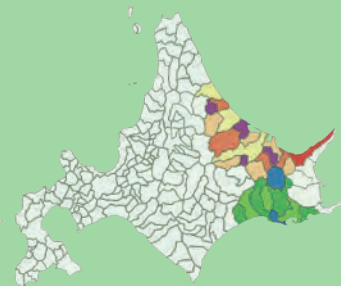


北海道の市と町と村を ご紹介

歴史・観光・食の情報

文中の URL 部分をクリックすると WEB が開きます



北方領土返還運動

を行っています



国土地理院電子地図より

くなしり
国後島

しこたん
色丹島

はぼまい
歯舞諸島

えとろふ
択捉島

バッジ頒布について

-1週間程度で発送します-

北方領土返還運動推進バッジ

- 「ブラウリボン」バッジ
- 「千島桜」バッジ



早期実現北海道新幹線バッジ



新幹線早期実現



バッジお申込方法 (QRコードを読んでください)

バッジ1組1,000円(1種類ごと4個一組)

1組ごとに、バッジの種類を明記のうえ、「1,000円分の切手」と「返信先を記入した120円切手を貼った返信封筒」を同封の上、下記住所へ郵送して下さい。(1組毎に返信用封筒が必要です。)

北海道倶楽部とは

北海道倶楽部は、昭和2年に新渡戸稲造博士等によって東京に設立された公益社団法人です。

北海道の健全な発展に寄与することを目的とし、北海道等のための広報活動、地域活性化事業の支援、北方領土返還運動、ふるさと納税等寄附の推進運動、北海道新幹線早期実現運動などの事業を行っています。

公益社団法人 北海道倶楽部

〒100-0014 東京都千代田区永田町2丁目17番17号 北海道東京事務所1階
TEL03-3581-4021 FAX03-3581-4022 <http://www.hokkaido-c.or.jp> hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp



北海道の市と町と村を ご紹介

目次

北海道
釧路総合振興局

くしろ 釧路市のご紹介 ……1

くしろ 釧路町のご紹介 ……5

あつけし 厚岸町のご紹介 ……9

はまなか 浜中町のご紹介 ……13

しべちや 標茶町のご紹介 ……17

てしかが 弟子屈町のご紹介 ……21

つるい 鶴居村のご紹介 ……25

しらぬか 白糖町のご紹介 ……29

北海道
オホーツク総合
振興局

えんがる 遠軽町のご紹介 ……33

おつむ 雄武町のご紹介 ……37

きたみ 北見市のご紹介 ……41

おこっぺ 興部町のご紹介 ……45

もんづつ 紋別市のご紹介 ……49

きよさと 清里町のご紹介 ……53

こしみず 小清水町のご紹介 ……57

くんねつぶ 訓子府町のご紹介 ……61

おけと 置戸町のご紹介 ……65

つべつ 津別町のご紹介 ……69

さろま 佐呂間町ご紹介 ……73

たぎのうえ 滝上町のご紹介 ……77

ゆうべつ 湧別町のご紹介 ……81

公益社団法人北海道倶楽部のご紹介 ……85

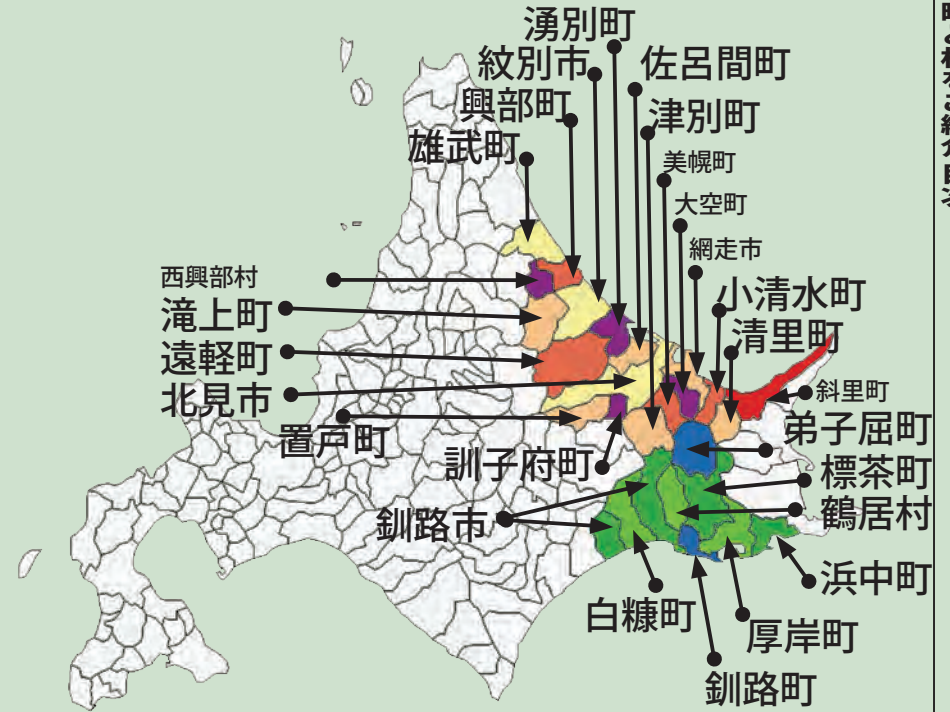
北海道倶楽部の入会申込書 ……86

イベント等は新型コロナウイルスの感染対策のため中止になっている場合があります。

2022年北海道“NOW”

掲載の21市町村

オホーツク総合振興局エリア内
エリア内の小文字の市町村は今回は未掲載です。



釧路総合振興局エリア内

この冊子「北海道の市と町と村をご紹介」は北海道情報紙の北海道倶楽部・北海道“NOW”（2022年12月号）の別冊として刊行しました。

今回掲載したまちは、北海道“NOW”の2022年1月～12月（2月は休刊）に掲載した21市町村のご紹介をすべて再録したものです。なお、再録に当たり情報を一部更新しました。

北海道開拓の歴史などに関しても記され、食や観光のみならず興味深い内容が含まれております。

記事は、北海道及び掲載市町村の方のお世話になっております。御礼申し上げます。有り難うございました。

公益社団法人北海道倶楽部

2022年12月1日

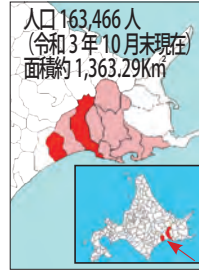
色丹島 2015年8月



釧路市とは

概要

2005年に釧路市・阿寒町・音別町が合併し、新生「釧路市」が誕生しました。北海道の東部、太平洋岸に位置しており、「釧路湿原」「阿寒摩周」の2つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれた街であり、ひがし北海道の中核・拠点都市として社会、経済文化の中心的な機能を担っています。



酪農を主力とする豊かな農業生産、豊富な森林資源を有する林業、そして国内有数の水揚げ量を誇る水産

業など、日本の食料基地といえる地域です。安全・安心で良質な食料の供給体制の形成に努めるとともに、この恵みを与えてくれる自然環境の保全や環境調和型の循環社会実現への取り組みを進めています。

釧路市には、大規模な食品・製菓工場や製紙工場のほか、全国唯一の石炭鉱業所が操業しており地域の主力産業として地域経済の核となつていきます。これらの地域産業を支えているのが重要港湾釧路港や釧路空港であり、現在整備が進められている北海道横断自動車道（高速道路）の完成により今後、飛躍的に物流機能が高まるものと期待されています（2024年度に阿寒IC、釧路西ICが開通予定です）。

また、特別天然記念物「

タンチョウ」や「阿寒湖のマリモ」をはじめとする世界的にも貴重で魅力あふれる地域資源が豊富にあります。さらに、夏でも最高



気温が20度前後と涼しく、冷涼な環境を好み、広大な土地のなかで生育したとても良質な牧草を食べて育った乳牛が生産する生乳は、高品質で牛乳や乳製品の原料となり全国に出荷されています。

ない快適な街であり、航空機で東京羽田から1時間40分、大阪（関西・伊丹）から2時間と交通インフラが整っているわが街は、移住・長期滞在にも適した地域と言えます。

○特産品

釧路市をはじめとする道東沖は、ベーリング海から流れる親潮の影響によ



り、脂乗りの良い魚介類が多く、日本でも有数の好漁場として発展してきました。そのため、釧路市は1979年から13年連続で水揚げ量が日本一となり、現在においても多くの魚介類が水揚げされています。また、近年では植物工場が建てられ、パプリカやイチゴが栽培されているなど、この地域の涼しいという特徴を生かした新しい特産品が誕生しています。

他にも、阿寒地区では、「阿寒もみじ（エゾ鹿肉）」、「阿寒ポーク」、「阿寒モルト牛」、阿寒湖では「ワカ

市の取組み

釧路市では、2020年3月に策定した「第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少社会に立ち向かうための取り組みを進めています。

○長期滞在（ちよっと暮らす）

避暑等を目的とした方々に一定期間過ごしていただく長期滞在事業を推進しています。長期滞在施設の整備支援や、市内の一部の施設の入館料などを釧路市民と同じ条件で利用できるカードの発行など行っており、北海道による「北海道体験移住『ちよっと暮らす』」で2021年度の実績1362人は全道第1位となりました。全道第1位は

2011年度から11年連続での達成となつて



○ワーケーション

新たな働き方や新しい生活を求める個人、持続的な成長を求める企業へ訴求するため、サテライトオフィス・企業誘致、移住を見据えたワーケーションを進めています。企業活動が活発な都市機能を有する釧路地域での都市型ワーケーション、先住民アイヌが自然と共生する阿寒摩周国立公園内でのリゾート型ワーケーションがあり、自然環境や地域資源を活かした異なる2つのスタイルを提案しています。ぜひ、釧路市での観光と合わせて、企業研修（チームビルディング、

SDGsの学び等）や新たなビジネスの実証・チャレンジのフィールドとしてご利用下さい。

○奨学金返済支援制度

釧路市内で働く方の経済的負担軽減を目的に、協力的企業とタイアップし奨学金の返済を支援します。協力企業に2022年4月1日以降、新規に正職員等として採用、勤務する釧路市に住所を有する方の内、学生時代に貸与型奨学金を受給して、計画的に返済している方が対象となります。釧路市と企業がそれぞれ年額12万円を上限に

定期返済額の3分の1を原則3年間支援します。



○釧路市U・Jターン就職マッチング

「移住を希望する方」と「人材を求める企業」との問合せをし「就職マッチングを釧路市がたりするワンストップでサポート」ができます。登録すると、約200の求人情報等をお届

けるほか、企業からのリクエストを受けたり、気になる企業へ釧路市を通して



○ふるさと納税（寄附）

頂いた寄附は、「市政全般」「学校教育の振興」「生涯学習の振興」「動物園の充実」「保健・医療の充実」「福祉の充実」「街づくり（公園）の整備」「阿寒地域の振興」「音別地域の振興」に活用させていただきます。詳しくは、釧路市ふるさと納税特設サイトをご覧ください。



【返礼品おすすめ3品】

- ① 鮭
 - ② いくら
 - ③ たらこ
- いずれも地元の水産会社の自慢の一品です。



担当課：都市経営課企画担当
TEL 0154-31-4502

「つながる まち・ひと・みらい」 ひがし北海道の拠点都市・釧路」 観光スポット

○しつげん55パス

釧路市内の5つの観光施設に入館することが出来る5日間有効のパスポートです。5施設の大人の入館料合計2500円が、「しつげん55パス」なら1030円で入館することが出来る、とてもお得なチケットです。次の施設が対象となります。
・釧路市湿原展望台



釧路湿原を見て、知って、散策できる施設です。

市内の春採湖畔にたたずむ特徴的な外観は、建築家・毛綱毅曠（もづなきこう）によるもので、館内では釧路の自然や歴史、アイヌ文化などを紹介しています。

専用飼育をしている公園として、飼育・人工ふ化の実践を続けてきた自然公園です。国の特別天然記念物のタンチョウが自然に近い環境で飼育されており、1年中出会うことが出来ます。
・阿寒国際ツルセンター（グルス）



また、橋のたもとには「Cool KUSHIRO」の文字モニュメントがあり、「KUSHIRO」の「O」は、オレンジ色で釧路の夕日を表しており、橋とあわせてきれいにライトアップされるので、夜の景観を楽しむことが出来ます。

また、橋のたもとには「Cool KUSHIRO」の文字モニュメントがあり、「KUSHIRO」の「O」は、オレンジ色で釧路の夕日を表しており、橋とあわせてきれいにライトアップされるので、夜の景観を楽しむことが出来ます。



自然現象を体験することが出来ます。途中でガイドと一緒にムックリを奏でたり、アイヌ民族と自然との関わりや伝承を直接アイヌのひとから聞くといった、他にはない阿寒湖温泉ならではの体験が出来ます。
このツアーを通して、アイヌ民族の思想や暮らしの知恵が生きるヒントとして心に宿り、旅が終わってからも続く、豊かな時間となることでしょう。

阿寒湖の夜の森は街灯がほとんどなく、日中とはまた違った雰囲気となります。日中は視覚で楽しんでいた自然の良さを、夜になると嗅覚や聴覚で楽しむことができます。そんな阿寒湖の森では、初夏から秋にかけて「阿寒湖の森ナイトウォーク「カムイルミナ」を開催しています。光・音・「魂」が宿っていると考える

展望台では、湿原の魅力を紹介する映像や展示物の他に、屋上から眺める雄大な景観を堪能することが出来ます。また、1周約2.5kmの散策木道も設置されており、湿原散策も楽しめます。

地元民や観光客から親しまれている道内最大規模の動物園です。北海道ゾーンではシマフクロウやタンチョウなど北海道ならではの動物を間近に観察できます。

幣舞橋は、欄干に四季を表現したブロンズ像を配し、世界3大夕日と言われる釧路の夕日の撮影ポイントとして人気の観光名所です。夜には周辺の街路灯と調和した、「電燈色」でラ



幣舞橋（ぬさまいばし）
釧路川の最下流部にかかる幣舞橋は、欄干に四季を表現したブロンズ像を配し、世界3大夕日と言われる釧路の夕日の撮影ポイントとして人気の観光名所です。夜には周辺の街路灯と調和した、「電燈色」でラ

阿寒湖温泉は街全体が国立公園です。最近では、ひがし北海道においてアドベンチャートラベル（AT）の取組が活発になっており、特に阿寒湖温泉はATの自然・アクティビティ・異文化体験の3つの要素を最大限に堪能することができるといふ他地域にはない魅力に溢れ、国内のみならず国外からも注目されています。2023年にはATの国際サミットATWSの開催が決定しており、ますます魅力が高まる目の離せない地域です。

阿寒湖温泉は街全体が国立公園です。最近では、ひがし北海道においてアドベンチャートラベル（AT）の取組が活発になっており、特に阿寒湖温泉はATの自然・アクティビティ・異文化体験の3つの要素を最大限に堪能することができるといふ他地域にはない魅力に溢れ、国内のみならず国外からも注目されています。2023年にはATの国際サミットATWSの開催が決定しており、ますます魅力が高まる目の離せない地域です。



映像を自然の森と融合させたプロジェクト「カムイルミナ」は国立公園では初開催となる、阿寒湖の夜の森のメインコンテンツです。

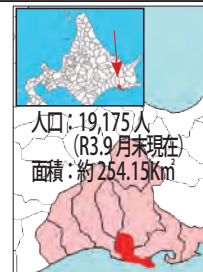


釧路町とは

概要

北海道の南東部に位置し、北は「釧路湿原国立公園」、南は「厚岸霧多布昆布森国定公園」の雄大な自然に恵まれた、人口約2万人のまちです。総面積は254.15km²ですが、総面積の約4分の3は山林となつています。

釧路町は合併、分村の歴史があり、大正8年（1919年）に昆布森村、跡永賀村、仙鳳趾村が合併し昆布森村となり、大正9年（1920年）現釧路市である釧路町から分村し釧



路村ができました。昭和30年（1955年）に昆布森村と釧路村が合併し新しい釧路村となり、昭和51年（1980年）に人口1万人を超え、昭和55年（1980年）に町制を施行し現在の釧路町となりました。

夏は平均気温が18度と涼で、冬は寒冷ながらも北海道の中では雪が少ない地域のため、1年を通して過ごしやすい気候です。

町の花「クシロハナシノブ」

6月から7月に淡紫色の花が咲き、茎は以外と堅くヒョロヒョロと伸びており、花冠が5つに裂け、内側の基部に濃い紫色の線が染まり、巧みな配色となつています。この花の優雅な美しさは、格調高い愛とのぞみとやすらぎを意味した

花として「湿原の貴婦人」とも呼ばれているなど、湿原のある町としてふさわしいことから選定しました。

●町の木「エツノコリンゴ」
別名ヒメリンゴといい、高さ3〜5m、直径5〜15cmほどになる落葉低木で、花は白又は淡紅色で6月に咲き、9月に柄の長い赤い球形の果実をつけます。寒さに強く、釧路町の気候に合った樹木であることから選定しました。

町の鳥「エツフクロウ」

全長50cmほどで、大木のある森林に住み、夜、羽音をたてないで行動します。アイヌ語では、「夜鳴く神」といい、その鳴声は「熊を捕らえよ」と聞こえるとい

ます。ギリシャ神話では、知恵をつかさどる神の意があり、格調高い鳥でありながら、ユニークさがあり、

マスコットになりやすいことから選定しました。

特産物

イタリアのミラノ万博に出店し、北海道で唯一「本場の本物」に選ばれた、身薄で柔らかいことが特徴の「さおまえ昆布」をはじめ、トキシラズ、仙鳳趾産牡蠣などの魚介類のほか、肌が白くなめらかで、綺麗な見た目と噛んだ時に果物のようなみずみずしさや甘さが感じられるのが特徴の「釧路ほくげん大根」、白かぶ、トウモロコシなどの農作物も人気です。

●全日本長ぐつアイスホッケー選手権大会（2月上旬）
誰もが楽しめる釧路町発祥のニュースポーツ「長ぐつアイスホッケー」。スケートができない人でも気軽に楽しめることで人気を集め、氷の上で悪戦苦闘する選手の様子をリンクサイドから観戦するだけでも充分楽しめるスポー



イベント情報

●釧路町桜まつり（5月下旬）
釧路町の桜の名所「別保公園」でエゾ



町の取り組み

釧路町における人口減少対策、地域課題の解決と将来にわたって町民が安心して働き、出産、子育てをすることができるとともに、地域社会を構築するために、「まち・ひと・しごと創生釧路町総合戦略」を策定し、令和2年から第2期に入り、

持続可能なまちづくりを目指した施策を進めているほか、令和4年からスタートした第6次釧路町総合計画では、「未来につながる豊かな自然といまがいあふれるまち」を目指す中で、SDGsの視点を取り入れていきます。令和3年12月には、2050年に二酸化炭素実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明し、目標に向けた取組などを施策の方針にも掲げ取り組ん

子ども・子育て支援の推進

●子ども・子育て支援の推進
●釧路町板「ネウボラ」事業
ネウボラとはフィンランド語で「アドバイザー」という意味で妊娠前から就学前までの子どもの健やかな成長・発達の支援を行う制度です。

高齢者支援体制の充実

●高齢者支援体制の充実
●いきいきシニアパスポート
子どもを産み育てやすい体制の整備として、妊娠から出産後の妊産婦、18歳未満の児童とその家族を対象に、心身のケアや育児サポートを行っています。

関係人口の創出・拡大

●関係人口の創出・拡大
釧路町の魅力を国内外に発信するため、釧路町出身者やふるさと納税による寄附者など町外在住者を対象とした、「釧路町ふるさと応援団」を結成し、応援団員を募集しています。

ふるさと納税（寄附）

●ふるさと納税（寄附）
令和3年9月に発生した赤潮の影響と思われる被害により、海中のウニの9割が死んでしまい、釧路町にとって前例のない大きな被害となっております。

ウニの生産には、稚ウニの放流、育成、出漁、加工及び出荷という3年以上にもわたる生産サイクルが必要であり、その全てが破壊されてしまった状況にあります。



〈赤潮被害で死滅したウニ〉

今回の困難を乗り越え、いつかまた、エゾバフンウニをお届けしたいと、北海道の昆布の森で必死に取り組む漁業者に対して、ご支援をどうぞよろしくお願いします。

お問い合わせ

●お問い合わせ
○釧路町役場 〒088-0692 北海道釧路郡釧路町別保1丁目1番地
TEL：0154-62-2111 (代表) FAX：0154-62-2713



上記のQRコードをスマートフォンで読み取り、移動で読み取ります。

『海と山の幸』『海岸線と湿原』が楽しめる町

観光スポット

○釧路湿原国立公園

釧路湿原国立公園は、釧路川とその支流を抱く日本最大の釧路湿原及び湿原を取り囲む丘陵地からなり、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ多くの動植物の貴重な生息地となっています。

細岡展望台に隣接し、湿原の風景や花々の写真が飾られ、軽食や喫茶コーナーがあります。また、お土産をすることもできます。

○厚岸霧多布昆布森国定公園
厚岸霧多布昆布森国定公園は、令和3年3月30日に国内で58か所目、道内では6か所目に指定された、釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町にまたがる面積41,487㏎の国定公園です。



湿原の風景に癒されながら、手つかずの大自然を楽しむことができます。

○達古武オートキャンプ場

達古武湖は、湿原の沼の面影をそのままに残す湖で、湿原の動植物の観察や、カワセミ、オジロワシ、アオサギなどの野鳥が見られ、夏には近くでホテル観察もできる湿原探勝には絶好のポイントです。湖畔をめぐる木道の散策や夢ヶ丘展望台へのハイキング、湖でのカヌーなどが楽しめます。5棟あるロッジのほか、オートサイト、フリーサイ

厚岸霧多布昆布森国定公園は、令和3年3月30日に国内で58か所目、道内では6か所目に指定された、釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町にまたがる面積41,487㏎の国定公園です。

○仙鳳寺双龍杉(せんぼうじょうりゅうすぎ)
明治時代末期に建てられた仙鳳寺の建立を記念して植えられた杉の木で、2本あることから双龍杉と呼ばれ、地元では北限の杉として大切に保管されています。

物販棟の『ロバの市』では、釧路町自慢の仙鳳趾産牡蠣や新鮮な野菜をはじめ、釧路管内の地場産品など豊富に取り揃えています。オリジナル調味料、昆活シリーズやプレミアムフットのクレミアが大人気で、ドックラン



物販棟に隣接して、無料で利用できます。フェンスで大型犬用と小型犬用が仕切られています。

昭和55年(1980年)に日本で最初のラムサール条約登録湿地となり、7年後の昭和62年(1987年)、全国で28番目の国立公園に指定されました。

○別保公園
遊具や広場、バーベキュー棟、パークゴルフ場などの施設のほか、イベント等で活躍する野外ステージを併せもっています。会社や学校等の団体様にも広く利用していただいています。

○細岡展望台
湿原ビューポイントとしてNo.1の人気を誇る細岡展望台は、どこまでも広がる釧路湿原の中を大きく蛇行する釧路川と、天気良くて空気が澄んでいる日には、阿寒の山々から羅臼岳までを一望できる景勝地です。

雄大で荒々しい海食崖が連続した岩石海岸、国内有数の規模を誇る湿地及びそこに成立する希少な水鳥繁殖地や湿原植生等の生態系と、人と自然との共生により育まれてきた文化景観とが一体となつてつくり出す景観が広がっています。



○釧路町森林公園
260㏎の広さと多彩な天然林が魅力の公園です。ふれあい広場線、体験の森線、香の森線、ツツジヶ丘線、白樺の森線と名付けられた木道や散歩道など5つの散策コースがあります。

○町のキャラクター紹介「ガッホくん」
釧路町の鳥「エゾフクロウ」をモチーフにした長ぐつアイスホッケー「ナガホ」のマスコットキャラクターです。

○細岡展望台

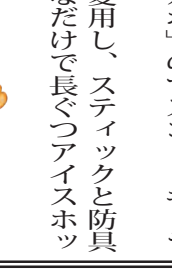
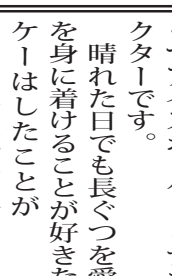
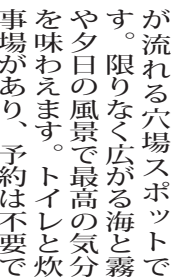
また、日本一遅い列車くしろ湿原ノロッコ号やSL冬の湿原号も釧路湿原駅に停車します。

○岩保木水門
大正9年(1920年)の釧路川で起きた洪水をきっかけに建設され、昭和6年(1931年)に完成された旧水門は、木材流送のために作られました。同時に開通した釧網本線に木材運搬を譲つたため、一度も開けられなかったが、古い水門といわれています。

○湿原カヌー体験
釧路湿原内を蛇行する釧路川では、1年を通してカヌーを体験することができます。運が良ければ野生動物に出会うことができて、ゆつくりとした川の流れと

○セキネツブ展望広場
昆布森市街から尻羽(シレバ)岬の中間に位置し、連なる断崖の海岸線とロウソク岩、タコ岩などの彫刻

海は眺めが最高に良い丘の上のキャンプ場です。静かですっきりとした時間が流れる穴場スポットです。限りなく広がる海と霧や夕日の風景で最高の気分を味わえます。トイレと炊事場があり、予約は不要でフリーサイトのみ施設となつています。



お問い合わせ
釧路町役場 〒088-0692 北海道釧路郡釧路町別保1丁目1番地
TEL: 0154-62-2111 (代表) FAX: 0154-62-2713

○細岡ビジターズ・ラウンジ
釧路湿原を一望できる

雄大で荒々しい海食崖が連続した岩石海岸、国内有数の規模を誇る湿地及びそこに成立する希少な水鳥繁殖地や湿原植生等の生態系と、人と自然との共生により育まれてきた文化景観とが一体となつてつくり出す景観が広がっています。

○別保公園
遊具や広場、バーベキュー棟、パークゴルフ場などの施設のほか、イベント等で活躍する野外ステージを併せもっています。会社や学校等の団体様にも広く利用していただいています。

○町のキャラクター紹介「ガッホくん」
釧路町の鳥「エゾフクロウ」をモチーフにした長ぐつアイスホッケー「ナガホ」のマスコットキャラクターです。

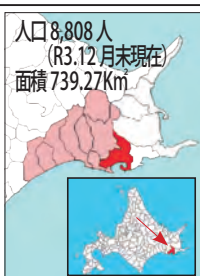


お問い合わせ
釧路町役場 〒088-0692 北海道釧路郡釧路町別保1丁目1番地
TEL: 0154-62-2111 (代表) FAX: 0154-62-2713

厚岸町とは

概要

北海道の南東部に位置し、南は厚岸湾が深く進入して厚岸湖を抱き太平洋に面しています。厚岸湖及び厚岸湾の海岸線には漁村が点在し、北部の波状丘陵地帯には広大な酪農地帯が形成されています。



気候は春から夏にかけては海霧の影響のため日照時間が短く、秋は晴天が続く、冬は比較的晴れの日が多いものの厳寒期の凍結が著しい気候条件にあります。

歴史
1900年に北海道一級

町村制が施行され、4町7村が合併して厚岸町となりました。さらに、1955年には、町村合併促進法により太田村の南半分を編入合併して今日の厚岸町に至っています。2020年には、町制施行120周年を迎えました。

産業

厚岸町の基幹産業である漁業と酪農は、恵まれた自然環境を背景に信頼性の高い食料生産を行ってきました。

漁業では、50種類を超える魚介類が年間を通じて水揚げされ、酪農では、生乳生産が盛んに行われています。

特産品

生まれも育ちも厚岸産牡蠣の「カキえもん」「弁天かき」は、厚岸を代表する地域ブランドです。ほかに

もアサリやサンマなどの海産物、「あつけし極みるく65」やソフトクリームなどの良質で新鮮な生乳を使用して作られる乳製品も人気があります。また、近年では、厚岸蒸溜所の「厚岸ウイスキー」が国内外から注目を集めています。



イベント情報

あつけし桜・牡蠣まつり (5月中旬)
子野日公園内で満開に咲いた桜の下で名産品のカキやアサリなどの海産物を炭火焼きで味わえます。



あつけしあやめまつり (6月下旬)
原生花園あやめヶ原は海岸線を一望できるビュースポットで、約30万株のヒオウギアヤメが開花します。「海辺の草原が紫色に染まります。」

厚岸港まつり (7月上旬)
漁業の発展と安全、安心を祈願し、「厚岸音頭」に合わせて各団体が街中を踊り歩く「市中大パレード」は圧巻です。

厚岸夏まつり (7月上旬)
明治時代から伝わる伝統の獅子舞をはじめ、華やかに裝飾された山車の競演を楽しめます。

あつけし牡蠣まつり (10月上旬)
味覚の秋に子野日公園で開催さ



れ、カキをはじめアサリ、サンマなど新鮮な海産物をその場で豪快にバーベキューで味わえます。

厚岸町で開催される大会は、決まりました。この大会は、「水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて、わが国漁業の振興と発展を図ることを目的として、毎年各地で開催されている国民的行事です。」

「全国植樹祭」、「国民体育大会」、「国民文化祭」とともに、天皇皇后両陛下にお出ましいただき、「四大行幸啓」の1つとなっています。

町の取組み

厚岸町では、暮らしに関する、次のような支援を行っております。

移住支援金の支給

東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）から厚岸町に移住して、新規に就業または起業した人に対して、移住支援金を支給します。

■支援金額 単身60万円 世帯100万円

引越費用の支援

町内に移住してきた方に対して、引越費用の一部を補助します。

■引越費用の1/2、上限10万円 (最大20万円)

(※高校生以下と同居の場合5万円ずつ加算)

・民間賃貸住宅への家賃の支援

町内に移住し、民間賃貸

住宅へ入居する方に対して、家賃の一部を補助します。

■(家賃1住宅手当) × 1/2 上限月額2万円 (最長3年間)

結婚新生活支援

新婚世帯に対して住居費及び引越費用の一部を補助します。

■婚姻に伴う住宅取得または賃貸に要する経費、引越費用

(1)夫婦ともに39歳以下で世帯所得400万円未満 上限30万円

(2)1以外の世帯 上限15万円

住宅新築に対する助成

町内業者を利用し住宅を新築する場合、助成金を交付します。(利子相当額は、金融機関等から住宅資金を借りた場合のみ)

■助成金額 最大70万円

利子助成額30万円 合計最大100万円

既存住宅の耐震改修及び解体に対する補助

現在居住している既存住宅が耐震性能を満たしていない場合、耐震改修及び解体の工事費の一部を補助します。

補助金額

耐震改修 上限30万円
解体 上限20万円

住宅改修に対する助成 (リフォーム)

町内業者を利用し工事費用が10万円以上のリフォームをする場合、助成金を交付します。

■助成金額 対象工事費の10%または15%

〈エコリフォーム〉

町内業者を利用し工事費が50万円以上のエコリフォームをする場合、助成金を交付します。

■助成金額 対象工事費の10%または15%

●東京厚岸会、札幌厚岸会 ☎0153・52・3131

ふるさと納税(寄附)

厚岸町では、ご寄附をいただいた方に対して、感謝の気持ちを込め、厚岸町の魅力が詰まった「お礼の品」を進呈するとともに、いただいたご寄附を次の事業に活用させていただきます。

- 活用事業
- ・保健福祉の向上に関する事業
- ・防災対策に関する事業
- ・地域産業の振興に関する事業
- ・観光振興に関する事業
- ・環境対策に関する事業
- ・教育振興に関する事業
- ・厚岸町の発展のため町長が必要と認める事業
- (ご寄附の際、指定なしの場合)

○主なお礼の品



厚岸名産のカキやアサリなどの豊富な海産物、チーズや牛乳などの乳製品、各種加工品のほか、最近注目度を高めている厚岸ウイスキーと海産物などのセットも時期・数量限定でご用意しています。

「花と味覚と歴史のまち厚岸町」

観光スポット

○道の駅 厚岸グルメパーク(厚岸味覚ターミナル・コンキリエ) 北海道じゃらん道の駅ランキング飲食部門で12連覇を果たしたグルメな道の駅です。館内には3つの食事処があり、それぞれの店舗でカキをはじめとした豊富な海産物や、乳製品等を使用したメニューを楽しむことができます。「レストラン エスカル」では、定食やセットメニューなどを楽しむことができ、「オイスターボールピトレスク」では、ピザやパスタ、厚岸ウイスキーなどが人気で、特にカキに

もにまちのシンボルとして親しまれていますが、夜間はライトアップされ、夜の厚岸を照らす灯です。



○原生花園あやめヶ原 標高約100mの断崖上にある原生花園あやめヶ原は、5月から10月にかけて100種類以上の草花が咲き誇る花の楽園で、毎年6月下旬から7月上旬にかけて見頃を迎えるヒオウギアヤメの開花にあわせて「あつけしあやめまつり」が開催されます。また、開園期間中には馬の放牧を行っており、水平線に重なる馬と花のコラボ

国内で釧路湿原に次ぎ2番目の面積を誇る別寒辺牛湿原は手つかずの自然が魅力の湿原で、1993年にラムサール条約登録湿地に、2021年3月30日には「厚岸霧多布昆布森国定公園」の区域に指定されました。4月から10月に道の駅が

○別寒辺牛(へかんべう)湿原 国内で釧路湿原に次ぎ2番目の面積を誇る別寒辺牛湿原は手つかずの自然が魅力の湿原で、1993年にラムサール条約登録湿地に、2021年3月30日には「厚岸霧多布昆布森国定公園」の区域に指定されました。4月から10月に道の駅が



厚岸ウイスキーなどが人気で、特にカキに



○子野日(ねのひ)公園 「厚岸霧多布昆布森国定公園」の指定区域にもなっています。小島に行くためには船が必要で、大黒島には上陸の許可が必要となります。水平線に浮かぶこの島の風景は、観る者を感動させてくれます。



○小島・大黒島 太平洋に浮かぶ2つの島です。小島は、昆布漁時期になると4軒ほどの漁家が生活しています。大黒島は、無人島で国の天然記念物 特別鳥獣保護区の指定を受けており、小島とともに

○PR動画

令和3年11月に厚岸町の観光PR動画と観光施設ガイド動画を制作しました。観光PR動画は、都市部から厚岸町を訪れた3人が町内を巡り食や自然を楽しむストーリー仕立ての動画です。観光施設ガイド動画は、町内の17ヶ所の観光施設等をピックアップし、各施設を紹介しています。それぞれ4K映像の高画質となっており、「現地に行ったが天気が悪かった」ので天気

ウイスキーを数滴垂らす食べ方が人気です。「炭焼炙屋」では、その場で好きな海産物を選びバーベキューを楽しむことができます。このほか、厚岸町総合観光案内所や総合展示販売コーナーなどがあり旅のメインにも、旅の休憩にももってこいの観光拠点施設です。

レイションは庄巻の光景です。

○苦多海岸

段丘状の細道を通り、辺りが開けた場所で見ることができます。もともと苦多海岸はニシンの漁場でしたが、今は防波堤ブロックが延々と続く海岸となっており、他から観る海岸線もまたひと味違う厚岸の景観を楽しむことができます。

○史跡国泰寺跡

国泰寺は、江戸時代後期の1804年に設置が決定された葵のご紋をもつ蝦夷三官寺のひとつで、蝦夷地における特異な歴史的役割を果たした重要な寺として、国指定の史跡となっています。境内には、樹齢190年をこえる老桜樹と呼ばれる1本のエゾヤマザクラがあり、厚岸の遅い春を告げるシンボルのひとつとなっています。



○町のキャラクター紹介

厚岸町公式キャラクター「うみえもん」は、平成27年に誕生した厚岸町公式キャラクター「うみえもん」は、全身に厚岸の名産をまとった町のPRをしています。毎年、「あつけし桜・牡蠣まつり」などの各種町内イベントや町外でのプロモーションへ参加しているほか、町内の保育所・幼稚園を訪れ、町民をはじめみんなから愛されるキャラクターとなっています。ぜひ「うみえもん」に会い、厚岸町へ来てみてはいかがでしょうか。



○愛冠(あいかつぶ)岬 「あつけし」もない困難を乗り越え愛の栄冠を得る」との思いで名づけられた



○厚岸大橋 1972年に完成した北海道で最初の海上橋です。厚岸町の南北(湖南地区と湖北地区)を結ぶ、町民にとってはなくてはならない橋です。真っ赤な厚岸大橋とまたがる海と湖の青さとの反面は、むしろ幻想的な霧囲気が漂い、厚岸湖に浮かぶ牡蠣島弁天神社と

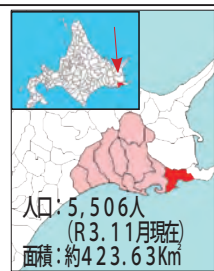
○あつけし望洋台

国道44号沿いにあり、あたり一面の海岸線を一望できるあつけし望洋台は、厚岸の玄関口で、展望施設からは厚岸の市街地と大海岸

浜中町とは

概要

北海道東部である釧路地方の最東端に位置し、東は根室市、西は厚岸町、北は別海町に接しています。南東は太平洋に臨み、その海岸線は67キロメートルに及び、海に突き出した岬や大小の島々、風浪と嘯み合う奇岩や絶壁が独特の景観をつくりだしています。町の南西部は厚岸霧多布昆布盛国定公園の一角をなし、広域な霧多布湿原が広がります。



人口: 5,506人 (R3.11月現在)
面積: 約423.63Km

夏季は海流の影響で海霧が発生しやすい一方、冬季

は雪が少なく、晴天の日が多いです。また、年間を通して気温は低めで、日本の中でも冷涼な気象条件となっています。

○町の花「エゾカンゾウ」
毎年7月中旬、オレンジ色のエゾカンゾウが霧多布湿原を染め上げます。その光景は、まるで橙の絨毯を敷いているようです。

○町の木「白樺」
北日本一帯の山林に自生していた白樺は、次第に各地の開発によって減少し樹林を形成しているのは北海道の山間部一円となつていいます。そんな希少価値の高い白樺は、樹液が多く主たる建築資材としては使用されていませんが、合板用や楽器の木材部品として使用されています。

○町の鳥「エトピリカ」
エトピリカという名前は、アイヌ語で「美しい嘴」という意味です。エトピリカは、北太平洋北部とそれに隣接する海域だけに生息する貴重な鳥で、日本では、霧多布以外では見ることが出来ません。しかも日本のエトピリカは絶滅の危機に瀕しています。

業に積極的に取り組んでいいます。

○イベント情報
・浜中桜まつり (5月中旬～下旬)
毎年、5月の桜の満開となる季節に浜中桜公園にて地元や観光客の方々に楽しんでいただいているお花見イベントです。全国でも遅い時期での桜の開花でもあることから、たくさんの方に来場いただいています。

霧多布湿原の花の魅力を体感していただくことも、イベント会場にて開催されています。

ブースでは、浜中町自慢の味覚(花咲がに・トキシラズ・カキなど)を味わうことが出来る屋台村も楽しめます。湿原の花の景観と浜中町の食の2つを1度に堪能できるイベントです。



町の取組み

全国的に人口減少が進む現在、子育て環境の整備や地域医療の充実、地域を支える人材の育成、コミュニティ活動の促進など安心して暮らせる環境の整備がまちづくりに求められています。浜中町では、本町の基幹産業である農業・漁業を中心に若い世代が働きながらしっかりと子育てできる環境を整え、ともに地域医療の充実や地域福祉の基盤整備を進めてまいります。

○子育て支援

・結婚祝い金

婚姻後間もない夫婦に結婚祝い金を支給することにより、浜中町への定住を促進し、もって活気に満ちた地域社会を築くことを目的としています。新婚夫婦に対して5万円を支給していま

す。

・出産祝い金

新時代を担う子どもの出産を奨励し、町の活性化と児童の健全な育成および福祉の推進に資することを目的に、新生児の出産に対して出産祝い金を支給しています。支給対象児1人につき5万円を支給しています。

・子ども医療費助成事業

子どもの医療費をその保護者に助成することにより、子どもの疾病の早期診断と早期治療を促進するとともに、子育て世帯の負担を軽減し、安心して子育てできる環境の充実を図っています。満18歳に達する日以後の最初の3月31日までのお子さんの医療費の無償化を行っています。

○移住・定住支援

・お試し住宅事業

浜中町への移住に関心のある方が一定期間浜中町での生活体験ができる場を提供するため「お試し住宅」を用意しています。住宅の利用期間は、2週間以上3カ月以内とし、1か月45000円で利用できます。



・安心住まいる促進事業

住宅の新築及び住宅リフォームを行う方に対し、助成金を交付することにより、町内における住宅の安全性、耐久性及び居住性の向上を図り、町民が長く安心して住み続けられる住まいづくりや住環境整備の促進と地域経済の活性化を図っています。住宅の新築最大: 30万円、住宅のリフォーム: 最大20万円。

○ふるさと会

・ふるさと浜中会

○ふるさと納税(寄附)

ふるさと納税を通して、個性豊かで魅力あるまちづくりを進めています。寄附金は次の7つの事業で活用し、浜中町に思いを寄せる人々の意向をまちづくりに反映させています。ひとりでも多くの方のご協力をお待ちしております。

○寄附金の活用事業

・漁業の振興に関する事業
・農業の振興に関する事業
・その他産業の振興に関する事業
・自然環境並びに地域景観の保全および活用に関する事業
・医療および福祉の充実に関する事業
・教育および文化スポーツの振興に関する事業
・事業の指定のないもの
寄附していただいた方への返礼品には、浜中町特産の乳製品や海産物などの加工品を中心に200品以上の返礼品をご用意しています。詳しくは次のサイトをご確認ください。
<https://hananaka-furusato.jp/> (北海道浜中町ふるさと納税特設サイト)



「海と山の宝島 浜中町」

観光スポット

○霧多布岬

霧多布岬(きりたつぷみさき)は、正式には湯沸(とうふつみさき)といます。またトツカリ(あざらし)を見かけることからトツカリ岬とも呼ばれます。標高50mほどのテール型の霧多布半島の東側に位置し、太平洋の荒波に突き出ており周辺には展望台・キャンプ場もあり、いこいの広場としても最適です。展望台から3km先には、アザラシのいる帆掛岩、浜中湾越しに奔幌戸(ぼんぼると)、貴人(もうらいと)の絶壁、海岸線等を望むことができます。

○アゼチの岬

霧多布半島の東の端は「霧多布岬」。そして西の端にはここ「アゼチの岬」があります。アゼチの岬は琵琶瀬湾に突き出た岬で、小島・ゴメ島・嶮暮島(けんぼつきとう)を望め、遙かに琵琶瀬湾、浜中湾の海岸線を見渡すことができます。真夏の落日は素晴らしいのです。

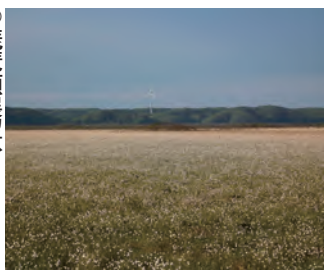


アゼチの岬の先から望む

嵐の夜などは乙女のすすり泣きが聞こえてくると云われています。そのため、別名「乙女の涙」とも呼ばれています。数十メートルもの断崖に刻まれた乙女の横顔は、なぜか旅情を誘います。

○霧多布湿原

霧多布湿原は、3168畝の面積を誇る国内有数の湿原です。湿原中心部の泥炭で形成された高層湿原部分803畝は、1922年(大正11年)10月12日に国の天然記念物「霧多布泥炭形成植物群落」に指定されています。(保全を目的として指定当時より周辺国有地86畝が追加されています。)1993年6月1日に、厚岸湖と別寒辺牛(べかんべうし)とともに、国より厚岸・別寒辺牛・霧多布鳥獣保護区(集団飛来地)に指定されました。(総面積11271畝、うち特別保護地区7781畝)また、1993年6月10日にラムサール条約登録湿地にも登録され(範囲は2504畝)、2001年には北海道遺産に選定されました。また、2021年に指定された厚岸霧多布昆布森国定公園の一部でもあります。



琵琶瀬展望台

霧多布湿原の南に位置する高台にあり、360度の視界が楽しめます。前方を見ると広大な霧多布湿原の中を琵琶瀬川が蛇行する大パノラマが展開し、振り返ると太平洋の荒々しい景観が待ち受けており、海上には窓岩が臨めます。この窓

○琵琶瀬展望台

霧多布湿原の南に位置する高台にあり、360度の視界が楽しめます。前方を見ると広大な霧多布湿原の中を琵琶瀬川が蛇行する大パノラマが展開し、振り返ると太平洋の荒々しい景観が待ち受けており、海上には窓岩が臨めます。この窓



モンキー・パンチ・コレクション



○霧多布キャンプ場

霧多布岬から徒歩5分ほどの場所にあり、高台の緩やかな傾斜面にバンガロー(有料)が18棟あるほか、テントサイト(無料)、ドッグラン(無料)もあります。また、休憩舎(有料)では、団体でバーベキューをすることもでき、車中泊やバイクキャンプも可能です。高台から太平洋を見渡すことができるロケーションは、霧多布岬キャンプ場ならではのです。【利用期間】6月上旬～10月上旬

○涙岬・立岩

涙岬・立岩を訪れると、古老の語り草である網元の娘と若い衆の恋物語を偲ぶことができます。この場所は、嵐の海にのまれた若者に恋する乙女の泣く姿が岩になったと云われており、



小島には、浜中町の鳥「エトピリカ」が営巣します。また、かつてはゴメ島にも多くの「エトピリカ」が営巣していました。浜中町には、このような海鳥の聖地となる小さな島、岩が多く、そのため多くの海鳥が生息しています。

○酔農展望台

国道44号線沿いの高台にある酔農展望台からは、美しく広がる緑の牧場風景が



酔農展望台

国道44号線沿いの高台にある酔農展望台からは、美しく広がる緑の牧場風景が

岩は、浜中町の奇岩のひとつで、平成5年と6年の大きな地震の前までは、2つの窓がありメガネのような形をしていましたが地震により片側が崩れてしまいました。また、夜には霧多布市街を中心とする海岸線に続く夜景も楽しむことができます。琵琶瀬展望台の景観は、国際級との観光評価もあります。

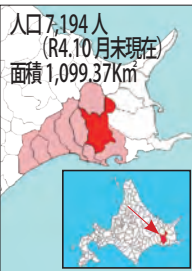
○ルパン三世通り

霧多布市街の飲食店ゾーンに忽然と現れる仮想空間。映画館「霧多布座」、不二子のPUB、次元のBAR... ルパン三世の聖地・浜中町だけのルパン・ワールドを体験してください。(仮想店舗は営業していません。)

また、ルパン三世通りだけで無く、浜中町では多くの場所で見つけることができます。町内を巡ってルパン一味を逮捕(撮影)してみようですか?

標茶町とは

標茶町は、北海道の東側に位置しており、面積も1099.37km²と東京都の約半分という広大な土地を有しています。町名の由来



はアイヌ語の「シベッチャ」（大きな川のほとりの意）という本来の発音が語源です。母なる川・釧路川をはじめ、別寒辺牛川、西別川の三大河川によって産業と開拓の歴史が刻まれています。まちの東西南北は手つかずの山林で囲まれているため、盆地特有の気候を呈し、夏は30度まで熱くなるかと思えば冬はマイナス

30度まで冷え込むこともあります。雪解け後に芽吹く柔らかかな草、真夏の太陽のもと輝く湖沼、燃え上がるような紅葉の森、結晶のまま降り積もる柔らかかな雪と厳しくも変化に富んだ四季折々の美しい景観が楽しめる自然豊かなまちです。まちの北側に阿寒摩周国立公園、南側には釧路湿原国立公園が広がっています。特に釧路湿原国立公園はその面積の約43パーセントが標茶町に属しており、水辺の動植物の貴重な生息地となっています。冬季には「S冬の湿原号」が運行され多くの旅行者の皆様が訪れます。車内販売されているスルメを



客車のだるまストープで焼いて楽しみ、ゆったりとした時間を過ごしながら、美しい景色や様々な野生動物を眺めることができます。人口は7200人程度ですが、人口の約8倍となる6万頭超の牛が飼育されています。酪農・畜産業が基幹産業です。新規就農についても町として力を入れており、1994年から2013年までの新規就農は14組でしたが、廃校となった小学校の建物を活用して2015年に新規就農者宿泊研修施設「しべちや農学校」を開設し、新規就農希望者の受入れ体制を強化してから、現在までに9組が新規就農されました。本町では関係機関で協議会を設立しており、研修中から就農後まできめ細やかなサポートを心がけてい



ます。23組のうち21組は現在も営農されており、高い定着率を誇ります。今後も新規就農者は増えていく予定であり、多様なニーズに応えられるよう柔軟な受入れをしていきます。町内には雪印メグミルクの大型工場があり、町内で生産された牛乳を使用した「切れてるバター」等の乳製品が生産されています。また「星空の黒牛」ブランドの牛肉があり、赤身の肉が注目される現在、ふるさと納税の返礼品でも一番の人気商品となっており、全国から良質な食材として好評を得ています。



現在取り掛かっている町の大きな事業として、茅沼地区の観光宿泊施設の改修工事を行っており、建築家の隈研吾さんとデザイナーの原研哉さんに施設的设计を依頼し進めています。町民の憩いの場として、また町外の方もゆつくりと大自然を堪能できるような施設となる予定です。

○イベント

こどもの夢を育てる祭り 毎年6月末から7月上旬に開催されるイベントで、

町の取組み

○馬に関する取り組み

かつて軍馬の生産で栄えた歴史があり、現在は全国の乗馬クラブなどを引退した乗用馬が雄大な自然の中で過ごす終の棲家づくりの事業として、道東ホースタウンプロジェクトがクラウドファンディングで行われています。引退馬に標茶の自然の中で余生を過ごしてもらう預託事業や、乗馬ができる馬のトレーニングコースの開発などに取り組み、関係人口の創出や地域活性化に繋がっています。

○自然環境

阿寒摩周国立公園及び釧路湿原国立公園と、2021年3月に新たに指定された厚岸霧多布昆布森国立公園を含め、2つの国立公園と1つ国立公園を有

する市町村は全国的にみても稀有な存在であり、今後の観光振興に繋がるような取り組みを進めています。本町では、その一環として、毎年5月を森と川の月間とし、大勢の町民が参加をしてゴミ拾いを行う「町内クリーン作戦」を行っています。

○子育てしやすいまちづくり

子育てについても、保育料の無料化や大学生までの医療費の無料化など安心して子供を育てられる環境づくりに取り組んでいます。新生児が生まれた世帯には、子育て応援チケットとして町内の店舗で子育て用品が買える商品券も5万円分配布しております。

○移住・定住

標茶の自然に囲まれながら、まちでの生活をトライアル体験できる住宅をご用意

意しています。期間は7日間〜1カ月間の期間でペット専用住宅と、ペット不可のログハウスがあり生活に必要な備品は完備しております。詳細については町のHPをご覧ください。担当 企画財政課地域振興係

○情報発信

標茶町では2021年5月から、YouTubeを使った情報発信を始めました。町内の政治の動きやニュース、イベント、事業者さま紹介、ラジオなど様々なコンテンツを配信しています。今後も情報発信をしていきますのでぜひチャンネル登録をお願いします。

登録はこちら↓



○ふるさと納税(寄附)

標茶町では、「ふるさと納税制度」を利用して、皆様からのご寄付を下記の8つの事業に活用させていただきます。

- (1) 「馬と共に暮らせる町」・「標茶」事業のために
 - (2) 子どもたちの教育環境の充実のために(教育関連事業)
 - (3) 貴重な自然や遺産を守るために(自然保護・文化財保護)
 - (4) 将来を担う次世代の育成に(子育て支援)
 - (5) 関係人口や交流人口の拡大に(移住対策・観光振興)
 - (6) 基幹産業の発展に(酪農・畜産業等の振興)
 - (7) 安全安心な暮らしのため(防災対策・福祉施策)
 - (8) 指定しない(標茶町の発展のために町長が必要と認める事業)
- ・寄付いただいた方への返礼品については、標茶町の特産の畜産品を中心に180種類以上の返礼品をご用意しております。詳細は下記サイトをご覧ください。



ふるさと納税返礼品一例

https://www.rakuten.co.jp/f016641-shibecha/
ふるさと納税
https://www.furusato-tax.jp/city/product/01664

「大自然の入り口 標茶町」

観光スポット

○多和川

地平線を360度見渡せる展望台があり、美しい朝日や夕日、夜には満天の星空を鑑賞することができ、5月〜10月の期間は展望台下の丘ではキャンプを楽しめます。夜景は特に有名で、広大な牧草地の中で見る星空はまるでプラネタリアムのような美しさを誇ります。



ペット連れでの利用も可能で、芝生広場にはドッグランが併設されています。近くの湖では釣りを楽しむことができ、のんびり自然を堪能することができます。センターハウスにはシャワーや洗濯機があり、家族連れやキャンプが初めての人でも快適に過ごすことができます。

○西別岳



西別岳の山頂から見た景色



西別岳の夕景

摩周岳の隣に連なる山で、標高約800mとやや低いため初心者でも気軽に登山に挑戦することができ、アイヌ文化についても、標茶町では江戸後期よりアイヌのコタン（集落）があり祭事を中心に古



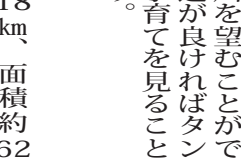
標茶町博物館ニタイ・ト

○標茶町博物館ニタイ・ト
国立公園を二つ、国定公園を一つ抱え、広大で豊かな自然を有する標茶町ですが、この博物館では標茶町に生息する生き物や植物を観察することができ、町の自然と歴史を学ぶことができます。

湿原展望台からは、釧路湿原の中でも太古の自然が残る大湿原の眺めが広がります。運が良ければタンチョウの子育てを見ることが



湿原展望台からは、釧路湿原の中でも太古の自然が残る大湿原の眺めが広がります。運が良ければタンチョウの子育てを見ることが



湿原展望台からは、釧路湿原の中でも太古の自然が残る大湿原の眺めが広がります。運が良ければタンチョウの子育てを見ることが

○塘路湖
周囲約18km、面積約62km²、最大水深約7mの塘路湖は、釧路湿原内にある最も大きな海跡湖です。海水に生息する甲殻類の一種であるクロイサザミアが生息し、生き物たちのなごりが確認できます。塘路湖の由来はアイヌ語の「トイ・オロ（トイ・湖・沼、オロ・湖）」に漢字をあてたもので、周囲9.8km、面積1.1km²、最大深度3mの湖です。真冬には御神渡りが見られ、氷上ワカサギ釣り

方々が訪れます。この「くしる湿原ノロッコ号」については運行が開始された1989年から、釧路湿原をゆったりと走行して、車窓からの壮大な景色を楽しめる列車として人気を博しています。近年では、川

○シラルトロ湖

シラルトロ湖は、釧路湿原国立公園内に位置し、釧路湿原の東側にある淡水湖で、周囲9.8km、面積1.1km²、最大深度3mの湖です。真冬には御神渡りが見られ、氷上ワカサギ釣り

また、北海道東部の昆虫相の解明のために生涯をかけて研究に取り組んだ飯島一雄氏のコレクションも展示されています。アイヌ文化についても、標茶町では江戸後期よりアイヌのコタン（集落）があり祭事を中心に古

とサフオーク種の羊が放牧されている日本最大級の公営牧場があり、のどかな風景に癒されながらキャンプを満喫することができます。レストランや売店でもあるグリーンヒル多和がすぐ近くで便利です。



グリーンヒル多和の羊



グリーンヒル多和の羊

高山を歩いているような雰囲気になります。眺望も優れ、果てしなく広がる根釧原野、斜里岳、標津岳、雄阿寒岳、摩周湖を望むことができます。天気がよければ国後島も見ることができます。

とがでくより研究されてきました。お花畑がところどころに見え、春・夏・秋・冬で展示が変わります。アイヌ語で「ニタイ」は森、「ト」は湖という意味です。

は冬の風物詩です。漁師のため、ハクチョウ、ガン、方がとったワカサギは佃オジロワシ、タンチョウや煮や筏焼きなどに加工され、販売されています。近所、名前の由来はアイヌ語接するJR塘路駅では「くで」岩の間を表す「シラルトロ」ではないかと推測されています。

○虹別オートキャンプ場

フリーサイト、コート、テントスペースの広さが充実しています。



塘路元村キャンプ場のベース地ともなっている塘路湖の湖畔にあるキャンプ場です。カヌーの体験受付を行っている「元村ハウス」を、パークゴルフ場、塘路エコミュージアム「あなご」と、標茶町博物館ニタイ・トも周辺にあり

また、敷地内には1885年に建てられた、北海道集治監釧路分監の本館建物が塘路に移築復元されており、同じ年に建てられた塘路駅通（駅通）の建物も移築保存されています。駅通とは半官半民の旅館で、北海道独特の制度です。建物は漁業番屋として建築されており、特徴的な丸太組の構造をしています。

○コッタ口湿原展望台
コッタ口とはアイヌ語で「水が湧くところ」を意味しています。このコッタ口



ミルククックさん

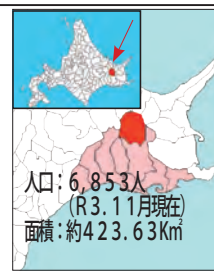
お問い合わせ 088-2312 北海道川上郡標茶町川上4丁目2番地 標茶町役場 TEL:015-485-2111 FAX:015-485-4111

E-mail: info@office.town.shibecha.hokkaido.jp 公式ホームページ: http://town.shibecha.hokkaido.jp/

弟子屈町とは

概要

東北北海道の中心に位置し、西北面は高峻なる山脈をもつてオホーツク地域に接し、東は根室高原に連なり、南は標茶町を経て釧路湿原に隣接しています。世界有数の透明度を誇る摩周湖の山麓に広がる本町は、千島火山帯に属する高原地帯で、屈斜路湖を源とする釧路川が地域の中央を流れており、平地が少なく起伏の多い地勢です。そのため地域の約70%は山林地帯で、農耕地は屈斜路湖沿岸と釧路川を始めとする各



河川の流域に散在しています。気象は一般に冷涼で年間平均気温は約5.4℃、初雪は11月上旬、降雪量は50〜100cmです。

・産業

基幹産業は酪農業主体の農業と観光業です。比較的なだらかな農地が広がり、摩周岳など周辺の山々とあわせて田園風景が広がっています。冷涼な気象条件を活かして、大規模酪農と、馬鈴しょ、小麦、てん菜、ソバなどの畑作農業が行われています。本町の面積の65%は阿寒摩周国立公園の区域に入っており、公園全体の56%は本町の中にあります。2017年8月に阿寒国立公園から阿寒摩周国立公園に改称されたことにも、日本の国立公園を世界基準のナショナルパークとしてブランド化を図る、国

立公園を核とした観光振興に取り組んでいます。

・特産品

自然に恵まれた弟子屈町には、美味しい特産品がたくさんあります。

・摩周そば

弟子屈町では、冷涼な気候を生かし、平成2年からソバが栽培されています。鮮やかな薄緑色で味も香りもひととき引き立つと評判です。

・摩周メロン

昼夜の寒暖差が大きいことから糖度が増し、甘みの強いメロンです。生産量が少なく市場に出回らないことから、幻のメロンともいわれています。



・摩周ルビー (弟子屈産イウィークエンド) が開催されています。

・イベント情報

甘みと酸味のバランスが良く、甘酸っぱさを感じられるイチゴです。温泉を利用した自然エネルギーにより屈斜路湖畔の温熱ハウスで生産されています。

・葡萄色の旦(えびいろのよあけ)

弟子屈町の醸造用ブドウ「山幸(やまさち)」を100%使用したワインです。山幸が持つ爽やかな酸味や豊かな果実味の特徴で、毎年9〜10月頃には、町内飲食店にて地場産食材を使用した料理とのマリァージュが楽しめるイベント「葡萄色の週末(エビイロ)



8月中旬に収穫されたばかりの新そばを、いち早く味わえます。会場では、摩周そばに合う地場産野菜の天ぷらや、摩周メロン、摩周和牛なども提供され、弟子屈ならではの味を求める方たちで賑わいます。

町の取り組み

弟子屈町では活力あふれる若い世代の移住者を確保するべく、情報発信、移住支援、空き家活用、人材育成、子育て支援に力を入れて取り組んでいます。

【情報発信】

弟子屈町の観光地や行事などの紹介や、地元企業や本町で起業した若者の活動を、町公式YouTubeチャンネルを活用し発信しています。主にこの情報発信を行っているのは、町の地域おこし協力隊シティープロモーション活動支援員として活動している20代の協力隊員の2名です。

ぜひ「弟子屈町公式チャンネル」をご覧ください。



【空き家活用】

町内の空き家の有効活用を通じ、町民の住み替えによる住宅環境の改善、他の市町村からの移住促進を図るため「弟子屈町空き家バンク制度」を設置しています。当町への「UIJターン」や住み替えを検討している方に物件情報を提供しているほか、町内に空き家

【移住支援】

弟子屈町では移住に携わる協力隊員を採用し、今までのよりも上質な移住支援を行っています。移住相談から定住までを、協力隊員が民間事業で培ったノウハウも活用しながらサポートし、定住を促進しています。

【人材育成】

地域に貢献できる有為な人材を育成し、町内企業や安定的な経営を図るため、各種免許や資格、町内の小中高校に通う児童生徒の各種検定に補助金を交付しています。

【子育て支援】

認定こども園・町立保育園の保育料無償化、中学校までの給食費無償化、高校までの実質医療費無料など、町内で子育てをする方

を有しそれを「売りたい」「貸したい」とお考えの方に制度の案内をしています。今までの56件の空き家が活用されました。買い取った空き家を改修する際、最大30万円の補助金を交付する「購入物件改修費補助制度」もあります。

へのおさまざまな支援に取り組んでいます。また、弟子屈高校に通う生徒対象に公けることができます。

○ふるさと納税(寄附)

弟子屈町では、ふるさと納税制度を利用したご寄付を下記の8つの事業に活用させていただきます。

1. 摩周湖・屈斜路湖などの環境保全に関する事業
2. 地域を担う人材の育成や子育てに関する事業
3. 本町の特性を生かした産業の振興に関する事業
4. 教育、幼児教育の施設設備や振興に関する事業
5. 社会教育、文化・スポーツの施設整備や振興に関する事業
6. 福祉、医療の施設整備及び振興に関する事業
7. 街並み整備や風景の向上に関する事業
8. まちづくり全般に係る事業

弟子屈町の返礼品は、摩周和牛や摩周メロン、乳製品の特産品や海産物加工品、カーンや屈斜路湖体験ツアーなど、弟子屈町のファンとなっているだけ、数多くのメニューを用意しています。



「摩周湖とついで湯のロマン」 弟子屈町

観光スポット

○摩周エリア

道の駅「摩周温泉」は阿寒湖と摩周湖とを結ぶ国道241号沿いで、243号、391号のほぼ合流地点にあります。物販ゾーンには、地場産野菜や地元で作られるスイーツなど、弟子屈町ならではの商品を取り揃えています。テイクアウトコーナーでは、



道からしか眺めることができませぬ。周囲を絶壁に囲まれ、出る川も入る川もないのに水位がほぼ変わらない不思議な湖で、湖面の周囲は約20km、面積が19.2km²、海抜は351m、最も深いところが211.4mです。不純物をほとんど含まない水が作り出す深い藍色の湖面の色は「摩周ブルー」と言われ、訪れる人々を魅了します。気象条件によっては霧でその姿を隠す日や、雲海が発生することもあります。風のない日には摩周岳を鏡のように映し、よく晴れた夜には満天の星空をみることができ、様々な表情を見せてくれる神秘の湖です。

に「地球の鼓動を感じる」という表現が正しい印象を受けます。レストハウスのある駐車場から山裾の砂礫を少し進むと、噴気孔のすぐ近くまで進むことができます。そこでは黄色の硫黄の結晶がいくつも見られ、勢いよく噴気が上がる様はともダイナミックです。毎年6月末〜7月頃には、一面にエゾイソツツジが咲き誇り、川湯温泉の初夏を美しく彩ります。



長い間登山は禁止とされていましたが、2019年

ち全勝優勝8回、6場所連続優勝が2回あり、相撲史上に数々の金字塔を打ち立てました。大鵬の偉業を後世に伝える館内には、全ての優勝額や化粧まわし、少年時代からの写真のほか、歴代横綱の写真などがたくさんあります。特に名勝負、名場面を大画像でお楽しみいただけます。

・屈斜路コタンアイヌ民族資料館

昭和57(1982)年に開館した、屈斜路コタンの美しい自然との関わりの中で培われてきたアイヌの人々の歴史や文化を今に伝える施設です。コタンはアイヌ語で集落を意味する言葉であり、周辺から縄文時代



E-mail : kikaku@town.teshikaga.hokkaido.jp
公式ホームページ : <https://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/index.html>

人気のジェラートやエゾシカのハンバーガーも楽しめます。また、観光案内所や無料の足湯も併設されています。

・摩周湖

摩周湖は、阿寒摩周国立公園内に位置し、特別保護地区に指定され、北海道遺産にも登録されています。調査目的以外の立ち入りができず、「人が踏み入れることのできない湖」として、周辺3か所の展望台もしくは登山



○川湯・屈斜路エリア

川湯温泉は、古くからアイヌの人々に「セセキベツ(湯の川)」と呼ばれ、湯の川からのぼる湯けむり、硫黄の香りに包まれた旅情たっぷりの温泉街です。日本でも珍しい「源泉100%かけ流し宣言」をしています。日本では数少ない強酸性硫化水素を含む明ばん・緑ばん泉は効能が高く、どこの施設であっても薬効たっぷりの源泉にゆつくりと浸かることができるのが最大の特徴です。

から認定ガイド引率の条件付きでトレッキングツアーが可能となりました。硫黄山上部にある「熊落とし」や眼下に広がる「つつじが原」など、壮大で豊かな自然を感じる事ができます。

・大鵬(たいほう)相撲記念館

川湯温泉から約3kmに位置する硫黄山は、アイヌ語で「アトサ(裸)ヌプリ(山)」と呼ばれ、現在でも硫黄の噴煙がゴウゴウと音を立ててあちこちから立ち上っており、その姿はまさ

・川湯硫黄山

第48代横綱大鵬の記念館です。弟子屈町川湯温泉は、不滅の名横綱と称えられた横綱大鵬が、少年時代を過ごし、大きな夢を育てた郷里です。優勝32回、そのう



第48代横綱大鵬の記念館です。弟子屈町川湯温泉は、不滅の名横綱と称えられた横綱大鵬が、少年時代を過ごし、大きな夢を育てた郷里です。優勝32回、そのう



フィッシング、温泉浴などで賑わうリゾート地の顔も持っています。また、氷点下20℃以下にまで冷え込む冬期間は全面凍結します。日中と夜の気温差で氷が縮小と膨張を繰り返えし、やがて道のようになり盛り上がる「氷丘脈」という御神渡り現象が起きます。屈斜路湖の御神渡り現象は高さ2メートル、長さ10kmにも成長することがあり、日本一といえるほど壮観です。地熱により1部解

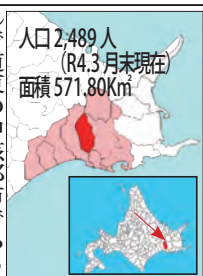
代の遺跡も確認されていることから、古くから生活拠点として適した場所であったようです。

館内の展示物は「ユウカラの森」、「コタンの大地」、「コタンの移り変わり」、「山野を駆ける」、「コタンを支える人々」の5つのテーマからなり、生活に関わる道具などのほか、熊祭りのスライド上映も行っています。また、アイヌ文様刺繍と衣装試着の体験ができます。アイヌ文様刺繍体験は、北海道の名付け親である松浦武四郎の生誕地、三重県松阪市の特産品「松阪木綿」の記事に刺繍を施して、コースターやしおりを作成できます。アイヌ民族衣装試着体験は、男性用と女性用、子ども用の衣装を用意しています。記念撮影にもおすすめです。

お問い合わせ
○弟子屈町役場 TEL:088-3212 北海道弟子屈町中央2丁目3-1
TEL:015-482-2191 FAX:015-482-2696

鶴居村とは

鶴居村は、北海道東部、釧路管内のほぼ中央部に位置し、東西23km、南北42km、総面積571.80km²を有し、東部は標茶町、南部に釧路湿原国立公園を挟



地であり、大規模な草地在が広がっています。産業は、乳牛を主体とした酪農專業形態がほとんどであり、多頭数飼育による近代化経営が進められ、環境と調和した農業の推進を図りながら、快適で住みよい農村環境の実現と足腰の強い酪農経営を目指しています。

また、本村は広大な釧路湿原国立公園や特別天然記念物タンチョウを有する自然資源に恵まれ、自然観察型の観光や自然と共生した体験観光など、毎年多くの観光客が来村しています。

・村の鳥タンチョウ

特別天然記念物でツル目ツル科の国産の鳥類でもっとも大形になります。全長140センチメートルほどで、頭頂は赤く裸出します。鶴居村では毎年11月頃から見られ、鶴見台や鶴

居伊藤サンクチュアリ、音羽橋などで多くのタンチョウが観察できます。

・村の木シラカバ

カバノキ科の落葉高木で山地に生えています。樹皮は白く、薄くはがれるのが特徴です。建築・細工物などの材料に用いられ、冬になると白銀の世界にそびえ立つシラカバは美しい風景を見せます。

・村の花コスモス

茎は高さ約1.5メートルになるキク科の一年草です。秋になると淡紅色・白色などの頭花をつけます。

○イベント情報

・つるい納涼まつり

多くの飲食ブースが出店し賑わいを見せるほか、女性限定尻相撲大会、ビール早飲み競争、豪華景品の当たる大抽選会などが開催



「花火大会」は、「夕見ごたえンチヨウ」の鳴きまねコンテスト」など、タンチョウにちなんだゲームが開催されます。テレビ番組で紹介されるなど、人気を集めています。

・鶴居村ふるさとまつり

「牛乳早飲み競争」や「牛の鳴きまねを競い合う・タンチョウクイズ」

「モーモーコンテスト」など、その年の釧路圏で確認されが、酪農にちなんだゲームが開催されます。多くの飲

食ブースが出店するほか、には抽選で豪華景品をプレゼントします。

村自慢の牛乳を使った試食コーナーや、鶴居産野菜の（毎年9月中旬～11月下旬）

村の取組み

○移住・定住施策

・輝く住ま居る支援金

輝く未来に向けた移住及び定住の促進と笑顔あふれる安心で活力に満ちた住み良い村づくりを推進するため、村内において一戸建住宅を新築するなど住まいの確保に要する費用に対し、支援金を交付します。

【支援額】

- 一戸建住宅を新築した場合 100万円
- 中古住宅を購入した場合 購入費及び修繕費の10分の3（上限額80万円）

【支援額】

- 申請者が45歳以下の場合、下記の額を加算します。
- 一戸建住宅を新築した場合 50万円
- 中古住宅を購入した場合 30万円

住宅用太陽光発電システム

環境への負荷の少ない新エネルギーの普及促進に寄与することを目的として、住宅用太陽光発電システム導入に対する助成を行っています。

【支援額】

- 設置する太陽光電池の出力1キロワットあたり6万円（上限30万円）
- 設置する蓄電池の蓄電容量1キロワットあたり4万円（上限20万円）
- 住宅用木質系燃料ストーブ購入補助金
- 石油代替エネルギーの導入促進、地域林産材の有効利用を図ることを目的とし、木質系燃料ストーブに対し補助を行います。

購入額の1/2以内で上限15万円まで



・移住体験住宅

「鶴居村に移住したい」「田舎暮らしに憧れている」とお考えの方のため、鶴居村での生活を体験してもらう施設として、移住体験（お試し暮らし）住宅を2棟設置しています。

○子育て支援施策

- ・乳幼児・児童生徒・高校生医療費助成
- ・高等学校等人材育成支援金
- ・保育料無償化
- ・出産祝金
- ・就学祝金

○医療支援

- ・老人医療費助成
- ・妊婦一般健康診査費助成
- ・介護サービス自己負担助
- ・特定不妊治療費助成

○ふるさと納税（寄附）

鶴居村はいただいた寄附を活用して地域特性を生かした魅力ある村づくりを進めていきますので、引き続き皆さんの応援をよろしく願っています。

・特別天然記念物「タンチョウ」の愛護に関する事業

- ・釧路湿原を含めた自然環境の保全等に関する事業
- ・地域振興および地域福祉等に関する事業
- ・教育および文化スポーツの振興に関する事業
- ・子ども子育て及び青少年の人材育成に関する事業
- ・使途を指定しない（鶴居村におまかせ）寄附をいただいた方への返礼品は、全国でも高い評価を受ける鶴居村の新鮮な生乳で作られた乳製品を始め、村の自然豊かな環境で育ち、優れた肉質のエゾ鹿肉、野生動植物の聖域である「キラコタン岬」のトレッキング、釧路湿原国立公園内を探勝できるホーストレッキングなどがラインナップしています。



ふるさと納税返礼品一例

「神舞うふるさと鶴居村」

観光スポット

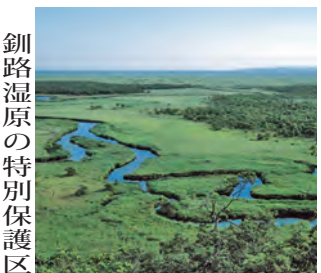
○鶴見台

鶴見台はタンチョウの給餌場の一つで、タンチョウの姿を群れで観察できる場所です。1953年頃に付近の小学校へ冬になるとタンチョウが集まり、先生と児童が給餌したことが、この給餌場の始まりと言われています。1974年に小学校が廃校となった後は地域住民がその意志を引き継ぎ、給餌を続け現在に至ります。



○鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

野生のタンチョウを絶滅から守るため生息環境を確保し、人間とのより良い共存を確立させるため、日本野鳥の会はタンチョウとその生息環境の保全を進めるための活動拠点となる「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」を設置しました。鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリは、伊藤良孝



○キラコタン岬

建物の裏手にはプロムナードがあり、綺麗に整備されたベンチや遊歩道があるので、散歩するのに最適です。

○釧路湿原の特別保護区域

1920年代に絶滅したかと思われたタンチョウが再発見された場所の一つで、今なお徒歩か馬でしか訪れることができないため、湿原の聖域とも呼ばれています。蛇行する川は、釧路湿原の中核をなす大切な自然

域に指定された地域で、1920年代に絶滅したかと思われたタンチョウが再発見された場所の一つで、今なお徒歩か馬でしか訪れることができないため、湿原の聖域とも呼ばれています。蛇行する川は、釧路湿原の中核をなす大切な自然

や、季節の見どころが展示されています。ビクターセンターからは全長3.1km、約1時間半でぐるりと1周できる木道のコースが設けられ、四季折々の湿原の姿を楽しむことができます。

○酪楽館

ナチュラルチーズコンテस्टで金賞を受賞している鶴居村自慢のチーズはここで生産されています。酪農の村である鶴居の生乳を贅沢に使い、さまざまな種類のナチュラルチーズを造っています。村内の各観光施設でも販売しています。

○鶴居運動広場

ゴーカートや白鳥ボートなどの乗り物系のアトラクションや、パットゴルフ場、釣り堀などの体験型のアクティビティ、バーベキューコーナーなどの設備が備わっています。敷地内にある

チーズアイスソーサー作りなどの加工体験メニューも用意しています。(現在、休止中)

○温根内ビクターセンター

たんちよう釧路空港から車で約20分の距離にある、手軽に湿原を楽しめる

ショップでは焼き肉の食材やソフトクリーム、軽食などを購入できるので、ほぼ手ぶらで訪れても1日中楽しむことができます。子どもたちは緑の中でのびのびと駆け回り、大人たちは広いバーベキューコーナーで昼間からビールで乾杯するのも最高です。汗をかいたら隣の温泉で日帰り入浴。家族の大切な思い出作りに最適です。



200羽を超え、冬のタンチョウの給餌活動が続いてきた。日本全国から寄せられた募金で建てられた施設です。

○湿原鶴居展望台

釧路市湿原展望台から鶴居方面に向かってすぐにある展望台で駐車場と隣接しており気軽に湿原を見る事ができるのが魅力です。眼下にはハンノキ林とスゲ・ヨシが生い茂る草原が広がり、サバンナのような幻想を抱かせてくれます。

風景のひとつでその絶景と圧倒的な川の蛇行の美しさは言葉で失うほどです。

○つるぼーの家

2016年にオープンした、鶴居村のアンテナショップです。焼き菓やヨーグルト、焼き菓や肉の加工品など、鶴居村の特産品を始めとした釧路管内の素敵なお土産が販売されています。木材をふんだんに使用した明るい店内には、広い休憩スペースや車椅子対応のトイレなどがあり、ドライブの途中の立ち寄り場所としても最適。鶴居村の牛乳をたっぷり使ったアイスや、チーズタルト、焼き立



スポットです。道道53号線沿いにある広い駐車場から

○音羽橋

鶴居村の東側に位置する音羽橋がかかる川は、真冬でも凍らないため、タンチョウの貴重なねぐらとなつています。タンチョウを思わせる赤に塗られた橋の上には、早朝、まだ餌場に飛び立つ前のタンチョウが休む姿を見ようと、日本のみならず世界中から多くの写真家がつめかけます。

○鶴居村ふるさと情報館

鶴居村の中心地にあるふるさと情報館は図書館や資料館などがあり、鶴居村の歴史や産業について、さまざまな暮らしの情報を得ることができるようになって

○村のキャラクター紹介

村のシンボルであるタンチョウと釧路湿原のヤチボウズという植物をイメージして2014年に誕生した男の子で、お腹には弟のひなぼーが一緒にいて、鶴居村を盛り上げ、全国にPRするため各地のイベントに登場し

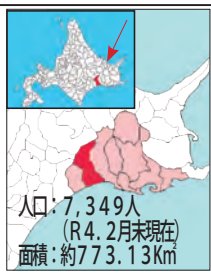


て活躍しています。

白糠町とは

概要

白糠町は、釧路管内の西南部に位置し、東は釧路市、南は太平洋に面しています。



気候は、年間平均気温6℃前後で推移しながら、初秋から冬季にかけては移動性高気圧により日照時間が長く、乾燥した季節風が吹き、道内でも積雪の少ない地域となっています。夏季は多湿で冷涼となり、5月から7月にかけて沿岸部に

「海霧」が発生し、6月から10月にかけては降水量が多く、全域を通じて太平洋側東部型気候となっています。

歴史

本町は、町の名をはじめとするアイヌ語由来の地名「チャシ跡」などの遺跡が数多く残されているとおり、古くからアイヌの人々が住んでいました。1632年(寛永9年)松前藩が白糠場所を開設。1800年(寛政12年)には、幕府の命を受けた八王子千人同心頭原半左衛門を隊長とする50名の八王子郷士が入植し、蝦夷地開拓と警備にあたりました。更に1857年(安政4年)には、石炭岬の地で幕府による道内最初の石炭採掘が行われました。1884

年(明治17年)戸長役場が設置され、明治後期から大正にかけて農業開拓を主とした入植が盛んとなり、更に木材・石炭資源が開発され、馬産地としても繁栄しました。それに伴い人口も増加し、町の形態を整え、1915年(大正4年)に2級町村制施行により白糠村、1950年(昭和25年)に白糠町となり、2020年(令和2年)に町制施行70年を迎え、今日に至っています。

郷土芸能「白糠駒踊り」



馬産地であつた白糠に明治33年、軍馬補充部釧路支部が設置され、和天別分厩で働く牧夫

が青森県出身の軍属から南部落の「野馬狩り」をモデルに衣装や振り付けを創作した踊りの指導を受けました。大正8年、支部関係者の子弟たちに伝承された踊りは、いつしか白糠オリジナルの「白糠駒踊り」となりました。

産業

本町は5大産業の町として発展してきましたが、昭和30年代半ばからはじまったエネルギー政策の転換に

よって、戦後の基幹産業であつた石炭産業は衰退し、現在は第一次産業が中心となっています。

漁業では、シシャモや毛ガニ、ヤナギダコ、ツブ貝など、1年を通じて様々な海産物が水揚げされており、農業では、酪農をはじめ、肉牛やめん羊などの畜産物、紫蘇やごぼうなどの野菜が生産されています。紫蘇は本町の特産品である「しそ焼酎 鍛高譚」の原料として使用されています。

昭和46年、釧路市を中核とした新しい工業開発の拠点として釧路白糠工業団地が造成され、平成26年度末をもって分譲が終了しました。現在は、町所有の分譲可能用地への企業誘致を進めています。

町の取組み

白糠町では、豊かな地域資源を生かし、「第一次産業の再興と振興」「町民の健康づくり」「教育(意識改革)」の3つの柱をまちづくりの重要視点として位置づけ、各種施策に取り組みんでいます。

○移住・定住支援

・**町有地の無償提供**
移住定住を希望される方に町有地を無償で提供します。

・**新築住宅の固定資産税減額**
町内に住宅を新築(取得)された方を対象に、固定資産税を最大5年間減額します。

・**太陽のまち定住奨励助成金の支給**
町内業者を利用して「住宅を新築又は建売住宅を購

・**太陽の手子育て支援**
18歳までの医療費無料化
②すべての子どもの保育料

入される方、住宅用太陽光発電システムを設置される方、地域材を利用した住宅の新築若しくは建売住宅の購入又は既存住宅の大規模改修をされる方」に対し、その費用の一部を最大250万円助成します。

・**ちよつと暮らし住宅の提供**
白糠町に体験移住等を希望される方には、生活するのに必要最低限の家具・電化製品等を備え付けた町営住宅をお貸しします。

・**空き家バンクの開設**
「白糠町空き家バンク」を開設し、空き家・空き店舗・空き地の物件の登録・紹介などを行います。

○**結婚・妊娠・出産・子育て支援**

・**公営塾の運営**
白糠高等学校内に設置した「久遠塾」において、生

無料化
③すべての子どもの給食費無料化
④入学支援金の支給(小学校:2万円、中学校:3万円)
⑤出産祝い金の支給(5万円)

・**不妊治療に対する支援**
不妊治療を受けた夫婦に自己負担分の費用及び交通費の一部を助成します。

・**妊産期の母子の健康診査費用助成**
妊婦健康診査と超音波検査費用の全額を助成します。(妊婦健康診査14回分、超音波検査14回分)

・**放課後学習サポート事業**
1年生から5年生を対象として、個々に応じた学習指導を無料で行います。



徒が希望する進路を実現するため、個々に応じた学習指導等を無料で行います。

・**結婚新生活支援事業**
婚姻された世帯に対して

新居の住居費、引っ越し費用及び家具家電製品等の購入費用の一部を最大50万円補助します。

○**ふるさと納税(寄附)**
全国の皆様からいただいたご寄附は、子育て・教育・まちづくりなど以下8つの事業に活用させていただきます。

・**旧国鉄白糠線に思いを馳せ「駅舎&駅前周辺整備」事業**

・**「太陽の手」子育て支援事業**
活力に満ちた産業、つくり事業

・**希望あふれる人づくりのための教育事業**
健康で思いやりのある社会づくり事業

・**ふるさと「しらぬか」の豊かな自然環境保護のための事業**

・**ふるさと「しらぬか」の魅力あるまちづくり事業**

・**ふるさと「しらぬか」を口ケ地とする映画制作支援事業**
ご意向に沿うようでしたら、本町のまちづくりを応援していただき、「ふるさと白糠」の魅力をご確認ください。

詳しくは下記サイトからご確認ください。
<https://shiranuka-furusato.jp/>



(お礼の品の一例)



「食と食材のまち 白糖町」

観光スポット

○道の駅「しらぬか恋問」
国道38号沿いにある白糖町最大の観光スポットである道の駅「しらぬか恋問」。白糖町のシカ肉やラム肉、チーズといった山の特産品、ししゃもや毛ガニ、灯台ツブといった海の特産品を取り扱っており、白糖町の豊富で魅力ある食材をお買い求めいただけます。



売され、行列ができるほどの人気のイベントとなっております。白糖町を訪れた際には是非、お立ち寄りください。

○恋問海岸

道の駅「しらぬか恋問」の南側に位置する恋問海岸。名前のとおりロマンチックな観光スポットで、映画などのロケ地としても有名なため、記念撮影をしようとたくさん観光客が訪れます。特に夏場は、涼しい浜風と心地よい波音を求めて、ソフトクリーム片手にカップルや家族連れで賑わいます。

また、最大の魅力でもある恋問海岸の景色は、日中の澄んだ海の青色もきれい

包まれ、観光に訪れる方もいます。この庶路ダムの紅葉は一度見ると毎年見に来たくなってしまふほどきれいで、リピーターも多く、大変人気となっております。10月には、そんな庶路ダムの紅葉を楽しむためのウオーキングイベントである「ぐるっと庶路ダム紅葉ウォーク」も開催され、釧路管内からの参加者ももちろんのこと、全道各地、本州からの参加者がいるほどの人気なイベントとなっております。



また、庶路ダムに向かう

どのスイーツやジャム、自家製のピザ窯で1枚1枚丁寧にじっくりと焼き上げられた手作りピザ、素材にこだわり抜いたソフトクリームやベークルなど大自然の恵みを生かした商品は大人気となっております。8月にはブルーベリー狩り、3月には天然のメープル採取などといったアクティビティも開催されており、予約がすぐ埋まってしまふほど人気です。ここでしかできない体験が皆さまをお待ちしています。



施設正面入口にはアイヌコタンを司る神様コタンコロカムイ(シマフクロウ)が設置されています。さらに、アイヌ文様の刺繍やリムセ(踊り)、ムツクリ演奏などのアイヌ文化に触れ、理解を深める体験教室や実際にアイヌ料理を作って食べる料理教室も開催されています。

また、展示コーナーには伝統的な祭事の道具やアイヌ衣装のほか、木彫りの作品なども展示されています。お土産や記念品とし



道の駅「しらぬか恋問」でしか買えない限定のストラップやドレッシング、珍味や紫蘇を使ったラムネはお土産として人気です。漁協の直売所の生簀では、とれたての魚介類が鮮度抜群の状態です。

また、道の駅弁・認定第一号の「この豚丼」が人気のレストランやラーメン店もありますのでご家族でランチなどおすすすめです。そのほかにもソフトクリームやたこ串つぶ串といった軽食もドライブのお供として大変人気となっております。

そのほかにも毎年恒例の1月3日に開催される恋問館新春大売り出しは、運が良ければ毛ガニが入っているお魚の福袋、お肉の福袋などが限定で販売

ですが、おすすめは夕方頃の方がオレンジ色に染まる時間帯です。「恋問オレンジ」ともよばれる夕暮れは写真に残してもきれいですし、旅行の思い出にもぴったりとなっております。大切な人と開放的な空間と景色がロマンチックな恋問海岸で癒されてみてはいかがでしょうか。



○庶路ダム

2004年に作られた、釧路管内で唯一のダムとなつている庶路ダム。秋にはダムの周辺一面が紅葉に

道中には桜並木もあり、春と秋で違った景色が見られるところも人気となっております。

○驚きの森Labo

道東自動車道白糖インターチェンジから車で約10分、着く白糖町青少年旅行村にある驚きの森Labo。白糖町の体験型観光拠点として全道各地から観光客が訪れます。

最大の魅力は何と云っても白糖町の大自然を全身で感じられるところです。驚きの森Labo周辺の散策路では、澄んだ空気の大自然の中、野鳥のさえずりや川のせせらぎなど、非日常感を味わうことができます。

また、白糖町産の無農薬で栽培されたブルーベリー、ラズベリー、クランベリーを使用したケーキな

て、アイヌ文様が描かれた「ウレシパチセ」とは「互いに育む家」を意味し、アイヌ文様の手縫い刺繍入りアイヌ伝統文化の体験、交マスクなども販売されています。情報発信の場として、2018年4月に移転改築

○イメーჯキヤラクター

道の駅「しらぬか恋問」の公式マスコットキャラクターであるコイタくん&メイカちゃん。

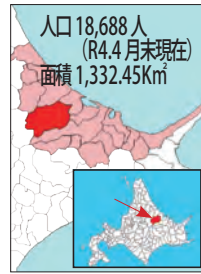


コイタくんは白糖町生まれのヤナギダコ。メイカちゃんは九州生まれのスルメイカ。メイカちゃんは黒潮に乗って北海道に観光旅行に訪れているところを巨大クジラに襲われてしまい、ピンチになったメイカちゃんを必殺技のタコ墨鉄砲で救ってくれたコイタくんを恋をし、2人は結ばれたそうです。そんな2人が出会った恋問海岸は恋人たちの聖地とも呼ばれており、たくさんのカップルが訪れます。また、道の駅「しらぬか恋問」にあるコイタくん&メイカちゃんのイラストが描かれたポストにラブレターを投函すると恋が叶うといったウワサもあります。

遠軽町とは

概要

2005年10月に遠軽町・生田原町・丸瀬布町・白滝村が合併し、新生「遠軽町」が誕生しました。北海道の北東部、オホーツク管内のほぼ中央にあたる内陸に位置しており、東西47km、南北46kmにわたる緑豊かなまちで、森林と清流といたった自然が身近にあるだけでなく、札幌市や旭川市への交通アクセスが便利で、医療機関も充実しており、スーパーやコンビニなどの買い物にも困らない「ほどよい田舎」です。



○芸術文化交流プラザ「メトロプラザ」



「吹奏楽が盛んな町」の文化を継承し、音楽活動や芸術、文化活動の拠点として町のシンボルとなる施設が2022年8月26日に完成しました。

最新の音響設備を備えた収容定員606席(固定席)の大ホールをはじめ、様々なイベントなどで活用できる小ホールやスタジオ、調理研修室など講習や制作活動に利用できる7つの多目的室を完備しています。



さまざまな用途で使用できるこの施設では、「にぎわいと活気」が生み出されるところにも、遠軽町の新たな文化が育まれていきます。

○特産品

・グリーンアスパラ

甘くて栄養豊富なアスパラのブランド「遠軽によっきーず」が作っている春アスパラは、茎が太く濃厚な味わいを楽しめ、夏アスパラは柔らかいのが特徴で、煮ても焼いても揚げてもおいしくいただけます。

・白滝じゃが

遠軽町の中でも昼夜の寒暖差が大きい「白滝地域」で栽培されているジャガイモで、でんぷん価が高くホクホクとした食感が新じゃがの頃から甘みや風味が強いのが特徴です。

・アイリッシュラム・ビーフ
2020年12月に遠軽町はアイランドのホストタウンに登録され、交流事業を行っており、アイランドが誇るプレミアムラムやビーフを町内で加工し提供しています。

○イベント情報

・湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会
毎年2月の最終日曜日に、国内最長となるクロスカントリースキーの大会「湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会」



が開催されます。大雪山の山々に抱かれた町内白滝地域をスタートした後、時には森の中で野鳥の声をせせらぎの音を聞きながら、時には広大な白銀の平原を眺めながら、それぞれのゴールを目指します。子どもから大人まで技術や体力に合わせて5〜80kmまでの個人用各コースと5人1組で95kmを滑る駅伝コースを用意していますので、親子や夫婦、仲の良い友人同士、学校や職場の仲間たちと参加してみたいかがでしょうか。

町の取組み

遠軽町では、地場産業の振興、医療、福祉、教育などの充実や移住・定住を促進し、人口減少を最小限に抑制する取組みを実施しています。

○お試し暮らし体験住宅

町内企業の人材確保やテレワークの推進を図るとともに、町外からの移住・定住を促すため、家財道具一式を備えた「お試し暮らし体験住宅」をご用意しています。2022年4月から「ワーケーション」は、丸瀬布地域の「ワーケーション」を設けるなど、遊び心あふれるデザインで、貸出用パソコンも備え、手ぶらで来てもテレワークが可能です。

2022年5月に町内の丸瀬布地域と白滝地域にワーケーション施設が誕生しました。



スを整備しました。詳しくは遠軽町ホームページをご覧ください。

○ワーケーション

丸瀬布地域と白滝地域にワーケーション施設が誕生しました。



丸瀬布地域の「ワーケーション」を設けるなど、遊び心あふれるデザインで、貸出用パソコンも備え、手ぶらで来てもテレワークが可能です。

○新規就農奨励金

町内各地域において、高齢化などによる担い手不足を解消していくための一助として、農業担い手の方に對する支援を行っています。

町内の新規就農者は、農○キッチンカー貸出事業業だけにどまらず、農泊 キッチンカーには、遠軽事業やテレワーク、遠軽の町の観光施設などが描かれた特産品である白滝じゃがを、動く広告使った料理の品評会「じゃがリンピック」の開催など、の皆さんへ貸ささまざまな場面で活躍してし出していきます。



○ふるさと納税(寄附)
遠軽町へふるさと納税をいたたくと、遠軽町特選の返礼品を贈呈します。

特に、GARAKUスープカレーは、大変多くの寄附者から御好評いただいている大人気の返礼品です。

ほかに、アイランドのステーキやオホーツク海産品を揃えていますので、ぜひ遠軽町へふるさと納税をお待ちしています。

いただいたご寄附は、「ふるさと振興資金」「産業振興資金」「福祉振興資金」「教育振興資金」に活用させていただきます。詳しくは、遠軽町ふるさと納税特設サイトをご覧ください。



森林と清流つくる・つながる にぎわいのまち「遠軽町」

観光スポット

○道の駅遠軽森のオホーツク

旭川・紋別自動車道丸瀬布遠軽道路の遠軽ICに隣接した北海道では125番目となる道の駅「遠軽森のオホーツク」が2019年12月にオープンしました。北海道では初めてのスキー場を併設した道の駅で、冬のスキーはもちろんのこと、夏場には自然豊かな敷地やスキー場の立地を生かしたさまざまなアクティビティが用意され、立ち寄る道の駅ではなく、楽しむ道の駅として、たくさんの方々に利用されています。



ろんオホーツク海やサロマ湖が望める絶景は一度体験すれば病みつきです！

・サマーゲレンデ

北海道内でも珍しい、雪がない時期でもスキーやスノーボードが楽しめる人工マットの「サマーゲレンデ」が2021年6月にオープンしました。特殊なポリエチレン素材でできた「ピスラポ」と呼ばれる人工マットは、限りなく雪に近い滑

いところでは地上8mを超える開放的な見晴らしも楽しめます。
・えんがるロックバレースキー場

スキー場の雪質や斜面はプロのスキー選手からも折り紙付きで、アルペンスキーの大別大会「FISファイブスタップ」が開催されるなど、国際大会の会場にもなっています。また、これまでもアルペン競技の合宿や学校のスキー授業などにも利用されてきた中で、道の駅の整備に伴い、スキー場の施設も大幅にリニューアルを行

い、ペアリフトをはじめ、ナイター照明や人工降雪機の更新、ゲレンデの拡張などにより、子どもから高齢者まで、初心者から上級者まで多くの方々が楽しめるスキー場として人気です。
・その他のアトラクション

使った経木わっぱのギフトボックスに、お好みで商品を詰め合わせる「オリジナルのギフト」づくりが楽しめます。
また、フードコートでは、町特産の「白滝じゃが」を使った商品を提供しており、野菜たっぷりでお腹いっぱいある「1日分の野菜カレー」やSNS映えする「クリームチーズポテト」、町内の牧場「フルディックファーム」と共同開発した、ゴマの香りと黒曜石のような漆黒の輝きが特徴のソフトクリーム「ジオソフト」などが評判です。



赤や白、ピンク色の混合コスモスをはじめ、黄や橙色の黄花コスモスのほか、チョコレートの香りがするコスモスなど、珍しい品種のコスモスが、来園者の目を楽しませてくれます。

○木のおもちゃワールド館
ちやちやワールド

「東洋一スリリング」なジップラインが2021年8月にオープンしました。

ジップラインは、空中に張ったワイヤーロープを専用の滑車を使い、猛スピードで滑空するアクティビティで、安全器具を装着し、リフトで登ったえんがるロックバレースキー場の山頂から2つのラインを滑り降ります。最高時速70kmのスピードと遠軽町の市街地はもち



走感覚が味わえると、スキー・スノーボード競技者や愛好家から好評で、オフシーズンのトレーニングにも最適です。専用の板やブーツなどのレンタル用品も充実しており、手ぶらでも楽しめます。

・ツリートレッキング

木の上に足場を組んでワイヤーやロープ、はしごなどのアトラクションで、木から木へ渡り歩き、空中散歩が楽しめます。

「一般コース」と「キッズコース」があり、「一般コース」は29のアトラクションで構成され、最も高

伸縮性のある頑丈なゴムとトランポリンを使い、約5mの高さまでジャンプできる「バンジートランポリン」や、愛犬と楽しめる「ドッグラン」、体を前後に傾けるだけで簡単に加速や減速することができる新感覚の乗り物「インモーション」などがあります。

また施設内には、オリジナルスノードームなどが作られる体験コーナーも備えています。

・森のオホーツク足湯

運動疲れや遊び疲れた後は、高濃度炭酸泉で疲れを癒してくれる足湯を整備し、利用客にも大変喜ばれている施設です。

・お土産・飲食コーナー

地元企業による道の駅限定のスイーツや加工品など、遠軽・オホーツクの産品を中心にそろえており、オホーツク産の木材を



り、すぐそばには温泉や昆虫生態館もあります。楽しみ方は無限大です！
雨宮21号はその昔、この地域で木材の運搬に活躍した蒸気機関車です。

国内唯一の動く森林鉄道蒸気機関車であり、煙突からはモクモクと煙を上げ、足回りのピストンからは白い蒸気を出しながら、いこいの森園内に敷設された2キロメートルの軌道を走ります。

○太陽の丘えんがる公園虹のひろばコスモス園

世界約40か国の木のおもちゃを集めたミュージアム。からくりおもちゃ・あやつりおもちゃ・くるみ割り人形など大小1万点もの木のおもちゃを展示・収蔵しています。

また、木のおもちゃ作りが体験できる木工房「ゼペット」や、影絵の巨匠・藤城清治氏の作品を展示した「コロボックル影絵美術館」も併設しています。

○白滝ジオパーク交流センター

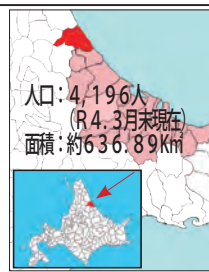
遠軽町は日本最大級の黒曜石の産地で、町内には多くの遺跡が点在し、火山活動や旧石器時代の人々の暮らしを今に伝えています。白滝ジオパーク交流センターでは、ジオサイトについて情報を発信しており、定期的に黒曜石ジオツアーも開催しています。



雄武町とは

概要

雄武町は北海道北東部に位置するオホーツク海沿岸のまちです。北東側一帯はオホーツク海に面し、東部から南部は興部町・西興部村に接しています。また、南部から西部には下川町・名寄市・美深町との堺に隣しい北見山地が連なり、北西は枝幸町に隣接しています。地形は二等辺三角形に近い形をし、総面積は636.89km²を有しています。



例年1月から3月にかけて海岸には流水が接岸し、

また、1年を通じて冷涼な気候であり、降水量は年間平均にすると比較的少ない地域となっています。

鮮やかなコバルトブルーのオホーツク海に臨む海岸線が35kmに及び、乳牛たちが草を食む草原をバックにどこまでもゆつたりとしたのどかな景色が続きます。

海岸から南西に伸びる大地には緑輝く牧草地が一面に広がり、その後には原生林が残る秘境ジャシリ山をはじめとする山系が連なっています。これらの自然は四季折々に様々な表情を見せて、特に1月下旬から3月にかけては流水が接岸し、海岸線が白い大地へと変化する光景は、オホーツクの厳しさとロマンを感じさせます。

この町では、訪れる人が思い描く北海道の原風景、

町章

おうむのヲを六つ組み合わせた雪形にし、その中央に北斗星を配置して北見雄武を表現しています。また、青色は広大な空とオホーツク海を象徴しています。



地名の由来

雄武という地名の語源は、アイヌ語の「オムイ」(河口が塞がる)に由来します。雄武川の河口は、嵐の時は、川から流れ出る水よりも、海から打ち寄せる波のほうが強く、河口が塞がっ

てしまうため、このような名称がついたと言われている。(毎年6月最終土・日曜日予定)

歴史

雄武周辺への和人の入植は、江戸時代末期に開かれた宗谷場所が拡大し、雄武周辺にも番屋が建てられたところから始まります。明治5年(1872年)には紋別郡10ヶ村のひとつとして雄武・沢木・幌内の3村が誕生します。以後、新漁場として開発された雄武地区に人口が急増し、明治33年(1900年)には紋別村より分村して雄武外3ヶ村戸村役場が設置されました。大正4年(1915年)に沢木村・幌内村を合併して2級町村制が敷かれました。昭昭和23年(1948年)に現在の町制が施行され、今に至ります。

・雄武の宝「うまいもんまつり」
(毎年9月最終日曜日予定) 見て、触って、味わって

町の取り組み

雄武町では、2020年3月に策定した「第2期雄武町まち・ひと・しごと総合戦略」に基づき、効果的な少子化対策や地域資源を活かした産業・雇用の場の創出、生活環境の整備など、地方創生の充実・強化に向けて切れ目なく取り組みを進めています。

お試し暮らし事業

定住施策を推進することにより人口の流入を促し、町の活性化を図ることを目的として、移住希望者が一定期間、雄武町で生活体験ができる雄武町お試し暮らし事業を行っています。住宅は、2LDK+ホールの木造平屋建てです。日常生活を営むための家具什器を備え、手軽に生活を体験で



きます。「北海道で住んでみたい」「田舎暮らしをしてみたい」と言う方、いかがですか?カニや鮭、ホタテなどの海産物の豊富な雄武町、酪農の盛んな雄武町が皆さんのお越しをお待ちしています。

移住支援金(U-I-Jター

※現在、新型コロナウイルス感染症対策により受入れを中止しています。事業を再開する場合は雄武町HPでお知らせいたします。

新規就業支援事業) 東京圏から雄武町に移住し、かつ北海道が運営する

マッチングサイトに掲載されている対象企業等に就業または起業した場合、国・北海道・雄武町が共同で移住支援金(単身での移住の場合・60万円、2人以上の世帯での移住の場合・100万円)を交付しています。

移住宅地の無償貸付及び無償譲渡制度

※対象要件が複数ありますので、事前にお問い合わせください。

雄武町では町外からの転入と定着を促進し、過疎化の防止と町の活性化を図るため、移住宅地(町有地の一部)を無償で貸与し、一定期間内に住宅を建築した場合にその土地を無償で譲渡しています。なお、譲渡に係る費用(登録免許税など)については、申込者の

負担となります。また、所得税法に基づく確定申告が、必要となります。

ふるさと納税(寄附)

雄武町では、オホーツク海で獲れるホタテ、鮭、カニなどの豊富な海産物や広大な土地を活かした韃靼そば、牛肉、チーズなどの農畜産物、ホテル日の出岬の宿泊券などを返礼品としてご用意しています。

また、皆様からのご寄附につきましては、学校給食費の無償化、学校図書の実用などに活用させていただきます。

寄附の申込については、応援寄附金申込書を提出していただくか、ふるさと納税ポータルサイトから寄附の申込みをすることが可能です。詳細については、雄武町公式ホームページをご覧ください。(担当:財務企画課)



「郷土愛で築く、次世代へ 躍進するまち・雄武町」

観光スポット

○日の出岬エリア

雄武町の中心地から紋別・網走方面に車で10分ほど向かったところにある観光エリアです。
オホーツク海に突き出した岬の周辺にはオホーツク温泉ホテル日の出岬やキャンプ場、展望台などの観光施設があり、夏には磯遊び、冬には流水と四季を通じてオホーツクの大自然を楽しむことができますなど、雄武町の観光拠点となっています。
また、地名のとおり燦燦とオホーツク海から昇る日の出を見ることができ、冬の冷え込む時期には海と空気の寒暖差によって蜃気楼が発生し昇る太陽



が四角く見えることもあります。様々な条件が組み合ったときのみ起こる自然現象なので見られたときの喜びはひとしおです。

○日の出岬展望台「ラルーナ」

日の出岬の先端に建つ全面ガラス張りの展望台です。荘厳なオホーツク海をパノラマで眺望することができます。
また、無料で利用できる双眼鏡が設置されていて、天気の良い日には海の向こう側に知床連山が見えることもあります。

○日の出岬キャンプ場

場内のどの位置からでも海を眺めることができ、潮騒を感じながらゆったりと時間を過ごせる場所です。水洗トイレや炊事も整備されているためバーベキューを行うことができます。また、事前予約をすることで利用できるバンガローもあるの

でも楽しめます。
また、岬特有の冷涼な気候により夏場でも山間部に比べる虫が少なく、落ち着いてキャンプを楽



また、無料で利用できる双眼鏡が設置されていて、天気の良い日には海の向こう側に知床連山が見えることもあります。
展望台の周辺には本来高山地帯にのみで繁殖する植物が茂っており、珍しい植物になっています。

○オホーツク温泉ホテル日の出岬

町内最大の観光ホテルです。すべての部屋がオホーツク海に面しており、四季折々の眺めを満喫できます。
窓を開けると波の音と潮の香りを感ずることが出来ます。また、晴れた日には日の出も見ることができ特別なホテルです。
温泉の泉質は塩化物強塩泉で、湯ざわりはさっぱりしていますが、汗が噴き出るほど体が温まります。日帰り入浴も可能で、露天風呂、サウナも整備されています。

また、貸切展望温泉もあり、ご家族連れでの利用のほか、浴室に設けられた緩やかなスロープからは専用の車いすを利用して入浴できるなど、あらゆるお客様にゆつくりとくつろいでいただけます。

○宮の森公園

公園内には無料で利用できる36ホールのパークゴルフ場があり、道具も無料で貸し出しているののでふらつとした展望台からは、雄武と立ち寄った方も気軽に遊べます。また、散策路も整備されており、森の中をウオーキングすることができます。野鳥の声もにぎやかで気分をリフレッシュするには最適な場所です。遊具も充実しており、家族連れで楽しめる場所となっています。



○風の丘公園

宮の森公園と同様に、自然豊かな場所をウオーキングすることが出来ます。
冬期間にはロープリフトの小さなスキー場がオープンし、無料でウインタースポーツを楽しむことができます。

○町の公認キャラクター「いくらすじ子」

雄武町の特産品である鮭の稚魚をイメージした町の公認キャラクターです。
雄武町の川で生まれ、頭には鳥のオウムと日の出をモチーフにした帽子をかぶり、おなかには「さいのう」(鮭の稚魚がつけている栄養の入った袋)をつけています。将来の夢はオホーツクの海を冒険すること。



キャラクターデザインを一般公募し、町民投票を経て、町で協議した結果、投稿された全87デザインを勝ち抜き2020年から町内での活動を開始しています。
コロナ禍でのデビューとなり、現在では挨拶運動や交通安全啓発運動など町内イベントで活躍しています。

また、オホーツクのキャラクターが集まる「オホ☆キャラ隊」にも参加し、管内で連携して地域の魅力を発信しています。「オホ☆キャラ隊」でカーリングや人間ばんばをしている様子が現在もYouTubeで見ることが出来ますので是非ご覧ください。

○道の駅「おむむ」

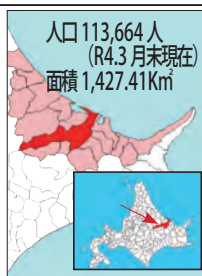
4月下旬〜10月の間は施設内に売店があり、町の特産品を購入したり、軽食を



北見市とは

概要

平成18年3月5日に北見市・端野町・常呂町・留辺蘂町が合併し、新「北見市」となり、平成28年に合併10周年を迎えました。都市施設が整備された北見エリアには、ハッカの歴史を伝える「北見ハッカ記念館」があり、隣接の「薄荷蒸溜館」では、ハッカの蒸留体験を行っています。令和2年10月に整備された「アルゴダラフィックス北見カーリングホール」では、北見市で2箇所目の通年型のカーリングホールで、通年でカー



リング体験を楽しめます。田園風景の広がる端野エリアには、ホテルを備えた複合型リゾート施設「ノーザンパークリゾート」があり、夏場はゴルフ、冬はスキー等が楽しめます。オホーツク海に接する常呂エリアには、北海道遺産となつている「ワッカ原生花園」があります。林業と温泉の留辺蘂エリアには、開湯120年を超える温泉郷「おんねゆ温泉」のほか、世界最大級のからくりハト時計塔「果夢林」などの観光施設が充実しています。

○農業
北見市の農業は、大雪山の石北峠からオホーツク海沿岸までの東西約110kmと広範囲にわたる中で、約23700haに及ぶ耕地面積を有し、稲作や麦類、馬鈴しょ、てん菜、豆類など

の畑作や、玉ねぎを中心とした野菜などの土地利用型農業、酪農・畜産など多様な経営が行われています。生産される農畜産物は、化学肥料や化学合成農薬の使用を必要最小限にするなど、環境との調和に配慮するグリーン農業を取り入れた、安全・安心で品質の高い農畜産物です。

○水産業
オホーツク海とサロマ湖における「つくり育てる漁業」と「資源管理型漁業」の推進により、ホタテ、サケ・マスなどを中心に生産性の高い漁業が展開されており、サロマ湖では漁業環境保全対策に取り組むなど、安全で安心な水産物の供給や環境と調和した水産業の振興を図っています。

○林業
北見市の林業は、大雪山の石北峠からオホーツク海沿岸までの東西約110kmと広範囲にわたる中で、約23700haに及ぶ耕地面積を有し、稲作や麦類、馬鈴しょ、てん菜、豆類など

○水産業
オホーツク海とサロマ湖における「つくり育てる漁業」と「資源管理型漁業」の推進により、ホタテ、サケ・マスなどを中心に生産性の高い漁業が展開されており、サロマ湖では漁業環境保全対策に取り組むなど、安全で安心な水産物の供給や環境と調和した水産業の振興を図っています。

○林業
北見市の林業は、大雪山の石北峠からオホーツク海沿岸までの東西約110kmと広範囲にわたる中で、約23700haに及ぶ耕地面積を有し、稲作や麦類、馬鈴しょ、てん菜、豆類など

○商業
当市では、卸売機能、物流機能の集積が進み、オホーツク圏の物流拠点の役割を果たしている。卸売業、小売業を合わせた年間販売額は約3531億円となつています。オホーツク総合振興局管内における小売業の販売額シェアは、42.4%、卸売業においても60.5%を超えるなど、拠点として確固たる地位を築いています。

市の取組み

第2期北見市総合計画に掲げる「ひと・まち・自然」を核として、オホーツク中核都市・未来を拓く活力創造都市「北見」を将来像とし、豊かな自然に恵まれた大地を大切に育て、人と人が支えあう、活力あるオホーツクの中核都市を目指し、市民と協働で創るまちづくりを進めています。

○希望あふれる子育て支援の充実

子どもたちを健やかに育て、母子保健活動、子育て相談体制、交流の場づくりなどを充実させ、同時に幼児教育や子どもの発達に合わせた療育体制や青少年の健全育成など、妊娠期から安心して子どもを産み育てることができる環境つ

くりを進めています。令和3年度は産後ケアの拡充や3歳児検診時に弱視スクリーニング検査を新たに実施するなど、切れ目のない子育て支援の充実を図っています。

○ともに学びあう生涯学習の推進

健康や体力づくりも含めたスポーツに対する市民の意識やニーズが高まる中、カーリングのまちとして認知されている地域特性を生かし体育授業や地域おこし協力隊（カーリングサポーター隊）によるサポーターの育成支援やスポーツ教室の開催による協議振興を図っています。

○創造性あふれる雇用環境の充実

ライフスタイルの変化や若年層を中心とした働き方に対する考え方の変化、またコロナ禍において、多様な柔軟な働き方が求められる中、インターネットなどの情報通信技術を利用した場所や時間を有効に活用できるテレワークにより就業環境のさらなる充実を推進しています。

○快適な生活空間の充実

近年、自家用車の普及や社会経済情勢の変化により、公共交通利用者が減少傾向にあります。高齢者をはじめ自動車などの移動手段を持たない人々にとって公共交通は日常生活を送るうえで重要となるため、広域交通の維持確保を図るとともに、バス待合所の整備や地域循環バスの導入、実証運行などを実施し、地

域の実情に合った交通シフトの構築を進めています。

○ふるさと納税（寄附）

北見市は、北海道で一番面積が広く、海の幸と山の幸が豊富に集まる「オホーツクの台所」です。農産物では生産量日本一の玉ねぎや白花生、海産物ではホタテ・牡蠣・サケなどが有名です。オホーツクの自然で育った魅力と素材の良さが生きる、こだわりの返礼品をお届けいたします！

【返礼品人気3品】

- ①ホタテ ②玉ねぎ ③赤いサイロ

その他、北見市を拠点とする女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」のオリジナルグッズなど、カーリング関連のお礼品もご用意しています。



詳しくは北見市ふるさと納税HPをご覧ください。
担当課：企画財政部地域振興課
☎0157・57・4366



「ひと・まち・自然をらめく オホーツク中核都市 未来を拓く活力創造都市北見」 観光スポーツ

○北見ハッカ記念館・薄荷蒸溜館



25年で、当時北見駅近くに家畜処理場があり、ホルモンをはじめ新鮮な肉が手に入りやすかったため市民に広まりました。地元で好まれる部位は、牛サガリ（ハラミ）、豚ホルモンといった内臓系で、七輪（炭火）で香ばしく焼き、果物や玉ねぎなどを使った各店特製の生ダレ（加熱していないタレ）で食べるのが北見流です。

北見は夏から秋にかけての乾燥した気候がハッカ栽培に適していたことから、古くからハッカの栽培が盛んであり、最盛期には世界の70%を占めるほどの「ハッカ王国」でした。現在も精製の技術や伝統は受け継がれており、昭和10年に建築され

○アドヴィックス常呂カーリングホール・アルゴグラフックス北見カーリングホール
北見市は、数多くのオリンピック選手を輩出してきたカーリングの街です。平

ホール利用はもちろん、国内外トップチームの練習や大会が開催され、初心者でも手ぶらでカーリングの体験が可能となっております。

○北きつね牧場

日本で唯一北きつねの放し飼いの牧場で、自然の林野をそのままに活かした遊歩道から約100匹も北きつねが元気に遊ぶ姿やえさをねだる姿などかわいらしい光景が見られます。毎年



○北の大地の水族館

滝つぼを見上げる水槽



「北の大地の水族館」は内に位置し、湖はオホーツク海に面しており、2つのデューサー中村元（なかむら）氏は、展示水槽す。夏の日には深い紺碧の開放をはじめ、設計アド水が、冬には凍てつく氷のアイスや建築監修などのプような白が果てしなく広がるサロマ湖は、四季を通じの「川が凍る水槽」や、日に壮観な景色を提供し、特別の「滝つぼを見上げる水槽」など、自然を模した生生きとした魚たちの様子が見られる、淡水魚を集めた水族館です。「魔法の温泉水」で育った巨大熱帯魚や、1メートル級に育つ

6月頃になると春に生まれた元気な子ギツネたちが仲間入りします。

○ワッカ原生花園

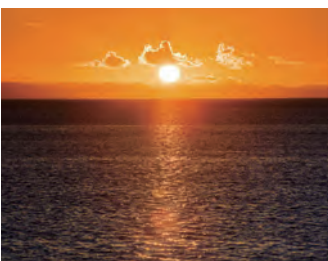
「ワッカ原生花園」は、オホーツク海とサロマ湖を隔てる長さ20kmにも及ぶ細長い砂州で日本最大級の海岸草原です。300種を超える植生の多様性と群落のスケールの大きさを「奇跡の生態系」と評されています。2001年10月には北海道遺産にも選定されています。



○サロマ湖

約20匹の天然イトウの迫力ある姿も、間近で見ることがができます。

サロマ湖は、総延長約90kmの雄大な湖で、北海道では最大、日本では3番目に大きな湖です。島の北東の海岸、網走国定公園の境界



た旧ホクレン北見薄荷工場の研究所は現在記念館として活用され、当時使われていた機械や北見薄荷の歴史を見学することができます。ハッカ蒸留館では爽やかなハッカの香りに癒されながら、オリジナルのアロマクリームづくりが楽しめる「フレグランス体験」や「ハッカの蒸溜体験」を楽しめます。

○北見焼肉

北見は人口当たりの焼肉店数が北海道内随一の焼き肉のまちです。北見



初の焼肉店が誕生したのは昭和のはじめ、最優秀選手を輩出するカーリングの「聖地」としても知られています。国際大会が可能なアドヴィックス常呂カーリングホール、令和2年10月に誕生したアルゴグラフックス北見カーリングホールを有し、一年を通じてカーリング体験ができる施設が整備されています。両カーリングホールでは一般の

○市のキャラクター紹介

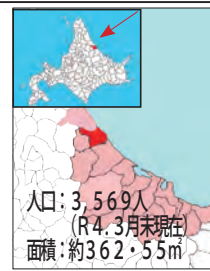
北見市のキャラクターであるエゾリスがモチーフの「ミントくん」と「ペッパちゃん」、2人合わせてペーミンントで、ハッカのまち北見を表したネーミングです。性格は2人とも見た目通りおっとりしていて、角の無い性格。また北見の食べ物や美味しくて少々丸めの体格がチャームポイントです。様々な北見市のPR活動にて活躍しております。



興部町とは

概要

興部町は、オホーツク海のほぼ中間に位置し、人口約3600人、「大規模な酪農業、水産資源の豊富な漁業、豊かな森林を活かした林業」の町です。町名の語源は、アイヌ語「オウコツペ」より転訛したもので「川尻の合流しているところ」の意であり、当時興部川と藻興部川が合流し、オホーツク海に注いでいたことから、このように呼ばれています。



気候は、冷涼な気候で夏は涼しく、冬は流水が海を

覆いつくします。その厳しい自然環境だからこそ、生産物を中心とした豊富な農畜産物や海産物に恵まれた町です。1940年代後半から冷害・凶作に見舞われ、その教訓を踏まえ「寒冷地に強い作物を」ということで、1950年代より畑作から酪農業に転換し、酪農業専業経営として現在に至っています。

など、国内への畜産物の供給のみならず、幅広い関連産業とともに、地域の雇用や経済を支える重要な基幹産業として大きな役割を果たしています。

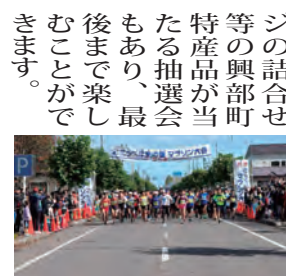
興部町の農業は、食生活の多様化による需要拡大と豊かな土地資源を活かしながら持続的可能な酪農・畜産経営を目指し、省力化と生産性・収益性向上を図るためコントラクターやTMRセンターの整備を進めています。生乳の需要拡大では、酪農家が、牛乳・チーズ・ハム・ソーセイジなど高品質の食品に加工し、乳肉製品の製品・販売を行う

☆イベント情報
おこっぺ夏まつり
興部の短い夏を満喫できる「おこっぺ夏まつり」は、毎年8月の第1土曜・日曜日に開催されます。前夜祭では、ビアガーデン

☆おこっぺ夏まつり
興部の短い夏を満喫できる「おこっぺ夏まつり」は、毎年8月の第1土曜・日曜日に開催されます。前夜祭では、ビアガーデン



☆おこっぺ牛乳(ちち)の里マラソン大会
毎年、10月第1日曜日に開催される興部最大のマラソン大会です。



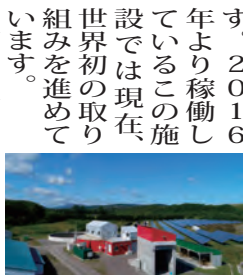
町の取り組み

興部町では、基幹産業である酪農業から排出される家畜ふん尿を活用したまちづくりを進めています。

家畜ふん尿は近年、世界的にも動きが活発となっており、脱炭素に向けた取り組みの一環である再生可能エネルギーの一つであるバイオマス資源といわれ、発酵処理を加えることによりカーボンニュートラルなエネルギーを生み出します。基幹産業の振興や臭気対策、クリーンエネルギーの生産と多面的な効果をもたらす、未来のまちづくりにとって非常に重要な取り組みです。

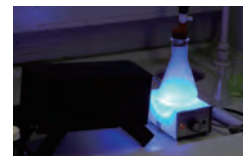
○興部北興バイオガスプラント
家畜ふん尿を発酵処理する施設をバイオガスプラン

トとよび、「興部北興(ほつこう)バイオガスプラント」を町で運営しています。この施設は、町内の酪農家6軒から家畜ふん尿を収集し、メタン発酵処理を行っています。この処理により家畜ふん尿は臭気が大幅に低減された家畜飼料生産に有用な肥料に生まれ変わり、発酵過程で発生するバイオガスは、発電などによりエネルギーを生み出します。2016年より稼働しているこの施設では現在、世界初の取り組みを進めています。



○バイオガスから燃料生産
バイオガスは、メタン(CH₄)と二酸化炭素(CO₂)からなるガスであり、そのメタンを液体燃料に変換す

る技術開発を町では実施しています。2018年に大阪大学と技術開発に関する連携協定を締結し、町営の研究機関であるオホーツク農業科学研究所センター及び興部北興バイオガスプラントにて共同研究を進めています。本技術は2019年に大阪大学の大久保教授が発表した、メタンを常温常圧でメタノールとギ酸という物質に変換する技術であり、世界初の技術です。この技術が普及することにより、カーボンニュートラルなエネルギーの生産が可能となり、脱炭素社会の実現に貢献することから、町では今後も研究を進めていきます。



ふるさと納税(寄附)
〈興部町ふるさと応援寄附金〉

皆様から賜りましたご寄附は、「生活基盤の向上」「産業の振興」「保健・医療・福祉の向上」「教育・文化・スポーツの振興」「生活環境の向上」「協働によるまちづくりの推進」に大切に活用させていただきます。詳細については、興部町ホームページ又は、各種ポータルサイトをご覧ください。

乳製品や海産物をはじめとした、おこっぺ自慢の特産品を100種類超のラインナップをご用意しております。

(担当) まちづくり推進課
☎0158-821-2132

左記QRコードを読み込んでいただくとポータルサイトへ移動することができます。



ふるさとチョイス
あなたの意思をふるさとに



「酪農と漁業のまち興部町」

観光スポット

○交通記念複合施設

国道239号線沿いの興部駅跡地にJR名寄線の廃止に伴い建て替えられた、北海道内29番目の道の駅、「道の駅おこっぺ」として登録されている交通記念複合施設は、「アニユウ」「ジョイパーク」「ルゴースエクспレス」の3つの施設で構成されており、「アニユウ」には、鉄道の歴史をテーマにした展示コーナーのほか、バス待合所やイベント館などがあり、訪れた観光客や町民たちで賑わっています。年間を通して興部町自慢の特産品の販売もしており、道内外から多くの人が訪れています。

（※現在は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開設を中止しています。）



図るため、乳牛の飼料や牧草の土壌分析等、そして新たな乳畜製品の開発のための加工実習など、あらゆる分野においての酪農に関する研究を行っています。



○米田御殿

米田御殿の主人、米田常作氏は1898年に父久三郎氏とともに20歳の時に興部に入植しました。農業・造林業などを手広く事業展開し、大正時代には木工場



なく「邸」と呼ばれますが、米田御殿は、生活行為の建物ではなく、伯爵の一時滞在型建物であることから「米田御殿」という名称を使っています。伯爵を迎え入れた後の御殿は、結婚式などの会場として公民館ができるまで、町内の人々に広く利用されていたと聞いています。毎年、6月・10月に一般公開されます。

アフリー設計で足の不自由な方も安心して利用できるようになっていきます。バルコニーに出れば目の前にオホーツク海が広がります。心を癒しにいかがですか。



「ジョイパーク」と呼ばれる広い公園には、車輪のオブジェをはじめ、噴水や遊水路、芝生広場、ステージなどが整備され、町民の憩いの場となっているほか、夏まつりなどのイベント会場として利用されるなど、季節によって様々な賑わいを見せています。



○モーモー城と周辺の景観
別名モーモー城と言われるオホーツク農業科学研究センターとその隣に立つ風車。この2つは興部町のシンボリック存在となつています。そこから見える興部町を一望できる景色も美しく、季節によって景観が変わります。4月下旬から5月下旬までは、モーモー城周辺に水仙畑が広がります。

モーモー城は、町の基幹産業である酪農の進展を

や澱粉工場を経営し、更に木工場を改造し火力発電所を設立するなど、興部町に数多くの貢献した人物です。

米田御殿は、1922年（常作氏が44歳の時）に、華族で貴族院議員の柳原義光伯爵（大正天皇とは従兄弟同士）が来村することとなり、当時の興部にはそのような高貴な方が滞在できないような施設は無かったことから急遽「迎賓館」として1922年に建築されました。「御殿の特徴」として内部は、今も当時のまま保存され、特筆すべきは、



○沙留海水浴場

「迎賓館」として建築されたため、台所、便所などは配置されず生活感が全く感じられなく、座敷側の意匠と雁行型の縁側には、御殿の風格が感じられる建物となっております。通常歴史の建築物は「御殿」では

7月中旬から8月中旬までの約1カ月開設している、オホーツクの青い海を満喫できる美しい海水浴場です。休憩所として利用できる海の家や、トイレ、脱衣所、シャワールーム、食堂、テントサイトなどがあり、毎シーズン多くの人で賑わいます。隣接するコテージ『しおさい』も6月～9月まで4カ月の営業しており、1棟はバリ

特産品

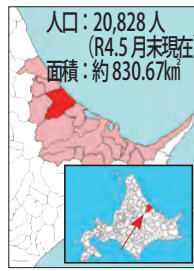
興部町の特産品は、乳製品をはじめ、ハム・ソーセージ、はまなすジャム、ダツタンソバ、干貝柱など、種類が豊富です。特に町内4つのチーズ工房で作られているチーズやヨーグルトは、数々の賞を受賞しています。



紋別市とは

概要

紋別市は、オホーツク海沿岸の中央に位置し、南北41km、東西34km、総面積は830.67km²の広大な市域を有しています。海岸線から内陸へ徐々に傾斜が増す地勢で、西部は南北に連なる北見山地に、南部は東西に起伏する千島山系に囲まれており、天塩岳にその源を発する渚滑川がオホーツク海に注いでいます。地域の約8割を森林地帯が占めているほか、海岸線は28kmに及び、海・山・川に囲まれた雄大で美しい自然



環境・景観を誇ります。気候は、道内の内陸に比べる比較的穏やかで、2月の平均気温はマイナス5℃前後、8月の平均気温は19℃前後、年間平均降水量は800mmと少なく、日照時間は1700時間程度と全国平均をやや下回っています。年間の降雪期間は130日前後となっているほか、平年の流氷初日は1月下旬、流氷終日は4月上旬、流水期間は70日前後となっています。交通は、札幌市から乗用車で4時間(270km)、旭川市から2時間30分(140km)となっており、市内に鉄道はありませんが、都市間バスが運行されており、更なる利便性を図るため、高規格道路旭川・紋別自動車道の整備促進を図っています。また、オホーツク紋別空港を

●特産品
・ホタテ
紋別市のホタテは、稚貝を漁場に放流してから4年間、流水が運んでくる栄養たっぷりの天然のプランクトンを餌に、冷たい海水の中で自由に泳ぎ、荒波に揉まれて逞しく育つため、養殖とはまったく違い、旨味が凝縮され、食感のよいホタテになります。刺身はもちろん、ソテーやフライ、

アヒージョなど、様々な食べ方でお楽しみいただけます。す。
・三大ガニ
ミネラルとプランクトンを豊富に含んだ流水によって、格別の旨味を蓄えるオホーツク産のカニ。味わい深い蟹身と濃厚なカニ味噌が魅力の「毛ガニ」、繊細な甘みとジューシーな旨味が自慢の「ズワイガニ」、引き締まった蟹身でポリウム満点の「タラバガニ」は、紋別を代表する海の味覚です。
○イベント情報
・もんべつ港まつり
7月下旬に開催されるもんべつ港まつりは、100を超える露店や特設ステージ、歩行者天国で行われるも開催されます。
・もんべつ流水まつり
紋別が最も寒くなる2月に開催される冬最大のイベント。会場には重さ100kgの天然氷柱を使用したメインステージや多くの氷像が飾られ、夜には厳寒の中、冬の味覚が楽しめるオホーツクまるかじりパーティーも開催されます。



市の取り組み

紋別市では、2020年3月に策定した「第2期特別市総合戦略」に基づき、将来に渡って持続可能なまちづくりを目指し、定住人口・関係人口・交流人口の拡大を図るとともに、この街に住む全ての市民が活躍でき、活気あふれるまちづくりを進めています。

子育て支援施策

ふるさと納税で多くの皆様に応援いただいているご寄附を財源として新たに「子育て応援基金」を創設し、「出産・子育て応援支援金」として新生児1人当たり10万円の給付のほか、高校生までの医療費自己負担分の助成や学校給食費の無料化など、「子育てに優しいまち」の実現に向けた

施策を展開しています。またこれらの取り組みを移住・定住に結びつけるため、道内外へのPR展開も積極的に行っています。

移住・定住施策

首都圏などからのU・Iターンによる移住・定住者を確保するため、雇用開発推進員によるきめ細かな就業相談支援や、転居等に要する経費を助成する定着奨励金、市内の人手不足業種への就業を推進するための資格加算助成のほか、奨学金返済額の一部助成など、移住・定住者に対する各種支援を実施しています。また、紋別での暮らしを体験してもらい、移住・定住や二地域居住につなげるため、市街地や郊外地区に体験住宅を整備しています。

観光・交流施策

流水観光船方リコン号Ⅲ I M E R U の就航や流水観光の拠点施設である紋別市海洋交流館の増築など、流水観光をメインとした国内・国外の観光客の誘客を図っており、併せて、オホーツク紋別空港の利用促進を図るため遠紋8市町村が一体となった航空運賃補助や空港送迎バスの無料化等に取組んでいます。

外国人交流施策

外国人との共生社会の確立を実現するため、私生活や就労等に



受人環境を整備するとともに、活発な交流事業の展開により市民意識の醸成を図

ふるさと納税

紋別市では、地域のかげがえのない財産である流水と自然を守るため、2008年に「オホーツクの流水と自然を守る寄附条例」を制定し、皆さまから温かいご支援をいただき、環境保全の取組みや地域の活性化に取り組んでいます。
オホーツクの海や緑豊かな山々、広大な大地からの贈り物である美味しい海の幸、山の幸は、返礼品として大変好評をいただいております。2020年度は全国2位、北海道内1位の寄附額をいただきました。ふるさと納税をきっかけとして生まれた「縁」や「繋がり」を大切に、皆様から愛される紋別を守り発展していけるよう取り組んでまいりますので、今後とも本市の取り組みに賛同いただき、応援くださいますようお願いいたします。



ふるさと納税 QRコード



(返礼品の一例)

流水と大地の恵みを活かし 人が輝き躍動するまち紋別市

観光スポット

○流水観光船ガリンコ号
日本で唯一の水海域にあるオホーツク海。流水を砕く大きなドリルで突き進むガリンコ号Ⅱは、砕けた流水と海水が織り成す神秘的な色彩や、砕かれた流水が間近に見られる迫力満点のクルーズで、乗船した人だけが体験できる魅力あふれる世界を楽しむことができます。



雄大な景色が楽しめます。併設のカフェ「companion」の絶品スイーツとともに、優雅な時間を過ごすしてみませんか？

設であるシーパラダイスでは、現在、ゴマファザラシのアグ、日和、キヨロの3頭が暮らしています。アザラシと間近でふれあい、芸やえさやりが体験できる「飼育員体験」が人気で、フォロワー数約11万人の「witter公式チャンネル」では、日々の愛らしい投稿がご覧いただけます。

○北海道立オホーツク流水科学センター GIZ A
流水をテーマに、「見て・触って・体験」できる、親子連れでも楽しめる科学館です。厳寒体験室では、真冬の氷点下20度の世界を再現し、本物の流水が1年中展示され、直接触れることもできます。透明度の高い水が織り成す水の花館や、凍るシャボン玉体験も人気です。迫力ある映像を映し出すドームシアターで



○紋別市立博物館
紋別の現代と過去の形を洗練された展示で紹介する市立博物館。漁業の開拓を紹介する「ハマ」、旧石器時代から現代に続く歴史を描く「オカ」、砂金・鉱石・金などの地下資源を紹介する「ヤマ」を3大テーマとして、数多くの資料が展示されており、紋別の歴史を詳細に伝えています。

○まちなか芸術館
紋別市出身の彫刻家齊藤顯治氏と、流水画家として

体を保護し、野生に帰す取り組みを行っている日本で唯一の施設です。ゴマファザラシ、ワモンアザラシ、クラカアザラシなど数十頭が飼育され、日に5回のフィーディングタイムではアザラシの食事の様子や愛嬌たっぷりの芸で楽しむことができます。アザラシの生態についても詳しく学ぶことができます。

○カニの爪

1983年に行われた「流水アートフェスティバル」で、彫刻家の長崎歳氏、紋別商工会議所の桑原久雄氏、そして紋別市民によって共同制作された、紋別を象徴するオブジェです。高さ12m、幅6m、重さ7トンの巨大なカニの爪は迫力満点。SNSでも「映える」人気のフォトスポットとなっています。



らは、弧を描く海岸線や、大雪の山並みを眺めることができます。

○オホーツク流水公園

年中遊べる「あおぞら交流館」と、小さきまなまな遊び場がそろう「海と大地の遊び場」は、子どもや家族連れに大人気の遊びスポットです。「まきばの広場パークゴルフ場」は、日本パークゴルフ協会公認のシーサイドコースのパークゴルフ場で、初心者からベテランまで楽しめる全72ホールが整備され、雄大な自然の中



知られる村瀬真治氏の作品が多数展示され、芸術から紋別の魅力を楽しめる施設です。また、地階には2019年度にリニューアルされた多目的ホールが整備され、音楽ライブや各種イベントなどに利用されています。

○旧上藻別駅

紋別市中心部から南に23kmに位置する「旧上藻別駅」は、大正15年に官設の「駅通」として建てられました。駅通所とは、人馬継立と旅人宿泊など、運輸・通信・宿泊を一体とした明治以降の北海道独特の制度による建物で、紋別地方ではここが現存する唯一の駅通建造物です。戦前の建築形態を有する古建築物で、平成20年に国の登録有形文化財に指定されています。

す。また、2021年1月には新造船「ガリンコ号Ⅲ IMERU」が就航しました。スケールも大幅にアップし、先代との2隻体制で皆さまを神秘的の流水体験にお連れします。

○氷海展望塔オホーツクタワー

海岸から約1キロ沖、紋別港第3防波堤の先端にそびえる世界初の氷海海中展望塔です。海底階3階に観光施設と研究観測施設が併設され、高さは38・5m、海底5m。海底階では大小16個の海中窓から海中の様子が観察できるほか、クリオネなどオホーツク海で見られる海洋生物のミニ水族館があり、また3階の展望室は海上だからこそ360度の大パノラマの



○アザラシ シーパラダイス

2015年にオープンしたアザラシランドの姉妹施

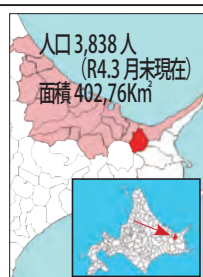
清里町とは

清里町は、北海道の東部にあり、世界遺産知床の付け根に位置し、日本百名山のひとつである斜里岳のすそ野では、肥沃な畑作田園地帯が広がっています。



清里へ向かう道すがら、斜里岳の美しい姿を見ることが出来ます。

また、日本有数の清流である斜里川や神秘的湖摩周湖、その伏流水が湧き出ていると言われる神の子池など、豊富な水資源に恵まれ、知床・阿寒の両国立公園をはじめとする観光資源に恵まれたまちです。また、日本百名山のひとつでもあり、登山も盛んな斜里岳は晴れた日には網走方面から



さらに、夜に迫力満点の星空が頭上に広がり宇宙を身近に感じることが出来る「宇宙展望台」やオホーツク海まで続く14kmのまつすぐな道、「ストレートロード」も魅力です。

主要作物であるじゃがいもを使用した「じゃがいも焼酎清里」は全国的な人気を誇っています。1975年、日本最初のじゃがいも焼酎造りは、この地で町自らの手によってはじまりました。そして時を経た2014年、じゃがいも焼

酎は、「豊かな風土息づく清里町を、世界に誇れる農業の町として示そう」この志を体現する存在であるために、コンセプト「デザインなどすべてを刷新しました。

じゃがいも焼酎の主原料のじゃがいもは「コナフブキ」という品種を使用しています。でんぷん価が非常に高く、酒造との相性も好適です。また、生物の多さで知られる斜里川や多くの湧水など、清里町の豊かな水資源がじゃがいも焼酎の味を支えています。じゃがいも焼酎「北海道清里」はじゃがいも焼酎の原点であり、清里町が育んだじゃがいも、清廉な仕込み水、練り上げた造りなど、地域の恵みを磨き、造り上げた記念すべきじゃがいも焼酎第1号は、1979年の発



のじゃがいもは「コナフブキ」という品種を使用しています。でんぷん価が非常に高く、酒造との相性も好適です。また、生物の多さで知られる斜里川や多くの湧水など、清里町の豊かな水資源がじゃがいも焼酎の味を支えています。じゃがいも焼酎「北海道清里」はじゃがいも焼酎の原点であり、清里町が育んだじゃがいも、清廉な仕込み水、練り上げた造りなど、地域の恵みを磨き、造り上げた記念すべきじゃがいも焼酎第1号は、1979年の発

数44度に仕上げた逸品です。じゃがいものイメージを覆す芳醇な香り、ずっしり濃厚なコクと甘みは、じゃがいも焼酎の旨みを余味に感じさせてくれます。世界へ自信を持って送り出せるクオリティに磨き上げられた逸品をぜひご体験ください。

町の取組み

○清里町は昨年度、今後10年間のまちづくりの指針となる「第6次清里町総合計画」第2期まち・ひと・しごと総合戦略」をスタートしました。今後迎える、さらなる少子高齢化と人口減少によるまち機能の低下などに鑑み、総合計画の目標年とする、令和12年から更に10年先の2040年をひとつの到達点として、町民の皆様が、安心していつまでも暮し続けることのできる、望ましい生活機能や日常的に人が集える施設の配置、コンパクトなまち機能と活用しやすい地域公共交通、地域拠点のあり方等を基本とした「持続可能な未来のまちづくり」を目指して、ブランドデザイン「2040まちづくり構想



「地域と自治体のデジタル化の推進」、恵まれた自然環境との共生を図る「ゼロカーボン構想の構築」、「地域福祉施策の強化」、「地域公共交通体系の構築」に向けた実証調査、「公共施設

（仮称）を策定していきます。持続可能な未来のまちづくりに向けては、中・長期の未来のあるべき姿を明らかにした「2040まちづくり構想（仮称）」をもとに、町民の皆様との対話と協働を通じて具現化していくことと、構築に向けた実証的な調査・検証などの重点施策があります。ほかに、地域間交流及びふるさと応援団を通じた、人的、経済的交流の促進やふるさと応援団員の立場による、町の活動への支援やPR、特産品（焼酎、ふるさと納税等）のPR活動を目的にふるさと会（東京・札幌）の取組を行っています。

の長寿命化と統合・機能の見直し」など、まちづくりの発送を未来起点の発送に転換したまちづくり施策の展開を図ります。

○ふるさと会

里町羽衣町13番地
TEL: 0152-25-4492

○ふるさと納税（寄附）
清里町が育んだじゃがいもと清廉な仕込み水で造り上げられたじゃがいも焼酎を始めとした特産品や宿泊券などの返礼品が各種あります。清里町を応援する寄附金の使いみちは

1. 花や緑の豊かな自然や環境を育むふるさとづくり
 2. 次代を担う子どもたちを育むふるさとづくり
 3. いつまでも安心して暮らせる福祉を育むふるさとづくり
 4. 地域の特産品や産業を育むふるさとづくり
- の4つの事業があり、おひとつ選び指定することが出来ます。清里町のまちづくりに共感し、応援しようという全国の皆さんの善意をお待ちしております。



返礼品の一例

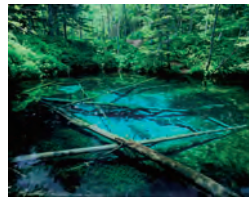
「うるおいと温もりで 未来を創るまち きよさと」

観光スポット

○斜里岳



阿寒の山々と知床連山の中間にそびえる斜里岳は、日本百名山のひとつでもあり、登山も盛んな山です。斜里岳はアイヌ語でオンネヌプリ（大きな山、年老いた山）と呼ばれ、標高は1547mです。北海道の背骨を形作る千島火山帯に属し、知床連山と雄阿寒と雌阿寒に代表される摩周・屈斜路火山列の中間に位置した成層火山です。山頂からは知床連山、国後島、摩周湖



倒木が青い水の中に腐らずに化石のように沈んでくつきりと見えます。水温が年間通して8℃と低く、

す川も無いことです。それでいて、春、摩周湖にたくさん雪解け水が流れ込む時期になっても水位が変わらないのは、湖の周辺に神の子池などの伏流水を湧き出させているからなのです。神の子池の伏流水は1日12000tも湧き出しています。周囲220m、水深5mの小さな池で、水が澄んでいるので底までくつきりと見えます。水温が年間通して8℃と低く、

生懸命ジャンプする姿は声を出して応援したくなります。またジャンプし始めの6月は魚体が銀色に輝き、産卵が近づく8月には徐々に桜色に変わっていきます。そして9月には産卵を終え、他のサケと同様に命を次の世代に引き継いでいきます。

○裏摩周展望台

裏摩周展望台は中標津町の町境に位置した展望台です。弟子屈町にある第1、第3展望台の反対側になることから「裏摩周展望台」と呼ばれています。弟子屈町側の展望台よりも標高が低いため、霧の発生が少なく神秘的な湖面を望めます。（標高差は第1展望台683m、第3展望台701m、裏摩周展望台585m）湖畔の季節毎に色彩を異にする広葉樹と、

くくぼみ、直径約7.5キロ、短径約5.5キロのカルデラができあがりました。その後約3千年の休止期間にカルデラに水がたまり、いまよりも広い摩周湖が誕生したのです。その後さらに湖の東岸にカムイヌプリが噴出したので、今も摩周湖の姿と噴火がおこって山頂が破壊され、今の摩周湖の姿と面下は約2114m、基底の直径は約1kmという溶岩ドームなのです。



の特産品や加工品、野菜などを販売します。レストラン

○男鹿の滝

緑町から約20km、斜里岳の南側、斜里川林道の奥深く、うっそうと茂る大自然の中、斜里川上流五ノ沢に高さ25mの滝があり

○清里焼酎醸造所

清里焼酎醸造所の欧風に構えた酒蔵の裏手には、透明度日本一にも選ばれた斜里川の清涼な水が流れ、遠景には雄大に町を見下ろす名峰斜里岳がそびえます。斜里岳山麓から湧き澄んだ水と、肥沃な大地が豊かなじゃがいもを産み出し、

屈斜路湖、野付半島など東北海道一円の大パノラマが広く見渡せます。登山ルートは3つありますが、最もポピュラーなのが清里町側からの「清岳荘（せいがくそう）」を通るルートです。晴れた日は、網走方面から清里へ向かう道すがら、斜里岳の美しい姿を見ることが出来ます。

○さくらの滝

この滝は高さ2.5mの滝で、春には桜が咲き、6月から8月にかけてサクラムスが滝越えのジャンプを見せてくれます。サクラムスとは溪流の女王といわれるヤマメ（北海道ではヤマベといいますが）が海に下り



濃緑一色で四季を繰り返す針葉樹が青く澄み切った湖水にそよ風を流す姿を映す様子は、たその秘密だ。「すばらし3万tも岩から湧出し流れ落ちているからなのです。周囲は昼間でも薄暗く、特に夏場の涼しさは格別です。



そしてその水とじゃがいもを原料として清里焼酎が造られます。地域の恵みに支えられ、その恵みを磨き上げることで地域に貢献する。そんな円環の中で清里焼酎はよりよい味を追い求めています。小さな酒蔵ですが、手造りの仕込みとじっくり時間をかけた貯蔵熟成で確かな品質の焼酎をお届けします。

○神の子池

摩周湖からの地下水が湧き出ている山の奥にある池で、摩周湖（カムイトー神の湖）の伏流水からできているという言い伝えから「神の子」池と呼ばれています。2017年に「阿寒摩周国立公園」に「神の子池地域」が編入されました。摩周湖が他の湖と大きく違うのは、湖に流れ込む川も流れ出



ケ科の魚で日本では日本海側と北日本の河川に遡上が見られますがこれだけ大きな滝をジャンプする場所は世界的にも珍しいです。一

大きく成長して再び産卵のために川にもどつてくるサケ科の魚で日本では日本海側と北日本の河川に遡上が見られますがこれだけ大きな滝をジャンプする場所は世界的にも珍しいです。一

○きよさと情報交流施設きよる

2016年7月にオープンしました。売店では、清里焼酎の試飲と販売を行うほか、地域

きよつびは、頭がじゃがいもとムクゲの花、前髪はさくらの滝、体は神の子池と清里町の特徴が詰まったキャラクターです。



○町のキャラクター紹介

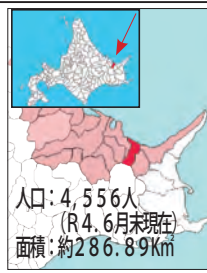
きよつびは、頭がじゃがいもとムクゲの花、前髪はさくらの滝、体は神の子池と清里町の特徴が詰まったキャラクターです。

小清水町とは

概要

小清水町は北海道の東北部、オホーツク海に面したオホーツク総合振興局管内斜里郡にあり、郡内の西部に位置しています。周囲は北が全面オホーツク海に面し、東は斜里町、清里町と、西は網走市、大空町と、南は釧路総合振興局管内弟子屈町と接しています。

地形は南界を走る北見山地が形成する南部山岳地帯から、緩やかに北に向かつて低下し、オホーツク海岸に達する傾斜状地が続きま



○町の花
エソスカシユリ
オホーツク海が明るさをまし、初夏の陽光がさんさんとうふりそそぐ原生花園砂丘に群がり咲くありさまは、目をみはるばかりの美しさで、小清水町を象徴する名勝の花として、広く町民に愛されていることから選定されました。



年間を通じて、降水量は少なく、日照率の高さは全国でも有数です。冬は雪が少なく、海には2月から3月にかけて流水がやつてきます。

ろし、強い生命力は21世紀を力強く羽ばたこうとする小清水町のシンボルとするにふさわしいとの理由により選定されました。



○町の鳥
オオハクチョウ
涛沸湖に飛来する代表的な水鳥として内外に広く知られており、



素晴らしい自然環境に恵まれた我が町のイメージにふさわしい鳥であることから、ふるさと小清水120年・開町80年を記念し「町の鳥」として選定されました。



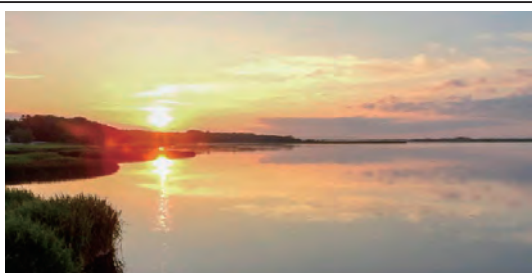
○イベント
●SEA TO SUMMIT
自然あふれるオホーツクを颯爽と走り抜け、360度パノラマの絶景を目指す。

海・里・山のステージ、そして、JR釧網本線を走る特別列車も楽しめる唯一の大会です。
SEA TO SUMMIT (シートウーサミット) は、人力のみで海(湖)のステージ(カヤック)、里のステージ(バイク・自転車)、山のステージ(バイク・登山)の3つのコースを個人またはチームで、五感で自然に触れながら完走を目指す、環境スポーツイベントです。

○じゃがいもフェスティバル
じゃがいもフェスティバルは、小清水町の特産物であるじゃがいもにちなんでお祭りでも、じゃがいも拾いバトルをはじめとした来場者参加型アトラクションやタレントショーなどのステージイベントのほか、青空市や味覚市、採れたての新鮮じゃが直売など、盛りだくさんの内容でお届けす夏の大会です!

町の取組み

○小清水町住宅取得費助成事業
小清水町では、町民の皆さんの住環境の向上と移住・定住人口の確保を図ることを目的として、住宅の新築、中古住宅の取得費を一部助成します。



また、中学生以下のお子さんがある場合や、温暖化対策の推進として、住宅の新築、中古住宅を取得した際に住宅用太陽光発電システムを設置した場合は助成金を加算します。

また、「ふるさと会」では随時、会員を募集しています。

○ふるさと会
東京都・札幌市・北見市およびその近郊に在住のオホーツク小清水町出身者並びに以前小清水町に在住した方、または小清水町にゆかりのある方をもって組織され、会員相互の親睦を図るとともに、母町との交流を深めまちづくりの支援を行うことを目的として活動が進められています。

- 東京こしみず会
- 札幌こしみず会
- 北見こしみず会

★お問い合わせ
企画財政課企画係
☎0152・62・4471

<返礼品の一例>



「北海道フリッターおせんほかじゃ味比べセット」
12,000円



「地元二八食品手造りカットとばセット」
15,000円

○ふるさと納税(寄附)
皆さまからのふるさと納税はふるさとチョイスやさとふる、楽天ふるさとなど様々なサイトから可能です。
小清水町にふるさと納税を通していただいたご寄付は、エキノコックス対策事業などの「自然環境の保全と活用」、子どもの医療費、給食費の無料など「子育て支援の充実」、スポーツ団体への支援や文化施設の整備など「生涯学習環境の整備」に活用しています。
皆さまからのご寄付に対するお礼の品は、まちの特産品をお届けしておりますので、ふるさとこしみずへのあたたかいご支援をよろしく願います。

「オホーツク海をのぞむ 花と野鳥のまち小清水町」

観光スポット

○小清水ツーリストセンター
小清水ツーリストセンターは、2018年4月に浜小清水にオープンしたアウトドア拠点施設です。

施設内には国内のアウトドア総合ブランドであるモンベルの店舗と周辺観光の情報を提供するビジターセンターが併設されています。

●モンベルオホーツク小清水店

道東初のモンベル直営店であるモンベルオホーツク小清水店は、農業を基幹産業とする小清水町において欠かせない農作業ウェアなどが販売されています。

●ビジターセンター

ビジターセンターでは、周辺観光に役立つ情報を案内するほか、バードウォッチングや流水見学といったガイドツアーの開催や、レ



(短い夏を代表する観光スポットの小清水原生花園)

ゾスカシユリやエゾキスゲ、ハマナスなどの花々が咲きそろう、黄色やピンク、取水設備やトイレ、レストハウス裏手には展望地が整備されています。

売れ筋となっている他オホーツクの村への寄付付きTシャツなども販売されています。

週末には、旅行者を始め、帯広や釧路、紋別など道東各地から多くのお客様が訪れるこの店の吉谷店長は、地域密着型の



ンタサイクルをはじめスノーシューや双眼鏡などアウトドアギアのレンタルも行っていきます。

○小清水原生花園

小清水原生花園は、オホーツク海と濤沸湖に挟まれた約8キロメートルの細長い砂丘の上に形成された天然の花畑で、4月末から9月いっぱいにかけて、200種類にも及ぶ植物を見るのができます。また、遠くに藻琴山や知床連山を望み、オホーツク海や濤沸湖に挟まれた中をJR釧網本線が走るといふ、ユニークな風景が特徴です。

原生花園が最も賑わいを見せるのは6月中旬から7月下旬ごろ。町花であるエ

紫といった色とりどりの花畑が現れます。

園内にはJR釧網本線の原生花園駅が夏季限定で設置されており、一両編成の列車と咲き誇る花畑との共演が見られることもあります。

毎年5月初旬には原生花園の植生回復を目的とした火入れが実施されています。小清水原生花園は、短いオホーツクの夏を代表する観光スポットです。

○ハイランド小清水725

ハイランド小清水725は標高約1000メートルの藻琴山中腹(標高725メートル)に位置するレストハウスです。広い駐車場には藻琴山山頂へと続く登山道があるほか、湧き水「長命水」を汲むことができる

○イメージキャラクター

●ゆるキャラ「でん坊」
小清水町の郷土料理「でんぶんだんご」がモチーフです。

正面の姿はでんぶんだんごを、球形の全身は原材料のじゃがいもを表現しています。目、鼻、口は具材である金時豆をかたどり、チャームポイントとなっています。

●ゆるキャラ「ほがじゃ」

平成25年(2013年)7月に新設された福太郎(株)小清水北陽工場で製造されているせんべい「ほがじゃ」のPRキャラクターです。

頭に鉢巻き、体には大きな「ほ」の文字が書かれ、話す言葉の語尾に「ほ」が付きます。

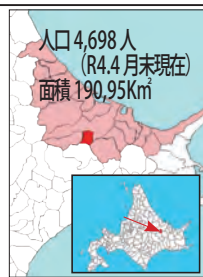


レストハウスの敷地からは広大な小清水高原やオホーツク海、知床連山、屈斜路湖に硫黄山など左右およそ300度の大パノラマを眺めることができます。また、雲海の穴場スポットとしても有名で、初夏から秋にかけて条件の良い早朝には屈斜路カルデラに広がる大雲海を堪能できます。

レストハウス内では、小清水町とフレンドタウン協定を結んでいるモンベルの商品販売のほか、小清水町のローカルフードであるでんぶん団子やラーメンなどの軽食の提供も行っており、藻琴山登山の休憩所としてシーズン中は多くの登山客が訪れる。レストハウスは5月〜10月末まで営業しています。

訓子府町とは

○町の歴史



明治2年に蝦夷地(えぞち)という呼び名を北海道とし、この地方は北見国常呂郡となり、明治30年に北光社移民団の内13戸が、オロムシ(現在のオロムシ地区)に入地したのが訓子府町の定住の始まりです。

明治44年に国鉄網走本線が開通し、訓子府駅が開業されると、辺境の地であった訓子府もにわかには活況を示し始め、新しい農村への大きな躍進の時代を迎えることになりました。



大正4年、野付牛村に1級町村制が施行され、今の訓子府は置戸村の一部として分村独立し、さらに大正



銀河公園まつりの様子



さむさむまつりの様子

9年、置戸村から独立して訓子府村となり、開拓者の入地から23年を経て従来の宿願が達成されました。

その後、昭和26年11月に町制を施行し、訓子府町となり現在に至っています。

先人の労苦に感謝しながら、この長い歳月にわたって培われてきた先人の不屈の精神を受け継ぎ、町民一丸となって「豊かで住みよい町」「だれもが住み続けられる町」に発展

させるための努力が続けられています。

○町のイベント

春には「銀河公園まつり」、夏には太陽の恵みに包まれた「ふるさとまつり」



II写真
豊穣の秋をお祝いした「秋まつり」、冬には北国の長い



冬の一日を家族ぐるみで楽しむ町民手作りの「さむさむまつり」など四季折々のイベントが開催されています。

町の取り組み

○お住まい支援

・定住対策(空き家活用定住対策補助金)

移住・定住を目的に空き家バンクを活用して成立した売買、賃貸などに対し、空き家購入・改修および賃貸物件の入居者が行うリフォームに要する費用として最大300万円を助成する補助制度です。

【問合せ】元気なまちづくり推進室振興係
☎0157・33・5008

○高齢者支援

・切実な高齢者の足の確保を支援(高齢者交通利用サービス)

75歳以上の町民の方を対象に高齢者の足の確保を目的として交通利用サービスを行っています。

▼高齢者ハイヤー利用サービス

ビス
訓子府ハイヤーを利用した際に、町内どこまで乗っても300円で利用できます。

【問合せ】企画財政課企画係
☎0157・47・2115

○子育て支援
・0から15歳までの医療費(通院、入院、おくすり代)は完全無料です。

【問合せ】福祉保健課医療給付係
☎0157・47・5555

・3から5歳児までの保育料が無料です。(町認定こども園 7・30〜18・30)

【問合せ】子ども未来課管理係
☎0157・47・2367

・乳児の託児無料券を交付 ※本町に住所を有し、生後3か月から1歳6か月までの健康な乳児が対象。

【問合せ】子ども未来課子ども支援係
☎0157・47・2367

○就労支援
・農業経営スタートアップ助成事業
本町に住所を有し、新たに農業を営もうとする方や親族ではない農業を営む方から継承する方が、経営を始めた際に支援します。

▼入植祝金(100万円まで)
就労開始と2年目に50万円ずつ助成します。

▼運転資金(120万円以内)
就労開始と2年目に60万円ずつ助成します。

【問合せ】農林商工課農政係
☎0157・47・2115

☎0157・47・2116
・店舗出店等支援事業補助制度
本町に住所を有し、店舗の新築や空き家店舗の活用により、新たに営業を開始する事業者および第二創業を行う事業者に対して、店舗購入や工事経費の2/3を補助します。

※最大300万円上限。
☎0157・33・5008

○ふるさと納税(寄附)
・寄附金を利用した事業メニュー
(1) 安心して暮らせるふるさとづくり事業
(2) 元気な人を育てるふるさとづくり事業
(3) 豊かな環境と資源を活かしたふるさとづくり事業
(4) その他、特色あるふるさとづくりに関する事業

●寄附者への御礼
・6000円以上のご寄附をいただいた方に、感謝の気持ちとして町の特産品を贈呈させていただきます。

※希望される方には、謝礼品カタログを送付します。

【問合せ】企画財政課企画係
☎0157・47・2115

「ちよっといいね!」が
たくさんあるまちくねっぷ

観光スポット

北海道オホーツク管内
の内陸部に位置する訓子

府町は自然環境に恵まれ、
盆地特有の寒暖差のある
気候や常呂川に沿って広
がる肥沃な大地を活かし、
農業を中心として発展し
た住みよいまちです。ま

た、町の面積は190・95
km²とオホーツク地方では
最も小さい町ながら、玉
ねぎ、じゃがいも、メロ
ンを中心に多彩な品目が
生産され、北海道農業の
縮図とも言われています。

※利用時間などにつきま
してはお問い合わせくだ
さい。

・温水プールKAPPA
訓子府町東町400番地
(スポーツセンター前)
☎0157・47・2195
開設期間：4月29日～11月
10日

・レクリエーション公園
訓子府町字協成
公園に関するお問い合わせ
☎0157・47・2118
スポーツに関するお問い合
わせ
☎0157・47・2195



温水プールKAPPA



パークゴルフ場

○町営施設

・スポーツセンター
訓子府町東町400番
☎0157・47・2195

・パークゴルフ場
訓子府町字清住(常呂川
河川敷)
☎0157・47・2195

・屋内ゲートボール場
訓子府町字穂波69番地59
☎0157・47・2118

・屋外ゲートボール場
訓子府町末広町(常呂川河
川敷)
☎0157・47・2195

・温泉保養センター
訓子府町字穂波69番地
☎0157・47・3380

・レクリエーション公園
訓子府町字協成
公園に関するお問い合わせ
☎0157・47・2118
スポーツに関するお問い合
わせ
☎0157・47・2195

・屋内ゲートボール場は、
冬期間はもとより、夏期間
の暑いときでも断熱効果で
涼しく、年間を通じて利用
センター)
☎0157・47・2195

休館日：月曜日(祝日の
場合は次の平日)、
年末年始(12月30日～1
月4日)
利用料：100円(個人
使用料)
※利用時間などにつきま
してはお問い合わせくだ
さい。

☎0157・47・2195
開設期間：4月29日～11月
3日
利用料：1日300円
※利用時間などにつきま
してはお問い合わせくだ
さい。

・温泉保養センター
訓子府町字穂波69番地
☎0157・47・3380
休館日：月曜日(祝日の場
合は次の平日)、元日
利用料：大人390円
子ども140円

○町のキャラクター紹介
・めろねっぷ
頭に乗っているおしい
メロンとタマネギは、
訓子府のおすすめめろ
ねっぷ!

・たまねっぷ
やんちゃで元気!酪農
や農業のお手伝いが好
き。
牛乳も大好き(早く大
きくなりたいから!)。
トレードマークの牛柄
のサロペットは、肩ひも
のボタンが訓子府町の星
空をイメージした星のボ
タンだよ。



スポーツセンター



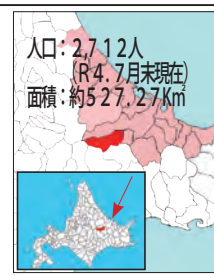
レクリエーション公園



置戸町とは

概要

大雪山の東端に接し、周囲を山に囲まれた常呂川最上流には鹿の子ダムがあり、森林は町の総面積の8割を占め、丘陵地や平地では酪農、畑作が盛んです。町名は、アイヌ語の「オケトウンナイ」（鹿の皮を乾かすところ）に由来するよううに、先住民族の時代には著名な鹿狩り場であったらしく、最初の定住者は明治31年のことで、大正4年に野付牛村から置戸村が分村独立し、平成27年には開町100周年を迎えました。



100周年ではオケトグリインフェスティバル(OGF)という町内の若者が中心となって運営した野外音楽フェスティバルも行われ、たくさんの方が置戸町を訪れました。「人と、木と、おけと」とキャッチコピーにもなっているように、まちづくりの鍵となる「人」、自然豊かなおけとの「木」がまちの文化を形成しています。

特産品

置戸町の「オケ」、昔からの地域産業として生産されてきた曲げ桶の「オケ」と、「クラフト」を合わせた地域クラフトブランドです。使われる樹種は、エゾマツのほか、センヤクカバ等の約20種類の道産材で器やカトラリー等、数多くの暮らしの道具を町内に工房を



構える「作り手」が製作しています。大量生産・大量消費から生まれる使い捨ての物ではなく、日本人が大切にしている「愛着を持つてつくりながら使う道具」が重要と訴えつづけていた工業デザイナーである(故)秋岡芳夫さんとの出会いからオケクラフトの歴史は始まりました。町内で誕生したお子さんへ贈呈している「すくすくギフト」は日本ギフト大賞2021北海道賞を受賞しました。その他、町内の飲食店でもオケクラフト使用され、町民にとって身近な器です。



100周年ではおけとがリニューアルして誕生しました。本町のOGF白花豆プロジェクトチームをはじめとして丹精込めて作られた白花豆を原料に使用した本格的な焼酎です。少し強めで辛口かもしませんが、まろやかな芳香と味わいに仕上がっています。

イベント情報

7月 おけと夏まつり「人間ばん馬大会」 全長80mのコースに2カ所の障害があり、太い丸太を積んだ鉄ゾリを5人又は7人で引き速さを競う大会です。丸太の重さは予選が300kgで決勝は500kg。商工会青年部が中心と



町の取り組み

おけとの子育て

0歳から5歳までの子どもの認定こども園に係る利用料が無償で、親子の集いの場として就学前の子どもと親が自由に集まることができると子育て支援室があります。そのほかに赤ちゃんが生まれるまでの各種助成や生まれてからも健やかに子供の成長のため様々な面から手助けします。また、「元気にすくすく育つて」という願いを込め、オケクラフトオリジナルの「すくすくギフト」(お椀、汁椀、お皿、カップ、スプーン、トレイ)のプレゼントと、心と言葉が豊かで健康に発達することを願い、2冊の絵本をプレゼントするファーストブックプレゼント事業があります。

就学後も生活スタイルに合わせた生活と学習の手助けを行っています。高校生までの医療費の無料化やバスの通学費助成のほか町内に在住の子どもが満18歳になったとき、進学・就学などの支援として子ども本人にお祝い金10万円を支給する「未来へはばたけ応援事業」があります。



おけとの住まい

住宅建設・中古住宅取得の支援や町外より転入して住宅を建設又は取得する際

の移住者応援金などの定住の奨励を行っています。住宅建設一棟あたりの補助基本額は50万円で、その他要件を満たせば加算額が追加されます。また、増改築・リフォーム・解体など生活環境に応じた支援のほか太陽光発電や浄化槽などの設備設置についても一部費用を助成します。空き家等情報登録制度もあり、「貸したい・売りたい」と「借りたい・買いたい」という双方の橋渡しを行います。

ふるさとおけと会

東京・札幌近郊にお住まいの置戸町出身者等が集うふるさと会があり、随時交流を行っています。問い合わせ先・置戸町役場企画財政課(0157-52-3312)

ふるさと納税(寄附)

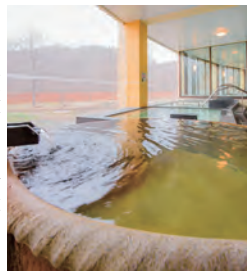
置戸町ではふるさと納税制度を利用したご寄附を10事業に活用させていただきます。

- ①ふるさと応援事業：置戸町の地域振興・活性化のために活用しています。
- ②元気だすべ事業：置戸町へ移住・定住および起業する方の支援に活用します。
- ③人材育成事業：学校や各種教育機関に通う方へ就学援助に活用しています。
- ④「福祉の夢」サポート事業：置戸高等学校在校生を対象とした奨学金として活用しています。
- ⑤図書資料整備事業：様々な図書の購入や収集のために活用しています。
- ⑥18歳の春旅立ち応援事業：置戸で育った子どもに社会への旅立ち支援として活用しています。
- ⑦社会福祉施設充実事業：社会福祉施設の充実に活用しています。
- ⑧老人ホーム施設整備事業：老人ホーム施設の整備に活用しています。
- ⑨夏まつり振興事業：「おけと夏まつり・人間ばん馬大会」の振興のために活用しています。
- ⑩農業振興事業：農業の振興を図るために活用しています。

「人と、木と、おけと」

観光スポット

○おけと勝山温泉ゆゆう
置戸市街の中心部から約9km離れた森の中に佇む温泉施設です。町内を散策した後にはぜひ足を伸ばしていただきたい、美肌・保湿効果が特徴の源泉かけ流しの温泉です。



宿泊施設は、温泉付きコテージが4棟隣接しており、無料で利用できるBBQスペースも備えてあります。また、2021年10月にはトレーラーハウスがオープン。5棟ある

がされます。また、宿泊者はゆゆうの大浴場を無料で利用することができます。

○おけとパークゴルフ場
豊かな自然を活かした17コース153ホールあり、初心者から競技志向の人まで4段階の難易度でエリアを設け、国内最大規模を誇ります。有料でクラブの貸出もあるので初心者も気軽にチャレンジできます。秋に開催される大会には、道内各地から選手が集い腕を競います。



また、冬季は歩くスキーができるよう整備されています。バリアフリーの取り組みとして障がい者用オフ

○鹿の子沢風景林
針葉樹と広葉樹が入り交じる森林景観で、「日本美しの森お薦め国有林」に選ばれた風景林です。



奇岩や滝は季節や角度によってその表情を変え、新緑の季節や紅葉の季節は特に絶景を楽しむことができます。鹿の子沢の頂上まで往復で90分程の森林浴が楽しめますが、滝に虹を描く「虹の滝」は駐車場からも見ることができ、森の巨人たち100選に選ばれた「三本桂」まであれば、



る歴史ある図書館です。

○鹿の子(かのこ)ダム・おけと湖
おけと湖は野鳥や野草の宝庫と言われています。バードウォッチングやフライフィッシングなど自然との対話が楽しめる場所です。おけと湖の他、常呂川でもヤマベ・ニジマスなど、まちなかを流れる



○春日(かすが)の風穴(ふうけつ)
氷河期の遺存種といわれるナキウサギが生息しています。緑が美しい苔庭を過ぎると2m×3m四方もある

全体が開放的な空間で書庫への出入りも自由です。玄関を入るとフリースペースには暖炉が備え付けられてあり、建物の温かな灯りが本と人をつなぐ環境を演出しています。

○置戸神社・南ヶ丘公園
春は桜、秋は紅葉と様々な樹木が季節を知らせませす。神社境内を通り抜け散策しながら南ヶ丘公園に抜けると町が一望できます。また、南ヶ丘公園には屋根付きの焼肉スペースがあり、特に夏には様々な団体が利用して賑



トレーラーハウスは、和モダンタイプや洋室タイプ等それぞれインテリアが異なり、何度訪れても違った1日を過ごすことができます。また、寒冷地仕様で北海道の冬でも快適に過ごすことができます。キャンプギアを持ちこんで楽しむのもよいのですが、各種器具をレンタルしてお手軽にグランピングを楽しむこともでき、大自然がプライベートな空間になります。



○オケクラフトセンター 森林工芸館
置戸町の特産品である「オケクラフト」を展示販売しています。作り手がひとつひとつ丁寧に手作りしたお皿やお椀、カトラリー、キッチンツールなど、木目の違い一つとして同じものはありません。商品を通して、町の空気や作り手の思いを伝えていきます。館内には工房もあり、ガラス越しに製作風景を見ることができ



気軽なハイキングとして楽しむことができます。そのほかにも、「忍び岩」「雲突岩」「屏風岩」「糸ひき滝」など見所がたくさんあります。

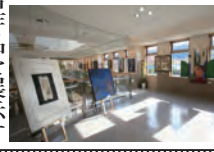
○野外彫刻

クラフトデザインアドバタイザーとして1992年から1995年置戸町に滞在していたロベルト・ウリオ・ベッシン氏が青銅などの金属棒を溶接する独特の技法を用い、数多くの彫刻を製作しました。町に生息する



○置戸町立図書館
住民1人当たりの貸出冊数が多く、蔵書12万冊を誇る

○置戸ぼっぽ絵画館
旧駅舎で現在はバスの停留所となっており、コミュニティティホール「ぼっぽ」の2階を「寄贈作品を展示する場」として提供している寄贈美術館です。全国から集まる秀逸・傑作の数々を公開しています。



野鳥をモチーフとし、1mに満たない小さなものから約8mにも及ぶ大きなものまで、透過性のある作りで町の景色と融合していま



○置戸町地域キャラクター「おけばんばくん」
パークゴルフと温泉が大好きな、置戸の森に住んでいる妖精です。たてがみは、パークゴルフ場のグリーンをイメージし、ばん馬のバチ(そり)が乗っているのが特徴です。自然を愛し、のんびり穏やかな性格ですが、いざとなると力持ちです。2021年度からはおけばんばくんのマネージャーを務める地域おこし協力隊員が日々の暮らしのTwitterを



●お問い合わせ
○置戸町役場 〒099-1100 北海道常呂郡置戸町字置戸181番地
TEL: 0157-52-3311 FAX: 0157-52-3353

E-mail: oketo@town.oketo.hokkaido.jp
公式ホームページ: http://www.town.oketo.hokkaido.jp/

津別町とは

概要

北海道東部オホーツク圏の内陸部に位置する人口約4300人のまちです。総面積は約716.80km²と、全道屈指の広汎な町域を有し、そのうち約86%を森林が占めています。まちの基幹産業は、豊富な森林資源を生かした林業及び木材の加工・木製品の製造などの製造業と小麦、馬鈴薯、玉ねぎ、甜菜等の畑作及び酪農・畜産を主体に発展してきた農業となっています。

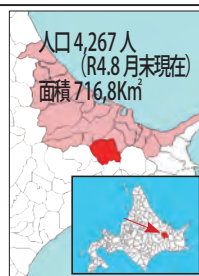
旧美幌村(現・美幌町)から分村し誕生したまちで、1946年に現在の町制に移行しました。人口は分村以降増加していましたが、農業・林業が全盛であった1960年の15676人をピークに減少の一途をたどり、現在の人口はピーク時のおよそ4分の1まで減少しています。

気候

道東地区の内陸気候帯に属しているため、夏は相当の高温を記録しますが、冬は流水などの影響も受け寒冷となることから、夏冬の寒暖差が大きいのが特徴です。また、降水量は全国的にも少なく晴天日数が多いため、全国有数の日照率を誇っています。

特産品

木工芸品はもろろんのことながら、日本初の農林水



歴史

津別町は、1919年に

産省JAS認証オーガニック牛乳やつべつ和牛、玉ねぎ、馬鈴薯といった農畜産物も人気です。また、まちの新たな特産品として、釧路と網走を結ぶ国道240号沿いにある、道の駅あいおいで販売している「クマヤキ」もぜひお買い求めいただきたい一品です。

イベント情報

・クリンソウまつり(6月中旬)
上里地区にある町民の森自然公園「ノノの森」にあるクリンソウの群落が見ごろを迎える6月中旬に行われるイベントで、森の音楽会やツリーイング体験が行われるほか、町内の飲食店では特別メニューの提供が行われます。

・つべつ夏まつり(7月上旬)
市街地にほど近い河岸



公園でスあり、幼児から大人まで行われ例年260人前後が参加する、津別最大の参加者もあり、津別の大自然の中で色づきトで、前始めた夜祭で山々のコントは千人踊りと花火大会が行われます。本祭ではまつりラストの名物として30本のタイヤを眺めチューブをつなげ、その上ながらを渡るスピードを競う「つべつ川のぼり大会」や、まべースの会場内では町内各団で走るスポーツの秋を満喫するスポーツの秋を満喫する大会が、発することが出来ます。この他にも、つべつ七夕まつり(8月第1土曜日)やつべつ納涼盆踊り大会(8月15日)、つべつふるさとまつり(9月9日〜10日)、日本フィルセミナーコンサート(9月下旬)、つべつ産業まつり(10月第



町の取組み

当町では、人口減少と少子高齢化が急速に進行していることから、次の2点をまちづくりの基本方針としています。

- ①地域資源を活用したコンパクトなまちづくりに取り組み、子育て世代や高齢者が安心して暮らせる環境整備と雇用の場を創出することにより、かつての人口集中地区を中心とした「まちなか地区」を再生し、現在の「まちなか地区」の人口を10年後においても可能な限り維持する。
- ②既に過疎高齢化が進み、今後人口減少のスピードが加速すると予測される「周辺地区」については、基礎的な生活関連サービスを提供するとともに、学校跡地等を利用し、3つの拠

点(活波(かつくみ)地区、本岐地区、相生地区)を設け、各地区の特長を生かした生活と仕事の間を確保する。

現在、この基本方針に基づき、まちづくりの各種施策に取り組んでいます。

まちなか再生事業

本事業は、2018年7月に策定した「津別町複合庁舎建設等まちなか再生基本計画」に基づき実施している事業です。「つながり」にぎわいを生む、歩いて暮らせるコンパクトシティを基本コンセプトに、中心市街地のにぎわい創出と老朽化していた各種庁舎の建て替えと集約化を目的として事業を進めており、既に役場新庁舎や消防署新庁舎の供用を開始しています。また現在、図書館や



新庁舎とまちなか再生事業地区

- ①ふるさと納税(寄附) 当町では、ふるさと納税制度を利用し、お寄せいただいたご寄付を次の6つの事業に活用させていただきます。
- ②観光の振興に関する事業
- ③未来を担う子どもの教育・健全育成に関する事業
- ④福祉および医療に関する事業
- ⑤ふるさと自然環境の保全に関する事業
- ⑥その他、町づくりに資する事業(スポーツ環境整備)
- ⑦その他、町づくりに資する事業(①〜⑤以外)

寄付していただいた方への返礼品として、特産品である木工芸品や、つべつ和牛や玉ねぎ、じゃがいも等の農畜産物をご用意しています。



返礼品の一例

申し込み方法は各種ポータルサイトでの申し込みと郵送・メール・FAXでの申し込みがございます。詳しくは町のホームページをご確認ください。



<https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/90nouzei/index.html>

「緑のふるさと」

愛林のまち 津別町

観光スポット

○津別峠展望施設

津別峠展望施設は標高947mに位置しており、屈斜路カルデラの外輪山にある展望施設の中ではNo.1の高さを誇り、早朝に眼下に広がる雲海が有名です。

雲海を見られる確率も高く、硫黄山や、斜里岳、藻琴山などの背景も素晴らしい、気象条件が合えば、道路が開通する6月から10月にかけて、屈斜路湖を包み込む雄大な雲海を見ることが出来ます。

日の出の時間には、屈斜路湖を覆って広がる真っ白な雲間から、赤く染まる朝日がゆつくりと顔を出すシーンに心打たれます。

道の駅あいおいは、釧路と網走を結ぶ産業と観光の大動脈、国道240号沿いにあります。



ここでは、独自に製粉したそば粉を使用し、たすび粉を使用したそば、地元大豆を使用した腐をほじめ地元農産物、木工クラフト製品等を販売する物産館、旧国鉄北見相生駅を利用した展示館やカフェ、客車を改造した宿泊可能な展示車両など、バラエティに富んだ施設があり、旅の疲れを癒す

ゲチャンランド」も道の駅のある相生地区に開設されており、多くの方が足を踏んでいます。

○木材工芸館キノス

木材工芸館キノスは、愛林のまち津別を象徴する施設です。吹き抜けの空間には天井まで伸びる巨木が並び、津別の木をふんだんに使った大型遊具やクライミングウォールなど、木とふれあい、木に学ぶことができ、子供たちの豊かな心を育てることが出来ます。



その他、津別の産業や歴史を紹介する展示パネル、津別のウッドクラフト販売コーナー、屋外には親水広場もあり水遊びもできます。親子連れ、地域住民

じてみてください。

○鹿鳴(ろくめい)の滝

美しい7段の河床は自然の力による産物であり、秋にはチミケツ湖の紅葉と共に素晴らしい光景が広がります。



チミケツ湖から発したチミケツ川が200mほど流下した地点に位置し、その名の由来は、「昔アイヌに追い詰められた鹿がこの川を上流へと逃れたが、滝を越えることができず鳴いた」という言い伝えに由来していると言われています。

基地の認定を受けています。

「森林セラピー」とは、森林の生命力などを五感で感じ、心身の健康維持・増進、疾病予防を行うもので、緑のシャワーと呼ばれる森林浴を一步進めた取り組みで、医学的な効果をもとにした森林浴ともいえません。「ノンノの森」周辺は、生理・心理面からのリラックス効果が森林医学の面から専門家に実証され、さらに、関連施設等の自然・社会条件が一定の水



で整備されていく地域として「森林セラピー」基地として認められました。

○ネイチャーセンター

津別町民の森自然公園ネ

○ノンノの森

津別町上里地域の「ノンノの森」は、道内随一のクリンソウの大群生地です。6月中旬から7月上旬に見

す。



また、夜にはまた別の表情を、また、いまや名実ともに道東・オホーツクの人気スポットとなった「シクマヤキ」が食べられるのは道の駅あいおいだけとなっております。道内外からその味を求めやってくる人も少なくありません。このクマヤキのロゴ、パッケージ等のデザインを手掛けたのは津別町出身のアーティストである大西重成氏です。過去に坂本龍一のレコードジャケットやモスバーガーの小冊子「モスモス」の表紙イラストを担当するなど、日本の広告デザイン界で活躍した大御所です。



また、湖だけでなく周辺を囲む原始林公園も人気の一つ。動物植物の楽園「エゾマツ、トドマツを中心とする原生林が生い茂り、天然記念物のクマガラをはじめとする40種余りの野鳥、キタキツネやエゾリスなどの野生動物が生息しています。



夏は、プ湖は、ミケツ湖は、できたといわれるチミケツ湖は、

観光客、みんなが楽しめる憩いの場にもなっています。

○チミケツ湖

約一千年前の地殻変動に よってできたといわれるチミケツ湖は、



ごろとないます。ノンノの森ネイチャーセンター(通称：アイヌの区)の一角にあります。自然体験を提供するツアーデスクやカフェ、売店があり、津別町の豊かな自然に触れる絶好の施設となっています。

○町のキャラクター紹介

津別町のゆるキャラ、まる太くんは素直で元気いっぱいの子です。ミズナラの木から生まれたまる太くんは、ひなたぼつこと森林セラピーが趣味であり、約1200年の間、津別町を見守ってくれています。ラグビーの合宿先としても有名な津別町にちなんで、ラグビーシャツをきているところもチャームポイントです。



常にノーサイドの精神をもち、何事にもトライする精神は津別町民の心のシンボルともいえるでしょう。

○道の駅あいおい

まるで天地が反転し、空に吸い込まれるような錯覚を覚えるほど満天に広がる大小に輝く星たちは宇宙の鼓動とも例えられ、生命に等しくふりそぐその息吹は、私たちを重力から解放し、別の世界にいざなってくれるでしょう。

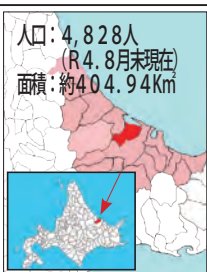
大西氏の作品展示舎「シ

本当の自然を、五感で感

佐呂間町とは

概要

オホーツクのほぼ中心に位置する佐呂間町は、サロマ湖と22,760haのまちの面積の半分以上を占める山林に囲まれた自然豊かな地域です。サロマ湖畔ではオホーツク特有の冷涼な気候であるものの、内陸部はマイナス30・3プラス39・5℃と寒暖差が激しく、過酷な自然環境となっています。そんな大きい寒暖差の中で育てられた農産物・海産物は絶品です。



○豊かな自然で行う農業
佐呂間町の産業の中心は農業で、特にオホーツクの冷涼な気候を活かした酪農が盛んで、サロマ和牛やサロマ豚四軒團というブランド肉が絶品です。
カボチャ栽培も盛んに行われていて、各農家から集められたカボチャは、JAサロマ南瓜選別加工工場では、出荷されるほか、硬くて調理が大変なカボチャを手軽に料理に使えるようパウダーやフレークに加工して販売しています。

○サロマ湖を活かした漁業
サロマ湖は、オホーツク海の海流や流水とともに運ばれてくるプランクトンなどの栄養が流れ込むことで水産資源に恵まれた環境となっています。
佐呂間町の漁業の中心は

ホタテ漁です。早くから浅海養殖に取り組み、現在のホタテ養殖技術の基礎を確立したホタテ養殖発祥の地がサロマ湖です。
以前は天然資源に頼っていたため、不漁や乱獲による魚介類の減少が懸念されていましたが、試験的に行われていたホタテ養殖が、1965年以降本格的に拡大し、安定供給を実現しました。
また、サロマ湖に面する湧別町・佐呂間町・北見市常呂町の3漁協では、サロマ湖養殖漁業協同組合を組織して徹底した資源管理を行うことで、ホタテの品質やサロマ湖の養殖環境を守り、未来を見据えた持続可能な取り組みを先進的に行っています。

○佐呂間町に拠点がある企業
森永乳業株式会社佐呂間工場には、オホーツクの中心という立地から周辺市町からも生乳が集められ、脱脂粉乳やバター、クリームに加工されています。この工場が北海道産乳製品ブランドの一大出荷拠点であり、地域雇用創出にも貢献するなど大きな役割を担っています。
佐呂間町には、広大な土地を活かしたトヨタやサロマテストコースがあります。気温が低く、降雪が比較的少ないため、さまざまな氷結路のテストを行えるコースで、東京ドーム約5個分の広さとなります。また、宮崎県都農町にもテストコースがあり、都農町と佐呂間町が経済交流の提携を結ぶきっかけにもなりました。

○さるまの歴史

佐呂間町は、1994年に開基百年、2022年現在で128周年を迎えたとこです。その始まりは、1894年に青森県出身の鈴木甚五郎氏が、川口東(現浜佐呂間)へ入植し定住したことが開基と伝わっています。当時はまだ佐呂間町ではなく「鑑沸(トウフツ)村」という名前で、20km離れた常呂村の行政範囲であったことから、徒歩か馬で悪路を3日ほどかけて行政手続きを行っていました。1914年4月1日、鑑沸村役場の開庁とともに北見国常呂郡鑑沸村として独立を果たしました。

町の取組み

第5期佐呂間町総合計画に掲げる「自然の恵みに感謝し、人が人を支え、共に創る、生涯の郷、サロマ」を目標として、自然豊かな大地を守り、自助・共助・公助の協働を重視した、すべての人にやさしい「まちづくり」を進めています。

○充実した子育て支援
育児の不安や負担を軽減するため、18歳までの医療費負担や各種児童手当、出産祝い金などの制度を整備しているほか、相談体制の充実、交流の場づくりを行うとともに、産後ケアや子どもが発達に合わせた支援体制など、妊娠・出産・子育て、どの場面でも安心できる環境づくりを進めています。

2022年4月には、「子

育て世代包括支援センター」を開設し、さらなる子育て支援の充実に取り組んでいます。

○無料の給食で食育！
教育費の負担軽減、教育環境の充実を目的に2021年4月から町内小中学校の給食費を無償化しました。それに続き、同年7月から佐呂間町の地場産品を使った献立を食べてもらう「ふるさと給食」という日を設定し、食を通じて地元の魅力を学べる取り組みを行っています。お便りの配布や、生産者から小学生へ生産のこだわりを説明してもらい、地元の産物を身近に感じてもらう工夫もしています。

○がんばる佐呂間高校生を支援！
佐呂間町では、2021年4月より新たな佐呂間高

等学校の存続対策事業として、生徒の就学等に関する経費の一部を助成しています。

・支援対策その1「佐呂間高等学校卒業生修学応援補助金」
佐呂間高等学校を卒業し、翌年度または翌々年度に大学や短大・専門学校へ進学する場合、大学は年額50万円、短大・専門学校は年額25万円の修学に関する資金を助成します。

・支援対策その2「佐呂間高等学校入学者給付金」
佐呂間高等学校入学者に對して、学校生活に必要な資金として一人一律10万円を給付します。

・支援対策その3「佐呂間高等学校卒業生就職等応援給付金」
佐呂間高等学校を卒業し、就職や就職のための学

校へ進学する方へその準備のための資金として一人一律10万円を給付します。

・支援対策その4「佐呂間高等学校在校生対象の教科書無償提供」
佐呂間高等学校が購入し提供する教科書を、

○ふるさと納税(寄附)
佐呂間町では、サロマ湖やオホーツク海の豊かな漁場で水揚げされる海の幸、広大な大地の恵みを受けて育まれた山の幸を返礼品として、ご寄付いただいた方にお届けしています。ホタテや牡蠣のイメージが強いかもしれませんが、春先にはウニ、夏にはアスパラ、年末には数の子も人気です。
また、佐呂間町の企業は、先駆的に農業HACC Pや食品安全マネジメント規格「JFS-IB」の認証を受けて、美味しさだけでなく消費者の安全にも力を入れているので、安心してご利用ください。

①森永北海道バター
②冷凍ホタテ貝柱
③エゾバ
④殻付
⑤玉ねぎ
⑥じゃがいもセット
※季節限定商品も
ございますので、
ご注意ください。



人気の返礼品



ふるさと納税
QRコード

森と湖のまち 佐呂間町

観光スポット

○サロマ湖展望台

サロマ湖展望台は、サロマ湖沿岸に位置している標高376メートルの幌岩山の山頂付近にあり、サロマ湖全体を見渡せる唯一の場所となっています。湖と海を隔てる砂州や遠くのオホーツク海、天気の良い日には知床連山までも見渡すことができます。ふもとの道の駅サロマ湖から歩いて行くことができるほか、展望台近くの駐車場まで車で行くことも可能です。

また、現在は展望台の改修工事を行っており、来年1月下旬頃(予定)まで、立ち入り禁止となっていますのでご留意ください。



○キムアネツプ岬

サロマ湖の東南に位置するキムアネツプ岬は、サロマ湖に沈む夕日を見るには絶好のスポットとなっています。また、原生植物の宝庫であることも見逃せないポイントです。初夏から秋にかけて、次々と変化する色とりどりの草花は、大地を赤く染めるサンゴソウ(アツ

ケシソウ)をはじめ、ハマナス、センダイハギ、ヒオウギアヤメなど、約50種類が咲き乱れます。また、冬が近づくとハクチョウの群れがサロマ湖に飛来し、羽休めしている姿を見ることが出来ます。岬

の近くにはキムアネツプキャンプ場があり、無料で利用することが出来ます。

キャンプ場内には炊事場やトイレはもちろん、コインシャワーも完備されており、安心してお使いいただけます。



<キムアネツプキャンプ場>



<サロマ湖に沈む夕日>

○佐呂間町サポーターズ倶楽部

今年で創設7周年を迎え、会員数3300名を突破した「佐呂間町サポーターズ倶楽部」は、佐呂間町に興味・関心を持っていただいている方に、会員登録していただく、いわゆる佐呂間町のファンクラブであり、四季のお便りなどを通じて、会員へ佐呂間町の情報を発信しています。また、会員特典が豊富で、佐呂間町マスケットキャラクタ「ももちゃん」のグッズ配布や協賛店での買い

○サロママップ
今年、佐呂間町の魅力紹介メディア「サロママップ」が開設され、大きな反響がありました。サロママップには佐呂間町の美味しいものから、季節のおすすりめスポット、お祭りやイベント情報まで、ありとあらゆる佐呂間町の情報が詰めこまれています。



www.saromap.com

特に、「地元民の行きつけ店」と題した飲食店紹介

物割引、会員限定抽選会の開催など、登録料無料でありながらメリットが多く、人気を博しています。ページでは、人気の商品のみならず、お店の歴史や店主の想いについても知ることが出来ます。



サポーターズ倶楽部
QRコード

他にも、サロマ湖の絶景を360度カメラで撮影した映像を見ることが出来るなど、ご自宅でも佐呂間町にいる気分を味わえます。

○町のキャラクター紹介

佐呂間町のマスケットキャラクター「ももちゃん」は、佐呂間町の特産品であるかぼちゃをモチーフとしており、特産品のホタテの帽子を常にかけています。なぜかぼちゃをモチーフとしているのに、名前が「ももちゃん」なのかという点、ももちゃんは平成6年に佐呂間町開基百年を記念して生まれたため、百年の「百(もも)」にちなんで「ももちゃん」と名付けられました。佐呂間町のようなPR活動にて活躍しています。

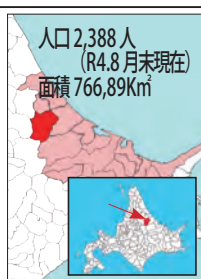


滝上町とは

○町について

オホーツク海から車で40分程の四方を山に囲まれた自然豊かなまちです。

この雄大な自然環境が多くの恵みが「林業」「農業」を盛んにし、そして芝さくらを中心とする「観光」と合わせ、まちの基幹産業となっています。ウエザーニュースによると、滝上町は平成の約30年間に起きた地震は最大震度が1のみ。地震が非常に少なく、日本で一番揺れない、安心安全に暮らせる町となっています。



○産業【林業】

町の約90パーセントを占める森林面積。自然と人との共生を求め、みどり豊かな森林づくりを進めています。



民有林の多面的機能の維持増進にむけて人工造林、下刈、間伐を行い、木材、木工品など生産しています。また、林業の若手担い手育成や木質バイオマス資源活用も行っています。

また、近年ではカーボンオフセットにも取り組み、緑豊かな林業の町として環境保全活動を積極的に取り組んでいます。

○産業【農業】

天塩岳から流れる渚滑川が、サクル川等の各支流を集めて貫流した土地であり、これらの流域が農耕に適しています。

適しています。地質は埴土、埴壤土の分布が多く、石れき地も多くみられます。現在は畑作や畜産が中心となつていきます。盆地特有の昼夜及び四季の寒暖の差が大きい気候は、畑作にとっては好条件であり、小麦、スイートコーン、薄荷(はっか)など生産しています。

畜産は乳牛のほか特色のある黒毛和種牛や七面鳥なども生産しています。

○童话村のまちづくり

平成2年から、人いきいき、町わくわく「童话村」たきのうえをコンセプトとしたまちづくりを進めています。私たちのまちを舞台とした童话が創られるような、素朴でちよっぴりお洒落なまちづくりを目指しています。

薄荷(はっか) 生産量日本一のまち

その昔、北海道の山間地は薄荷(はっか)栽培がさかんでした。時代が変わり、薄荷栽培は廃れてしまったのですが、滝上町は、今でも農業生産として栽培しており、その量は日本の農業生産の95%を占めています。滝上町はまさに「薄荷日本一」のまちです。まくハッカ栽培の歴史と今、栽培とあわせ医薬品、香料などに使うための薄荷油を抽出するため、博物館「コーナーで詳しく蒸留作業ご紹介しています。ぜひごも行ってご覧ください。



この作業も今では希少となっております。現在では6件の農家が栽培しており、栽培から精油まで一貫して生産を行っています。また、精油出荷のほか、精油を使った商品も開発・販売しています。



町の取組み

○移住定住対策

移住定住対策として、北海道移住促進協議会主催の北海道暮らしフェアにおいて、東京会場に出展し、町内における交流人口の増加に繋げています。

○滝上町ちよつと暮らし住宅

滝上町ちよつと暮らし住宅は、電化製品・家具等の生活備品が一通り揃っている短期移住体験住宅です。「北海道への移住に興味はあるが、まだ不安もある」



を体験してから移住を考えてみたい」という方は、ぜひご利用を検討されてはいかがでしょうか？一定期間滝上町での暮らしを体験することで、滝上町の魅力を知り、移住後の生活をイメージしていただければ幸いです。

○地域おこし協力隊

地域おこし協力隊は、2名の隊員により、観光を振興する地域活性化及び定住・定着に向けた活動、また、隊員それぞれが地域活動に参加し、地域資源の掘り起こしやフェイスブック等による町の魅力発信などに取り組んでいます。

○職員研修

まちづくりにおいて、職員能力の向上と幅広い視野を確保するために、「滝上町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で掲げる重要課

題である「移住・定住」に焦点を当て、政策を形成できる職員の養成を目的とした研修会を実施しています。また、町民を対象とした「移住・定住」のまちづくりセミナーを併せて開催しています。

○まち並み整備事業

町の景観形成を推進するため「景観ガイドプラン」に基づき、まち並み整備事業に取り組み、建物の色彩統一や危険廃屋の解体撤去等に対して補助金を支出しています。

○札幌滝上ふるさと会、関東滝上ふるさと会

担当課 まちづくり推進係
課 まちづくり推進係
電話番号：0158-29-2111
メールアドレス：
machidukuri@town.takinoue.hokkaido.jp

○ふるさと納税(寄附)

滝上町は北海道の北東部にあって、渚滑川の流に位置する小さな町です。先人が築き上げた日本一の芝ざくらをはじめとする滝上町にしかない魅力的な地域資源を将来にわたって守り発展させ、次の世代へ引き継いでいくため「滝上町ふるさとづくり寄附条例」を平成20年(2008年)に制定しました。この寄附の趣旨に賛同していただいた多くの皆様の想いを寄付金としてお受けし、その財源をもとに「ふるさと滝上」のまちづくりに取り組みしてまいります。皆様のご支援を心よりお待ちしております。

○寄附金の活用方法

- 1) 滝上町のシンボルである芝ざくらを、守り育てていくための事業
- 2) 恵まれた自然景観・環境を守るための植樹等の事業
- 3) 住民がまちづくりを進めるための地域活動の事業
- 4) その他町長が必要と認める事業



返礼品の一例

「香り彩る豊かなまち滝上町」

観光スポッポット

○芝ざくら滝上公園

滝上市街地の中央、高い丘にあるのが「芝ざくら滝上公園」です。5月上旬から6月上旬にかけて芝ざくら滝上公園一面に咲き誇る芝ざくら、「みかん箱一杯」の苗から始まりました。以来町民や町の努力により毎年増殖し、今では10万平方メートルの大群落になりました。そのスケールは、日本最大規模を誇ります。小



芝ざくら滝上公園の芝ざくら畑の風景

ドチップ舗装」の遊歩道

あり、高山植物や様々な樹木、野鳥など見ることができま



ドチップ舗装の遊歩道の風景



ハーブの里の建物

使ったソフトクリーム。ハーブを使ったメ

ハンバーガー、ピザなど。0158・29・3300

の景色が美しく、景勝地として親しまれています。滝上渓谷「錦仙峡」では、地元民によるガイド(有料)を行って

0158・29・3400

北見山地の主峰・天塩岳を源とする渚滑川は延長84kmになります。多くの支流を集めて滝上町を流れ、紋別市を経てオホーツク海にそそいでいます。語源はアイヌ語の「ソー・コツ」(滝の窪み＝滝つぼ)に由来。これは大小の滝が存在する滝上渓谷「錦仙峡」を指したものとされています。

は勇壮で美しく、景勝地として親しまれています。滝上渓谷「錦仙峡」では、地元民によるガイド(有料)を行って

0158・29・3400

0158・29・3400

釣りの皆さんに協力を呼

○陽圃園

約半世紀をかけ、園主・高橋武市氏がたった一人で大地に絵を描くように、木や花を植え、池を掘り、道をつくった。約8万平方メートルの敷地には約800種類の季節の花々が

0158・29・3400

釣りの皆さんに協力を呼

なく、甘い香りが街中を包み込みます。この芝ざくら丘陵地のすそ野を流れる渓谷とともに、旅人を夢幻の世界へと誘います。

○滝上渓谷「錦仙峡」(きんせんぎょつ)

滝上町の市街地を流れる渚滑川を称して滝上渓谷「錦仙峡」と呼んでいます。渚滑川は、市街地中央の虹の橋付近で支流



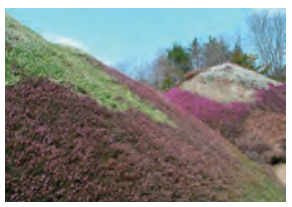
滝上町の市街地を流れる渚滑川

9月にかけてさわやかな香りと色とりどりのハーブが咲きそろう、楽しむことができます。薄荷とともに世界のハーブを見る・知る・触れることのできる癒しの空間です。

0158・29・3400

0158・29・3400

釣りの皆さんに協力を呼



陽圃園の園内風景



滝上町の市街地を流れる渚滑川

園内施設 駐車場 入園料等無料

0158・29・3400

0158・29・3400

釣りの皆さんに協力を呼

滝上町

たきののり

り、大小幾多の滝を作っています。やがて、流れは緩やかとなり静寂な空間が広がります。川の両岸に沿って足に優しい「ウツ

0158・29・3400

0158・29・3400

0158・29・3400

釣りの皆さんに協力を呼

○町のキャラクター紹介

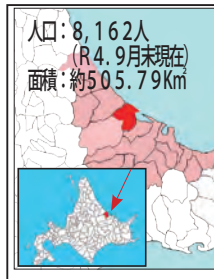
「ピッコロ」

「ピッコロ」

湧別町とは

概要
 北海道の北東部、オホーツク沿岸のほぼ中央に位置し、日本三大湖の一つで北海道最大の湖である網走国定公園サロマ湖に面しています。

豊かな自然環境に恵まれ、オホーツク管内で一番の頭数を誇る乳牛による酪農やかんがい排水により高品質で安定した生産量を誇る玉ねぎなどの畑作を中心とした農業と、漁獲量・品質ともに高い評価を得ているホタテガイや牡蠣などオホーツク海とサロマ湖に面



した利点を生かした沿岸・養殖を中心とした漁業、町内の敷地の7割を誇る豊かな森林資源を活用した林業などの第一次産業を基幹産業とする町です。

明治15年に開拓の鍬が下され、明治43年に分村してから100年の歳月を経て、隣町として身近な関係だった旧上湧別町と旧湧別町が平成21年10月5日に合併新法下において北海道唯一となる合併を果たしました。

四季を通じて小雨地域で、冬季の降雪量も比較的に少なく、自然災害が比較的に少ない町であり、安心した生活を送ることができま

○町の花「チューリップ」
 毎年5月上旬から6月上旬頃まで7万㎡の広大な花畑に約200品種の色とりどりのチューリップが咲き誇ります。チューリップ公園はもちろんですが、道路沿いや事業所、ご家庭の花壇などで植えられ町内の至る所で見ることができま

また、チューリップの妖精「チューリップ」と「リッパちゃん」は、各種施設やバス停、マンホールにも描かれるなど、町民から愛されています。

○町を守る正義のヒーロー「産業レンジャー」
 町の特産品をモチーフにした5人の正義のヒーロー「エビレッド」、「シャケブルー」、「コーンイエロー」、「ホタテホワイト」、「ウシブラック」が湧別の征服を

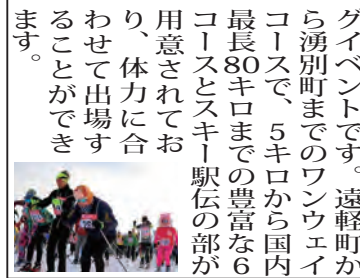
目論んでいる悪の「ヒトデマン」から守るため、町の平和を守るため活躍している。

毎年「産業まつり」でステージショーが行われおり、脚本、演出、衣装から大道具まで全て役場職員の有志が手作りで行っています。テレビ番組の出演のほか、町の看板やパンフレットなど、ありとあらゆるところで湧別の平和のために活躍する子どもから大人まで大人気の地元ヒーローです。

○特産品
 ホタテや牡蠣、ウニなどの水産物、玉ねぎなどの畑作物、乳製品のほかに、シカ肉のジビエ、テレビ番組や雑誌などでも多く紹介されている「オホーツクの塩ラ

湧別町をスタートし、サロマ湖を一周する100kmと50kmの鉄人レースで、ワールドカップも開かれた日本を代表するウルトラマラソン大会です。

白銀の湧別原野で開催されるオホーツクの冬のビッグイベントです。遠軽町から湧別町までのワンウェイコースで、5キロから国内最長80キロまでの豊富なコースとスキー 駅伝の部が用意されています。



町の取り組み

子どもたちが将来にわたって安心して生活できる町を目指して「子育て世代包括支援センター」を開設し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援をしています。

結婚新生活支援や不妊治療費の助成など妊娠前から、子育て用品の詰め合わせをプレゼントする育児、パッケージプレゼント事業、乳幼児世帯へのごみ袋支給や高校生までの医療費全額補助など子育てしやすい町を目指して支援をしています。

また、安定した教育環境を提供するために、認定こども園による幼児期から義務教育9年間を見通した小中一貫教育を一つの校舎で行う義務教育学校の設置

を進めています。令和5年4月に本町2校目の義務教育学校を開校し、令和6年度以降には全国でも珍しい町内すべての小中学校が義務教育学校となる3校目の開設を目指し、教育の充実を図っています。



○移住体験（ちよっと暮らし）
 1週間から3カ月以内の期間で、湧別町での暮らしを体験していただき、町の魅力や生活環境を知っていただくため、家具や電化製品をそろえた移住体験住宅をご用意しています。オホ

移住に
 関心がある方はお気軽にご相談ください。

を進めています。令和5年1ツク海やサロマ湖から採れる新鮮な魚介類が好評で7月〜9月は毎年ほぼ満室になり、シーズンステイの候補地として高い人気を博しています。

○奨学金返還支援
 湧別町に定住して町内の事業所等に就業する方を対象に、大学等への就学時に借り入れた奨学金の返還を支援する制度を令和2年度から開始しました。

最大10年間の返還を支援します。



○ふるさと納税（寄附）
 海産物をはじめ、流行りのジビエやその他加工品野菜などバラエティに富んだ返礼品を町内企業の皆さまが気持ちを込めて用意しています。

頂いたご寄附は、認定こども園・保育所などで提供している給食の無償化や町内観光施設整備、イベントの実施、新たに農業を始められる方の就農支援などに活用させていただきます。

詳しくは湧別町ホームページのふるさと納税ページをご覧ください。

人気の返礼品

- ① 牡蠣
- ② ホタテ
- ③ 玉ねぎ
- ④ 鹿肉



「オホーツク海とサロマ湖を望む チューリップのまち」

観光スポット

○かみゆうべつチューリップ公園
毎年5月上旬から6月上旬頃まで「チューリップフェア」が開催され、多くのお客さままで賑わいます。

毎年10月に町民の協力のもと手作業で球根が植えられ、例年5月中旬に見頃を迎えます。およそ200品種70万本のチューリップが咲き誇る風景は圧巻です。

オランダをモチーフにした園内には、レンガ調の風車やオランダ製ジャンボ靴などの「映える」撮影スポットがたくさんあり、運が良ければチューリップの妖精「チューピット」と「リップちゃん」に会うことができます。そのほか、園内を周遊する電動バスやチューリップの掘り取り販売、子どもから大人まで楽しめるイベントなども行われています。

周辺には、サンゴ草や水芭蕉などさまざまな景色を見ることが出来ます。



○流水・アイスブーム

毎年1月下旬になると流水がオホーツク海沿岸に押し寄せてきます。

サロマ湖内に流入してきた流水によりホタテやカキの養殖施設が破壊される被害を防ぐため、設置しているアイスブーム(防水堤

自生地、葦原など、季節ごとの景観を味わえる道となっています。



○Family 愛Land YOU・道の駅「愛ランド湧別」

国道238号沿いのサロマ湖を望む小高い丘に遊園地「Family 愛Land YOU」があります。

遊園地には、サイクルモノレール、グレートポセイドン、ゴーカートや日本最北の観覧車など、子どもから大人まで楽しめるアトラクションがたくさん揃っています。

また、遊園地に隣接して道の駅「愛ランド湧別」があり、1階の「遊Youぷ

広々とした庭園の中にも、ゆったりとリラックスすることが出来ます。泉質はナトリウム炭酸水素・塩化物泉で、効能は神経痛や疲労回復のほか、お肌がつるすべすべするうれしい効能もあります。



オホーツク管内・全道でも屈指の低料金で、ゆったりとプレーをお楽しみいただけます。

サロマ湖の西側に位置するサンゴ岬です。この岬の鶴沼という場所にサンゴ草の群生地があります。



○サロマ湖

道内最大、全国でも3番目に大きな湖で、周囲92kmの汽水湖です。

ホタテやカキの養殖、ホツカイシマエビ(現在は禁漁中)の漁が行われています。



龍宮台展望台(龍宮街道)は世界で初めて海水に対応したものです。

また、目の前には三里浜キャンプ場もあり、湧別市街から三里浜キャンプ場へと伸びる道は、龍宮街道と呼ばれる約12kmの観光ルートとなっています。

また、目の前には三里浜キャンプ場もあり、湧別市街から三里浜キャンプ場へと伸びる道は、龍宮街道と呼ばれる約12kmの観光ルートとなっています。

らぎ」では湧別町の特産品が販売されており、2階の「レストラン彩湖」では湧別で採れた新鮮な素材を使った料理を味わうことができます。



○道の駅「かみゆうべつ温泉チューリップの湯」

道の駅を備える日帰り入浴施設(天然温泉)です。施設内にはレストランやお土産店も併設されています。

お風呂は、洋風の石材壁造りと和風のヒノキ造りがあり男女日替わりとなりま

18床を整備しており、緑豊かな林間環境の中で自然観察やバードウォッチングを楽しめます。近年のキャンプブームによって、



○ふるさと館JRY

町の開拓の礎「屯田兵」の博物館です。

昔懐かしい日常道具、湧別屯田兵の歴史を伝える資料や精巧な模型(オラマ)などが展示され、北海道遺産に認定された「屯田兵屋」が再現されています。

「屯田兵屋」は100年以上前に使われていた貴重なものです。

年間の公益事業・行事など

新年交礼会開催（1月）

北方領土返還推進運動「ブラウンリボンバッジ」キャンペーン
「千島桜」シンボルバッジキャンペーン
「北海道新幹線早期実現」「新幹線バッジ」キャンペーン
「ふるさと納税推進」キャンペーンなどの年初スタートを実施。

「北方領土返還要求全国大会」に参加（2月7日 北方領土の日）

「北方領土返還要求中央アピール行進」に参加（12月1日）

交流の夕べを開催（8月4日）

キャンペーン、北海道等の広報を目的とした夏の交流事業を実施。

交流イベント「We Love Hokkaido」の開催（旧道産子の会、10月）

北海道関係者、北海道ファン、一般参加者2～300名、有料
キャンペーン、公益事業の広報、地域活性化イベントなどを実施。

講演会、シンポジウムの開催（無料）

当倶楽部の公益事業と関連した講演テーマを検討する。一般の参加歓迎（講演テーマ、行政との協調などにより公益性のあるものとし、一般参加を呼びかける。）

情報紙「北海道“NOW”」の発行・配布

倶楽部の事業に係る広報のため、情報紙「北海道“NOW”」本紙・増刊号 年12回）を発行。一般配布（有料 月額80円）有り。

「北海道の市と町と村をご紹介します（WEB版）」の発行・配布

本誌

北海道情報ラックに北海道情報を配布（毎月、無料）

ホームページで倶楽部公益事業を広報（適時）

その他

倶楽部内交流の同好会の活動に協力。（独立運営・会計、北星会（ゴルフ））

※青字記載の対面型の事業は新型コロナウイルスの影響のため2020～21年は中止となったが再開しつつある。

（新年交礼会：2023年は開催）



「摩周湖」（弟子屈町）



入会希望の方は定款 ([HP](#) にあります) をご了承の上、
下記申込書を A4 にコピーし、ご記入の上郵送下さい。

入会案内のページ

上記ページを参照し、ホームページ上からも、各申込書のダウンロード及び入力送信が出来ます。(QR コードを読みとるかクリックも可)

正会員の入会申込後、直近の理事会での入会承認後、入会のご連絡と入会金(5千円)年会費(15千円)納入のお願いを差し上げます。

公益社団法人北海道倶楽部

正会員

入会申込書 登録事項変更申込書

申込年月日 西暦 年 月 日		印
ふりがな		
氏名		
生年月日 <input type="radio"/> 大 <input type="radio"/> 昭 <input type="radio"/> 平 年 月 日		
新規登録、変更は下記に記入/会員抹消は氏名のみ記入		
連絡先は <input type="checkbox"/> 勤務先・ <input type="checkbox"/> 自宅とします。 会報、郵送物の送付先を指定。(左記 <input type="checkbox"/> にチェック)		
勤務先	会社名(ふりがな)	
	役職名	
	住所 〒(-)	
	電話 - - FAX - -	
	業種	
連絡用mail @		
自宅 <small>はチェック 名簿非掲載希望</small> <input type="checkbox"/>	住所 〒(-)	
	電話 - - FAX - -	
出身地	<input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> 町 <input type="radio"/> 村	最終学校 北海道との関係
関心分野 <small>各1個</small>	支援 <input type="checkbox"/> 総務 <input type="checkbox"/> 広報 <input type="checkbox"/> 北方領土返還 <input type="checkbox"/> 地域活性化・ふるさと納税 <input type="checkbox"/> 新幹線延伸	
	事業 <input type="checkbox"/> 新年交礼会 <input type="checkbox"/> 交流の夕べ <input type="checkbox"/> 北海道フェア <input type="checkbox"/> 交流イベント	
趣味 <input type="checkbox"/> ゴルフ <input type="checkbox"/> 囲碁 その他()		
紹介会員 (1)		(2)
事務局使用欄		会員ID _____
理事会承認日 年 月 日		入力完了日 年 月 日